

平成 5 年度

三重県埋蔵文化財センター年報 5

1994・3

三重県埋蔵文化財センター

はじめに

埋蔵文化財の発掘調査により発見された新たな事実は、私たちの歴史に対するロマンをかき立ててくれます。本年度も、県内各地で開催された現地説明会や展示会等を通じて多くの方々に埋蔵文化財保護に対するご理解や興味を深めていただくことができたものと思っております。

この冊子は、三重県内で本年度に実施された各種の発掘調査と当埋蔵文化財センターの事業内容を簡単にまとめたものですが、今後の埋蔵文化財保護と活用の一助として、ご活用いただければ幸いに存じます。

埋蔵文化財を守り、伝えていくことは、次代への大きな課題ですが、当埋蔵文化財センターでは、あらゆる機会を通して埋蔵文化財の保護・活用に務めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、本冊子の作成にあたり、ご指導ご協力をいただきました関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成6年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 久保 富子

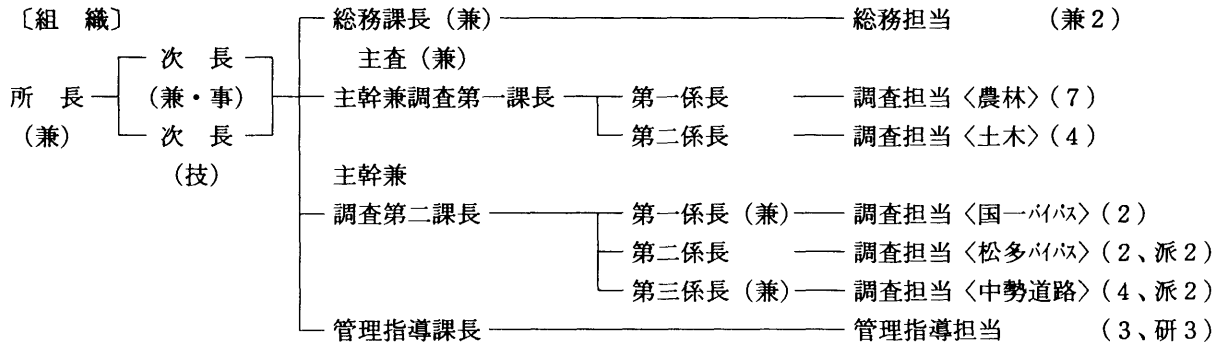
例 言

1. この冊子は、平成5年度における三重県内の発掘調査の概要と三重県埋蔵文化財センターの事業概要をまとめたものである。
2. II. 平成5年度緊急発掘調査については、平成5年度の三重県下における発掘調査の概要として、三重県埋蔵文化財センター担当の発掘調査成果および、斎宮歴史博物館・県内市町村担当の発掘調査成果もあわせて収録した。なお、各遺跡の緊急発掘調査の概要については、それぞれの発掘調査担当者の協力を得た。
3. 本冊子の編集は、関係機関及び各位の協力を得て、管理指導課が中心となって行った。

目 次

I 組織及び業務体系	1
II 平成5年度緊急発掘調査	4
1. 緊急発掘調査一覧	4
2. 発掘調査の概要	12
III 埋蔵文化財保護体制の充実	75
1. 各種会議	75
2. 埋蔵文化財発掘技術者研修	76
3. 市町村事業等への指導・協力	79
IV 資料の整理・保管・公開	83
1. 資料の整理・保管	83
2. 科学的保存処理	83
3. 資料の公開	83
4. 保管遺物等の貸出・写真等の掲載許可	87
5. 保管遺物の長期貸出	89
6. 斎宮歴史博物館展示品協力遺物一覧	90
V 行政資料	91
1. 埋蔵文化財関係の事務処理の迅速適正化について（文化庁通知）	91
2. 埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化について（ 〃 ）	92
3. 県・市町村別の発掘調査件数および面積の実績	94
4. 平成5年度新発見遺跡一覧	95
《付 編》	
1. 三重県文化財調査員名簿	96

I. 組織及び業務体系



職員数 43名 (兼務7名、専任30名、派遣4名、研修3名)

〔分掌事務〕

総務課

1. 公印の管理に関する事
2. 職員の身分及び服務に関する事
3. 予算及び経理に関する事
4. 給与及び旅費等の支給に関する事
5. 契約及び入札事務に関する事
6. 施設、設備の保守管理に関する事
7. 文書の収発に関する事
8. 職員の健康、福利厚生に関する事
9. 防災管理に関する事
10. その他他課に属さないこと

調査第一課

1. 埋蔵文化財保護にかかる文化振興課ならびに関係部局との連絡調整に関する事
2. 県関係公共事業における埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関する事
3. 市町村埋蔵文化財保護の指導に関する事

調査第二課

1. 国道1号亀山バイパスに関する埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関する事
2. 国道23号中勢道路に関する埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関する事
3. 国道42号松阪多気バイパスに関する埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関する事
4. 建設省、日本道路公団との調整協議と事務処理に関する事

管理指導課

1. 遺物収納倉庫の管理に関する事
2. 整理済み出土品の収蔵及び保管に関する事
3. 遺跡及び遺物の実測図・写真等の整理及び保管に関する事
4. 関係図書等の整理及び保管に関する事
5. 遺跡台帳、遺跡地図の整備及び保管に関する事
6. 出土品の洗浄・注記・接合・復元及び実測等に関する事
7. 出土品の科学的保存処理に関する事
8. 埋蔵文化財展・埋蔵文化財発掘調査速報展に関する事
9. 遺跡及び遺物等資料の貸出、掲載許可等に関する事

10. センター通信及び埋蔵文化財年報等の刊行に関する事
11. 埋蔵文化財行政調査等に関する事
12. 市町村の埋蔵文化財調査・文化財展等の指導及び協力に関する事
13. 埋蔵文化財発掘調査技術の研修に関する事
14. 埋蔵文化財センター内外の各種会議に関する事

〔職員〕

所長	久保 富子	(斎宮歴史博物館館長兼務)			
次長(事務)	若林 祥男	(斎宮歴史博物館次長兼務)			
〃(技術)	山澤 義貴				
総務課				調査第2課	
課長	小柳 清	(斎宮歴史博物館兼務)		主幹兼課長	伊藤 克幸
主査	池野 加代子	(〃)		主査	倉田 直純 (第1・第3係長兼務)
主事	堀内 稔伸	(〃)		第1係	
〃	伊藤 直樹	(〃)		係長	倉田 直純 (主査・第3係長兼務)
調査第1課				主事	森川 幸雄
課長	山田 猛			〃	岸田 早苗
第1係				第2係	
係長	河北 秀実			係長	田村 陽一
主事	吉澤 良			主事	東 良樹
〃	森川 常厚			〃	宇河 雅之
〃	石川 隆朗			〃	西村 修久 (多気町から派遣)
〃	上村 安生			〃	小浜 学 (松阪市から派遣)
〃	筒井 正明			第3係	
〃	浜口 元			係長	倉田 直純 (主査・第1係長兼務)
技師	竹内 英昭			主事	清水 正明
第2係				〃	本堂 弘之
係長	泉 雄二			〃	小菅 文裕
主事	高崎 仁			〃	山口 格 (津市から派遣)
〃	小林 秀			〃	中村 光司 (津市から派遣)
〃	服部 芳人			技師	穂積 裕昌
〃	竹田 憲治			管理指導課	
臨時技術補助員				課長	新田 洋
山口 順也				主事	前川 嘉宏
				〃	福田 哲也
				技師	野口 美幸
				研修員	吉田 利弘
				〃	稲森 剛
				〃	船越 重伸

〔施設〕

三重県埋蔵文化財センター

所在地 多気郡明和町竹川503番地

TEL 05965-2-1732・3800 FAX 05965-2-3724

面積 敷地面積 18,000 m²

建築面積 4,537 m²

延床面積 5,077 m²

構造 鉄筋コンクリート造 1階（1部2階）建

（建物は斎宮歴史博物館と共用）

遺物収納倉庫

桜橋収納倉庫 津市桜橋2丁目126 TEL 0592-27-2465

藤方収納倉庫 津市藤方2283-1 TEL 0592-24-4560

上野収納倉庫 上野市丸之内117 TEL 0595-24-0079

現場整理所

国道42号松阪・多気バイパス整理所

松阪市射和町16-1

TEL 0598-29-4643 FAX 0598-29-4553

国道23号中勢道路整理所

津市納所町字西沢田481

TEL 0592-29-2770 FAX 0592-29-2771

II. 平成5年度緊急発掘調査

1. 緊急発掘調査調査一覧

本年度、当埋蔵文化財センターが実施した発掘調査は106遺跡、約60,200㎡、（試掘調査含む）、齋宮歴史博物館調査が約4,800㎡、市町村教育委員会が実施した発掘調査は94遺跡、約90,700㎡である。これらのほとんどは開発事業に伴う事前の緊急発掘調査であるが、遺跡の解明あるいは、保存整備のための調査も、齋宮跡等で実施している。

県（埋蔵文化財センター）担当分

（※は国費補助事業）

No.	遺跡名	所在地	原因	費用負担
1	石薬師東26号墳	鈴鹿市石薬師町字寺東	消防学校建設	県総務部
2	磐城山遺跡、 磐城山1・2号墳	鈴鹿市木田町磐城山	道路改良	県土木部
3	金谷遺跡	安芸郡芸濃町椋本	県営ほ場整備	県農林水産部
4	小屋城古墳群 (南神山8号墳)	安芸郡安濃町南神山字井上	道路改良	県土木部
5	風呂ノ谷遺跡	安芸郡美里村北長野字風呂ノ谷	県営ほ場整備	県農林水産部
6	大洞遺跡	安芸郡美里村北長野字大洞	県営ほ場整備	県農林水産部
7	細野遺跡	安芸郡美里村北長野字細野	県営ほ場整備	県農林水産部
8	大里西沖遺跡	津市大里睦合町字西沖	県営ほ場整備	(県教育委員会※ 県農林水産部)
9	六大B遺跡	津市大里窪田町字出口	中勢道路建設	建設省
10	大垣内遺跡	津市大里窪田町字大垣内	道路改良	県土木部
11-1	大古曾遺跡	津市大里窪田町字橋垣内	中勢道路建設	建設省
11-2	大古曾遺跡	津市一身田大古曾字山ノ口	中勢道路建設	建設省
12	宮ノ前遺跡	津市長岡町字宮ノ前	中勢道路建設	建設省
13	下村五間田遺跡	久居市榑原町字五間田	県営ほ場整備	県農林水産部
14	東川遺跡 (小松遺跡)	一志郡美杉村八知字東川・白棍	畜産環境整備	(県教育委員会※ 県農林水産部)
15-1	鴻ノ木遺跡	松阪市射和町字延命寺垣外	松阪多気バイパス建設	建設省
15-2	鴻ノ木遺跡	松阪市中万町字引場	松阪多気バイパス建設	建設省
16	鳥墓遺跡	多気郡明和町養村	県営ほ場整備	県農林水産部
17	北野遺跡	多気郡多気町明星・養村	県営ほ場整備	(県教育委員会※ 県農林水産部)
18-1	巢護遺跡(多気 郡条里遺跡)	多気郡多気町荒蒔字巢護ほか	松阪多気バイパス建設	建設省
18-2	巢護遺跡(荒蒔 条里遺構)	多気郡多気町荒蒔・相可	道路改良	県土木部
19	上ノ垣外遺跡	多気郡多気町荒蒔字上ノ垣外	松阪多気バイパス建設	建設省
20	明気窯跡群	多気郡多気町相可字明気	松阪多気バイパス建設	建設省
21	向村遺跡	度会郡度会町立花	県営ほ場整備	県農林水産部
22	城ノ前遺跡	度会郡度会町和井野	県営ほ場整備	県農林水産部
23	高塚宅跡	阿山郡伊賀町愛田	広域農道	県農林水産部
24	伊賀国府跡	上野市坂ノ下・外山	県営ほ場整備	(県教育委員会※ 県農林水産部)
25	六地藏A遺跡	名賀郡青山町下川原	県営ほ場整備	(県教育委員会※ 県農林水産部)

26	六地藏B遺跡	名賀郡青山町下川原	県営ほ場整備	(県教育委員会※ 県農林水産部
27	久保遺跡	名賀郡青山町下川原	県営ほ場整備	県農林水産部
28	川南D遺跡	名賀郡青山町勝地字川南	道路改良	県土木部
29	勝地中世墓群	名賀郡青山町妙楽寺砂田	道路改良	県土木部

県（埋蔵文化財センター）担当分試掘

ア-1	玉垣内遺跡	員弁郡藤原町山口字玉垣内	県営ほ場整備	県農林水産部
ア-2	玉垣内遺跡	員弁郡藤原町山口字玉垣内	道路改良	県土木部
イ	垣内遺跡	員弁郡北勢町一之坂	公害防除	県農林水産部
ウ	石佛東遺跡 (吹上遺跡)	員弁郡大安町南金井字石佛東	県営農村環境	県農林水産部
エ	居敷1号墳	鈴鹿市津賀町居敷	道路改良	県土木部
オ	敷田遺跡 (別所遺跡)	鈴鹿市徳居町	道路改良	県土木部
カ	天水遺跡	鈴鹿市小田町天水	県営ほ場整備	県農林水産部
キ	国分東遺跡	鈴鹿市国分町	道路改良	県土木部
ク	長者屋敷遺跡	鈴鹿市広瀬町 亀山市能褒野町	開拓地整備	県農林水産部
ケ	峰城跡	亀山市川崎町	広域農道	県農林水産部
コ	堂殿遺跡	亀山市川崎町	広域農道	県農林水産部
サ	東屋敷遺跡	亀山市両尾町	道路改良	県土木部
シ	大藪C遺跡	亀山市亀田町大藪	道路改良	県土木部
ス	仮)石上寺境内 遺跡	亀山市和田町	道路改良	県土木部
セ	山王遺跡	安芸郡河芸町南黒田字山王	中勢道路建設	建設省
ソ	丸市遺跡	安芸郡河芸町南黒田字丸市	中勢道路建設	建設省
タ	内垣内遺跡	安芸郡河芸町南黒田字内垣内	中勢道路建設	建設省
チ	藤ノ山遺跡	安芸郡芸濃町椋本	県営ほ場整備	県農林水産部
ツ	南神山遺跡	安芸郡安濃町南神山	道路改良	県土木部
テ	風呂ノ谷遺跡	安芸郡美里村字風呂ノ谷	県営ほ場整備	県農林水産部
ト	大洞遺跡	安芸郡美里村字大洞	県営ほ場整備	県農林水産部
ナ	細野遺跡	安芸郡美里村字細野	県営ほ場整備	県農林水産部
ニ	天堤古墳	津市大里陸合町字天堤	中勢道路建設	建設省
ヌ	河崎遺跡	津市大里陸合町字河崎	中勢道路建設	建設省
ネ	六大A遺跡	津市大里窪田町字花村	中勢道路建設	建設省
ノ	大古曾遺跡	津市一身田大古曾字山ノ口	市道改良	建設省
ハ	一身田小学校校 庭遺跡	津市一身田大古曾	道路改良	県土木部
ヒ	尺ヶ寺遺跡	久居市榑原町尺ヶ寺	県営ほ場整備	県農林水産部
フ	古墳状隆起	久居市榑原町岡の前	県営ほ場整備	県農林水産部
ヘ	上安子遺跡	久居市榑原町上安子	県営ほ場整備	県農林水産部
ホ	砂田A遺跡 (砂田遺跡)	久居市榑原町砂田	県営ほ場整備	県農林水産部
マ	仮)砂田B遺跡	久居市榑原町砂田	県営ほ場整備	県農林水産部
ミ	釜生田遺跡	一志郡嬉野町釜生田	県営ほ場整備	県農林水産部
ム	仮)松阪・久居 線遺跡	一志郡嬉野町黒野	道路改良	県土木部
メ	馬場遺跡	一志郡美杉村下多気	道路改良	県土木部
モ	大久保遺跡	松阪市六根町大久保	県営ほ場整備	県農林水産部
ヤ	松葉遺跡	多気郡勢和村波多瀬	畜産環境整備	県農林水産部
ユ	馬場遺跡	多気郡勢和村波多瀬	畜産環境整備	県農林水産部

コ	野垣内遺跡	松阪市高木町野垣内	県営ほ場整備	県農林水産部
ラ	岡遺跡	松阪市西野町岡	県営ほ場整備	県農林水産部
リ	せぎ遺跡	松阪市西野町せぎ	県営ほ場整備	県農林水産部
ル	菅生遺跡	松阪市菅生町	県営ほ場整備	県農林水産部
レ	堀町遺跡	松阪市朝田町字平田・堀町・斎宮	松阪多気バイパス建設	建設省
ロ	仮)六呂木遺跡 (頂塚山遺跡)	松阪市六呂木町北出	道路改良	県土木部
ワ	北野遺跡	多気郡明和町蓑村	県営ほ場整備	県農林水産部
ヲ	曾祢崎遺跡	多気郡明和町上野	県営ほ場整備	県農林水産部
ン	新徳寺遺跡	多気郡多気町相可字新徳寺	松阪多気バイパス建設	建設省
あ	仁田遺跡	多気郡多気町仁田	道路改良	県土木部
い	片倉氏館跡	多気郡多気町四神田	道路改良	県土木部
う	刀禰屋敷遺跡	伊勢市中村町	道路改良	県土木部
え	仮)岡村古墳	度会郡玉城町下田辺字高岡	道路改良	県土木部
お	山崎館跡	度会郡度会町立花字山崎	県営ほ場整備	県農林水産部
か	東出遺跡	度会郡度会町東出	県営ほ場整備	県農林水産部
き	奇良田遺跡	度会郡度会町奇良田	県営ほ場整備	県農林水産部
く	沖ノ下遺跡	度会郡度会町沖ノ下	県営ほ場整備	県農林水産部
け	中村遺跡	度会郡度会町中村	県営ほ場整備	県農林水産部
こ	仮)細越遺跡	志摩郡浜島町南張	県営ほ場整備	県農林水産部
さ	茂原遺跡	度会郡宮川村茂原	県立学校寮建設	県教育委員会
し	宇原野遺跡	南牟婁郡御浜町下市木	県営ほ場整備	県農林水産部
す	仮)鮎田古墳	南牟婁郡紀宝町鮎田	道路改良	県土木部
せ	丸柱遺跡	阿山郡阿山町丸柱	道路改良	県土木部
そ	向出遺跡	阿山郡阿山町字石川	道路改良	県土木部
た	奥知氏館跡	上野市山神字東出	地すべり事業	県農林水産部
ち	井戸地遺跡	上野市土橋字井戸地	県営ほ場整備	県農林水産部
つ	北出遺跡	上野市山神字北出	県営ほ場整備	県農林水産部
て	久保遺跡	上野市山神字久保	県営ほ場整備	県農林水産部
と	火山遺跡	上野市山神字火山	県営ほ場整備	県農林水産部
な	西出遺跡	上野市山神字西出	県営ほ場整備	県農林水産部
に	城屋敷跡	上野市山神	県営ほ場整備	県農林水産部
ぬ	仮)西高倉遺跡	上野市西高倉	道路改良	県土木部
ね	横尾遺跡	上野市安場西横尾	道路改良	県土木部
の	仮)西横尾遺跡 (安場古墳)	上野市安場西横尾	道路改良	県土木部
は	市場遺跡	上野市上神戸	道路改良	県土木部
ひ	仮)三軒家城跡	上野市三軒家	道路改良	県土木部
ふ	和田遺跡	上野市喰代	道路改良	県土木部
へ	仮)川南遺跡	阿山郡島ヶ原村字川南	道路改良	県土木部
ほ	東追付遺跡	阿山郡島ヶ原村大道	道路改良	県土木部
ま	高寺遺跡	名賀郡青山町伊勢路	県営ほ場整備	県農林水産部
み	六地藏B遺跡	名賀郡青山町伊勢路	県営ほ場整備	県農林水産部
む	六地藏C遺跡	名賀郡青山町伊勢路	県営ほ場整備	県農林水産部
め	仮)伊勢路D遺跡	名賀郡青山町伊勢路	県営ほ場整備	県農林水産部
も	宮ノ後遺跡	名張市中村字宮ノ後	広域農道	県農林水産部
や	上小波田遺跡	名張市上小波田	広域農道	県農林水産部
ゆ	深ヶ遺跡	名張市滝之原字深ヶ	県営ほ場整備	県農林水産部

県埋蔵文化財センター担当の緊急発掘調査

(平成5年)

事業名		件数	調査面積
直 営	県営圃場整備事業関係	63件	25,300㎡
	国・県道路改良事業関係	33	12,000
	その他の	2	1,400
受 託	国道1号線バイパス建設関係	0	0
	中勢道路建設関係	11	9,600
	国道42号線	7	11,900
計		116	60,200

※ 同一遺跡を調査した場合も、調査機関・原因が異なる場合は別件とした。

県（斎宮歴史博物館）担当分

No.	30	斎宮跡※	重要遺跡確認	斎宮歴史博物館	H5.4.5～H6.3.31	3,080㎡
-----	----	------	--------	---------	----------------	--------

調査 回数	調査面積 (㎡)	調査期間	地番・地籍	備考
99	740	H5.4.5～7.13	明和町斎宮字内山3046-11 他	計画発掘調査
100	280	H5.7.19～10.13	〃 竹川字中中垣内423	〃
101	540	H5.7.19～10.13	〃 斎宮字篠林3194 他	〃
103	1,170	H5.10.4～6.1.25	〃 〃 字柳原2779-3 他	〃
104	350	H6.1.31～6.3.31	〃 〃 字笛川 他	〃

No.	30	斎宮跡 ※	史跡現状変更	明和町	H5.4.9～H6.3.31	1,680㎡
-----	----	-------	--------	-----	----------------	--------

調査 回数	調査面積 (㎡)	調査期間	地番・地籍	原因	調査機関
102-1	60	H5.4.9～4.23	明和町斎宮字木葉山	車庫兼物置の新築	斎宮歴史博物館
102-2	90	H5.6.16～7.26	〃 〃 字楽殿	個人住宅の新築	〃
102-3	390	H5.5.11～3.31	〃 竹川字花園633-1他	盛土工事	〃
102-4	50	H5.9.17～9.30	〃 〃 字東裏365-1	個人住宅の新築	〃
102-5	260	H5.10.12～11.25	〃 〃 字中垣内	住居兼店舗の新築	〃
102-6	270	H5.12.16～1.13	〃 斎宮字鍛冶山地内	側溝の改修	〃
102-7	250	H6.2.2～3.31	〃 竹川字東裏	個人住宅の新築	〃
102-8	310	H6.2.3～3.7	〃 斎宮字楽殿地内	側溝の新設	〃

市町村担当分

(※は国費補助事業)

No.	遺跡名	所在地	原因	調査主体	費用負担
3 1	若林遺跡	桑名市大字蓮華寺字若林	鉄塔建設	市教委	事業者
3 2	安永城跡	桑名市大字安永	住宅建設	市教委	事業者
3 3	平尾城跡	四日市市平尾町	市道建設	市遺跡調査会	事業者
3 4	西野山遺跡	四日市市南小松町字西野山	工場建設	市教委	事業者
35-1	西野遺跡	四日市市南小松町字西野	工場建設	市教委	事業者
35-2	西野遺跡	四日市市南小松町字西野	工場建設	市遺跡調査会	事業者
3 6	西野古墳群	四日市市南小松町字西野	工場建設	市遺跡調査会	事業者
37-1	西ヶ谷遺跡	四日市市東坂部町字西ヶ谷	住宅団地建設	市遺跡調査会	事業者
37-2	西ヶ谷遺跡	四日市市山之一色町字堂前	耕地整理	市教委	事業者
3 8	茶白山4号墳	四日市市大字泊山字盆井	地中送電線建設	市遺跡調査会	事業者
3 9	浄裕遺跡	四日市市中川原三丁目	共同住宅建設	市遺跡調査会	事業者
4 0	真造寺遺跡	四日市市小牧町字真造寺	土地区画整理	市遺跡調査会	事業者
4 1	小方縄遺跡	四日市市大治田三丁目	工場建設	市教委	事業者
42-1	米田遺跡	四日市市小古曾三丁目	店舗建設	市教委	事業者
42-2	米田遺跡	四日市市小古曾三丁目	店舗建設	市遺跡調査会	事業者
4 3	市場城跡	四日市市市場町字大屋敷	宅地造成	市教委	事業者
4 4	西台古墳	四日市市河原田町	宅地造成	市教委	事業者
4 5	小判田遺跡	四日市市久保田一丁目	宅地造成	市教委	事業者
4 6	赤堀城跡	四日市市城西町	共同住宅建設	市教委	事業者
4 7	藤池遺跡	四日市市西坂部町	土地造成	市教委	事業者
4 8	落川原遺跡	四日市市西坂部町	宅地造成	市教委	事業者
4 9	海星学園内遺跡	四日市市泊小柳町	店舗建設	市教委	事業者
5 0	縄生廃寺跡	朝日町縄生字中谷	学術調査	町教委	町※
5 1	徳居33・34号窯跡	鈴鹿市郡山町字西高山	宅地造営	市遺跡調査会	事業者
52-1	長者屋敷遺跡	鈴鹿市広瀬町字丸内	住宅建築	市教委	市
52-2	長者屋敷遺跡	鈴鹿市広瀬町字矢下・仲起	学術調査	市教委	市※
5 3	津賀東部遺跡	鈴鹿市高塚町字神垣	住宅建築	市教委	市
5 4	八野遺跡	鈴鹿市八野町字北川原	専門学校建設	市遺跡調査会	事業者
5 5	石薬師東遺跡	鈴鹿市石薬師町字寺東	学校建設	市教委・県教委	県総務部
5 6	国府A遺跡	鈴鹿市国府町字西ノ条	住宅建築	市教委	市
5 7	西ノ野遺跡	鈴鹿市国府町字西ノ野	集会所建築	市教委	市
5 8	岸岡山II遺跡	鈴鹿市岸岡町字大門	区画整理	市教委	市
5 9	天王屋敷遺跡	鈴鹿市玉垣町字山神戸	宅地造成	市教委	市
6 0	神戸中学校遺跡	鈴鹿市十宮四丁目	グラウンド改修	市遺跡調査会	市
6 1	国分西遺跡	鈴鹿市国分町字西浦	住宅建築	市教委	市
6 2	伊勢国分寺跡・国分遺跡・国分西遺跡	鈴鹿市国分町字西浦・北条・西高木	学術調査	市教委	市※
6 3	国分東遺跡	鈴鹿市国分町字孫作	住宅建築	市教委	市
6 4	西ノ岡A遺跡	鈴鹿市高岡町字西ノ岡	区画整理	市教委	事業者
6 5	天王屋敷遺跡・大口野遺跡・石塚古墳	鈴鹿市岸岡町・鈴鹿市玉垣町	区画整理	市遺跡調査会	市
6 6	岸岡山15～21号墳	鈴鹿市岸岡町字見当山・北山越	公園造成	市教委	市
6 7	国分北遺跡	鈴鹿市国分町字八幡前	道路改修	市教委	市
6 8	津賀平遺跡	鈴鹿市津賀町字地ノ坪	農業関連施設建設	市教委	事業者
6 9	野田遺跡	鈴鹿市稲生町字長尾	工場建築	市教委	市
7 0	西ノ城戸B遺跡	鈴鹿市国府町字番場	住宅建築	市教委	市
7 1	起A遺跡	鈴鹿市安塚町字宮塚	住宅建築	市教委	市

7 2	北中大野遺跡	鈴鹿市三畑町字北中大野	住宅建築	市教委	市
7 3	須賀遺跡	鈴鹿市須賀一丁目	住宅建築	市教委	事業者
74-1	若宮遺跡	亀山市田村町若宮	排水処理場建設	市教委	市
74-2	若宮遺跡	亀山市田村町若宮	農道整備	市教委	市
75-1	陰涼寺遺跡	亀山市北鹿島町	道路改良	市教委	県土木部
75-2	陰涼寺遺跡	亀山市北鹿島町	宅地造成	市教委	事業者
7 6	亀山城跡	亀山市東丸町東丸	道路改良	市教委	市
7 7	山添遺跡	安芸郡安濃町大字清水	宅地造成	町遺跡調査会	事業者
7 8	西相野遺跡	安芸郡安濃町大字草生	団地造成	町遺跡調査会	町
7 9	垂水城跡	津市大字垂水字井戸谷	宅地造成	市教委	事業者
8 0	四ッ野古墳	津市高茶屋小森町字四ッ野	墓地造成	市教委	事業者
8 1	四ッ野B遺跡	津市高茶屋小森町字四ッ野	墓地造成	市教委	事業者
8 2	大古曾遺跡	津市一身田大古曾	宅地造成	市教委	事業者
8 3	庄田第1号墳	久居市庄田町	道路改良	市教委	県土木部
8 4	久居城址	久居市西鷹跡町	道路改良	市教委	県土木部
8 5	木造城址	久居市木造	農道整備	市教委	県農林水産部
8 6	片部遺跡	嬉野町中川	土地区画整理	町教委	事業者
8 7	小川城跡	嬉野町中川	土地区画整理	町教委	事業者
8 8	五反田遺跡	嬉野町中川	土地区画整理	町教委	事業者
8 9	天白遺跡	嬉野町釜生田	範囲確認調査	町教委	町※
9 0	一志廃寺・天保遺跡	嬉野町一志・島田	町道新設	町教委	町
9 1	黒田遺跡	嬉野町黒田	墓地造営	町教委	事業者
9 2	大足地内	松阪市大足町	公園建設	市教委	市
9 3	小津地内	松阪市川井町小津	病院移転	市教委	事業者
9 4	池田地内	松阪市井口町池田	砂利採集	市教委	事業者
9 5	飯)山口遺跡	松阪市井口町山口	砂利採集	市教委	事業者
9 6	涌早崎遺跡	松阪市大津町湧早崎	宅地開発	市教委	事業者
9 7	新田町遺跡	松阪市大黒田町新田町	市道建設	市教委	市
9 8	古轡通りB遺跡	松阪市早馬瀬古轡通り	砂利採集	市教委	事業者
9 9	口南戸遺跡	松阪市立野町口南戸	市道建設	市教委	市※
100	浅間古墳群	松阪市立野町	市道建設	市教委	市※
101	阿形遺跡	松阪市阿形町宝蔵寺	公園建設	市教委	市
102	発シA遺跡	多気郡明和町大字有爾中字発シ・平田	駐車場造成	町教委	町
103	金剛坂遺跡	多気郡明和町大字金剛坂字辰ノ口	防水水槽新設	町教委	町
104	西山城跡	多気郡多気町大字西山字上奥尻	道路改良	町教委	県土木部
105	森荘遺跡	多気郡多気町大字森荘字林中	保育所建設	町教委	町
106	池ノ谷遺跡	多気郡勢和村丹生字池ノ谷	範囲確認調査	村教委	村※
107	高ノ御前遺跡	伊勢市有滝町高ノ御前	県営ほ場整備に伴う土取り	市教委	事業者
108	うるし原遺跡	伊勢市磯町字うるし原	倉庫建設	市教委	事業者
109	掛橋遺跡	度会郡小俣町本町	マンション敷地造成	町教委	事業者
110	田丸城址	度会郡玉城町田丸	城郭石垣修復	町教委	町
111	熊野街道八鬼山道	尾鷲市大字南浦字八鬼山	林道開設	市教委	事業者
112	向遺跡	伊賀町大字愛田字向	多目的用地造成	町教委	町
113	中出山10・11号墳	大山田村大字出後字中出山	資材置場造成	町教委	事業者
114	荒堀長川館跡	上野市比自岐字田中	運動公園造成	市教委	市
115	堂垣内館跡	上野市佐那具町字堂垣内	工業団地造成	市遺跡調査会	事業者
116	高野遺跡	上野市佐那具町字高野	工場増設	市遺跡調査会	事業者
117	蓮花寺推定地遺跡	上野市服部町字中之坊	宅地造成	市遺跡調査会	事業者

118-1	御墓山窯跡	上野市佐那具町字中坂	駐車場造成	市遺跡調査会	事業者
118-2	御墓山窯跡	上野市佐那具町字中坂	駐車場造成	市遺跡調査会	事業者
119	大門A遺跡・的場遺跡・広見遺跡	上野市下友生	農業集落排水事業	市遺跡調査会	市
120	藤原堡跡	上野市桂字美弥ほか	農業集落排水事業	市遺跡調査会	市
121	蓑虫庵	上野市愛宕町・西日南町	遺跡整備	市遺跡調査会	市
122	平垣内古墳群	上野市長田字平垣内	鉄塔建設	市遺跡調査会	事業者
123	沢代遺跡	名賀郡青山町阿保字沢代	事務所新設	町遺跡調査会	事業者
124	横山古墳群	名張市赤目町檀字横山	宅地造成	市遺跡調査会	事業者

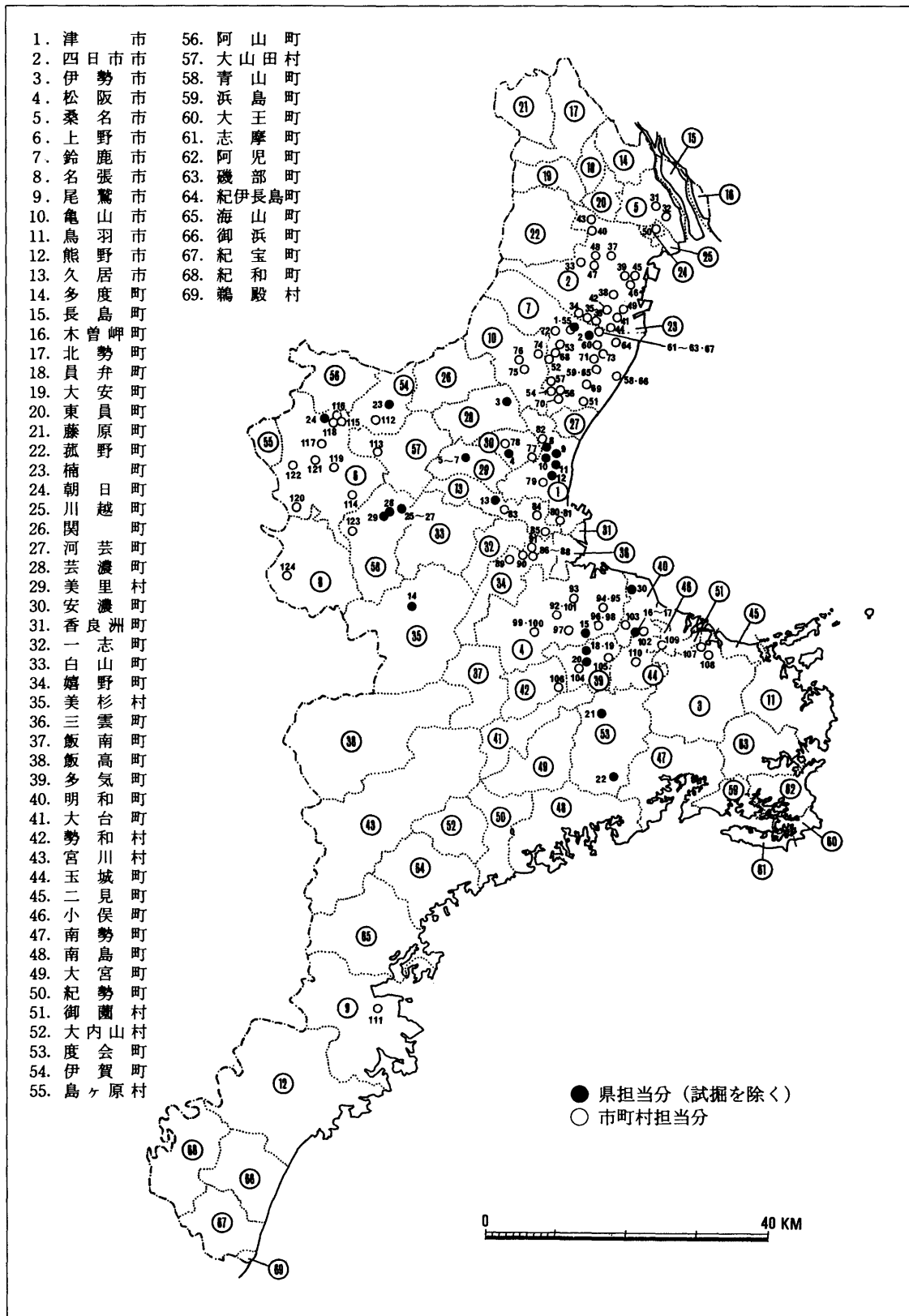


図1 平成5年度三重県内発掘調査遺跡位置図

2. 発掘調査の概要

注) 遺跡名の()は旧称。

※1 文化財保護法第98条の2第1項または、第57条第1項に関する文書番号。

※2 周知・新発見の別

県(三重県埋蔵文化財センター)担当分 本調査・立会調査

No.	1	遺跡名	石薬師東26号墳	所在地	鈴鹿市石薬師町字寺東	
調査原因	消防学校建設			事業主体	県総務部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H. 5. 11. 8~12. 24	
調査面積	1,300㎡			担当者	小林秀・吉田利弘・稲森剛・船越重伸	
文化財保護法に関する文書番号※1		5教文第1899号			※2	新発見
遺 跡 の 概 要						
<p>鈴鹿川中下流部左岸にある標高約41mの高位段丘上に位置する。 同丘陵上は、鈴鹿市でも屈指の古墳密集地であり、本墳はその古墳群の1つ石薬師東古墳群の中の25号墓より北東約15m程離れた場所で、新しく発見されたものである。 今回の調査では、その規模が17.5m×18.5mの方墳であることが確認されたが、戦前の開墾のため、墳丘部のほとんどは削り取られ、従って主体部の検出は出来なかった。 遺構としては、墳丘の北側と南側に幅約2.5m程の周溝が確認され、その埋土および墳丘東側斜面より、円筒埴輪や形象埴輪また杯身・杯蓋などの遺物を検出した。</p>						
古墳名	墳形	規模	主体部	出土遺物	時期	備考
石薬師東26号墳	方墳	17.5m×18.5m	無	・円筒埴輪 (須恵質、土師質両方を含む) ・形象埴輪 (家型、人物、馬、鹿等) ・杯身、杯蓋	6C前半	
関連文献						
No.	2	遺跡名	磐城山遺跡、磐城山1・2号墳	所在地	鈴鹿市木田町磐城山	
調査原因	四日市鈴鹿環状線道路改良事業			事業主体	県土木部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H. 5. 5. 11~8. 6	
調査面積	1,100㎡			担当者	森川常厚・吉田利弘	
文化財保護法に関する文書番号※1		5教文第809号			※2	周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物		
<p>標高36mの南へ伸びる台地状に位置する。 沖積平野との比高差は20mを測る。この台地には磐城山1~3号墳、木田城跡が周知されている。 調査の結果、台地上は削平が激しく、遺跡の残存状態は劣悪である。 磐城山1・2号墳は古墳ではなく中世の塚状遺構であることがわかった。</p>		<p>○弥生時代後期 ・竪穴住居 1棟 ・土坑 ○古墳時代後期 ・竪穴住居 2棟 ○中世 ・土坑 ・溝状大溝 ・塚状遺構 2基</p>		<p>・弥生土器(壺・甕・高杯) ・土師器(皿・羽釜) ・須恵器(杯・蓋・壺・高杯) ・灰釉陶器(碗) ・陶器(山茶碗・甕・鉢) ・白磁(碗) ・瓦(布目丸瓦) ・硯(風字硯)</p>		
関連文献						

No.	3	遺跡名	金谷遺跡（立会）		所在地	安芸郡芸濃町椋本	
調査原因	県営ほ場整備事業				事業主体	県農林水産部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				調査期間	H. 5. 9. 6～9. 13	
調査面積	250㎡				担当者	石川隆郎	
文化財保護法に関する文書番号※1			5教文第1653号			※2	周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
調査区の南側で、幅18m程の落ち込みがあり山茶碗や土師器の碎片が出土した。また、北側ではピットが検出された。			自然河道 ピット		山茶碗 土師器		
関連文献							
No.	4	遺跡名	小屋城古墳群（南神山8号墳）		所在地	安芸郡安濃町南神山字井上	
調査原因	県道穴倉南神山津線道路改良事業				事業主体	県土木部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				調査期間	H. 5. 5. 21～8. 12	
調査面積	430㎡				担当者	小林秀・石川隆朗・筒井正明	
文化財保護法に関する文書番号※1			5教文第786号			※2	新発見
遺跡の概要							
小屋城古墳群は、長谷山の北、穴倉川の左岸丘陵中腹に所在する新たに発見された古墳群で、現在3基を確認している。この内路線外に位置する3号墳は自然崩壊によって、現在では石室の奥壁などが部分的に残るのみである。1号墳は径約17mの円墳で、片袖式の横穴式石室であった。また2号墳は、1号墳の周溝にあたる部分に作られた比較的小形の横穴式石室で、墳形については不明である。1号墳の石室からは、須恵器の杯身・杯蓋・壺や鉄鎌・釘のほか、耳環が6個出土した。杯身・杯蓋にはベンガラで「×」などの記号がつけられていた。							
古墳名	墳形	規模	主体部	出土遺物	時期	備考	
1号墳	円墳	17m	横穴式石室	須恵器（杯身・杯蓋・壺） 鉄鎌・耳環	7世紀	ベンガラの記号	
2号墳	—	—	横穴式石室	須恵器（杯身・杯蓋・壺） 土師器（碗）	7世紀		
関連文献							
No.	5	遺跡名	風呂ノ谷遺跡（立会）		所在地	安芸郡美里村北長野字風呂ノ谷	
調査原因	県営ほ場整備事業				事業主体	県農林水産部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				調査期間	H. 6. 2. 2～2. 7	
調査面積	120㎡				担当者	高崎 仁	
文化財保護法に関する文書番号※1			6教文第88号			※2	新発見
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
遺跡範囲のうち、削平を受ける排水路部分の発掘調査。長野城関連の遺構の検出が期待されたが、遺構は検出されなかった。			なし		土師器細片のみ		
関連文献							



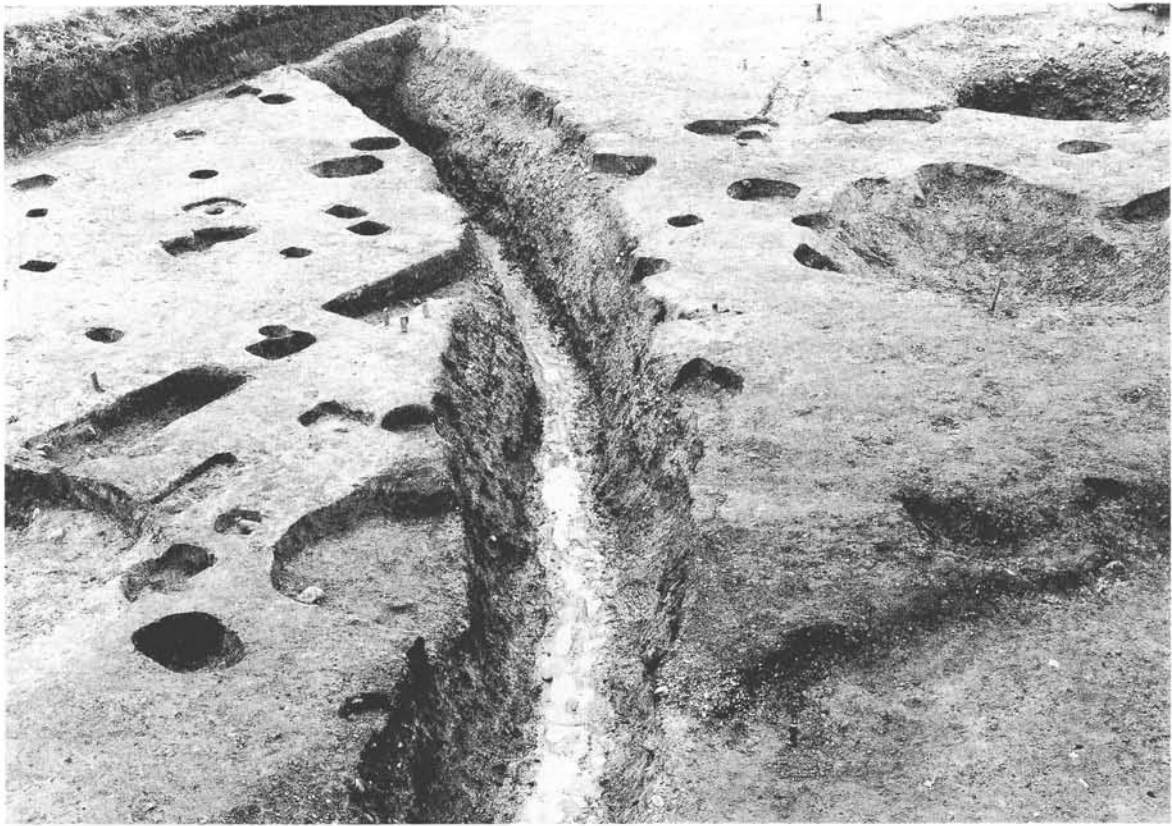
小屋城1号墳石室



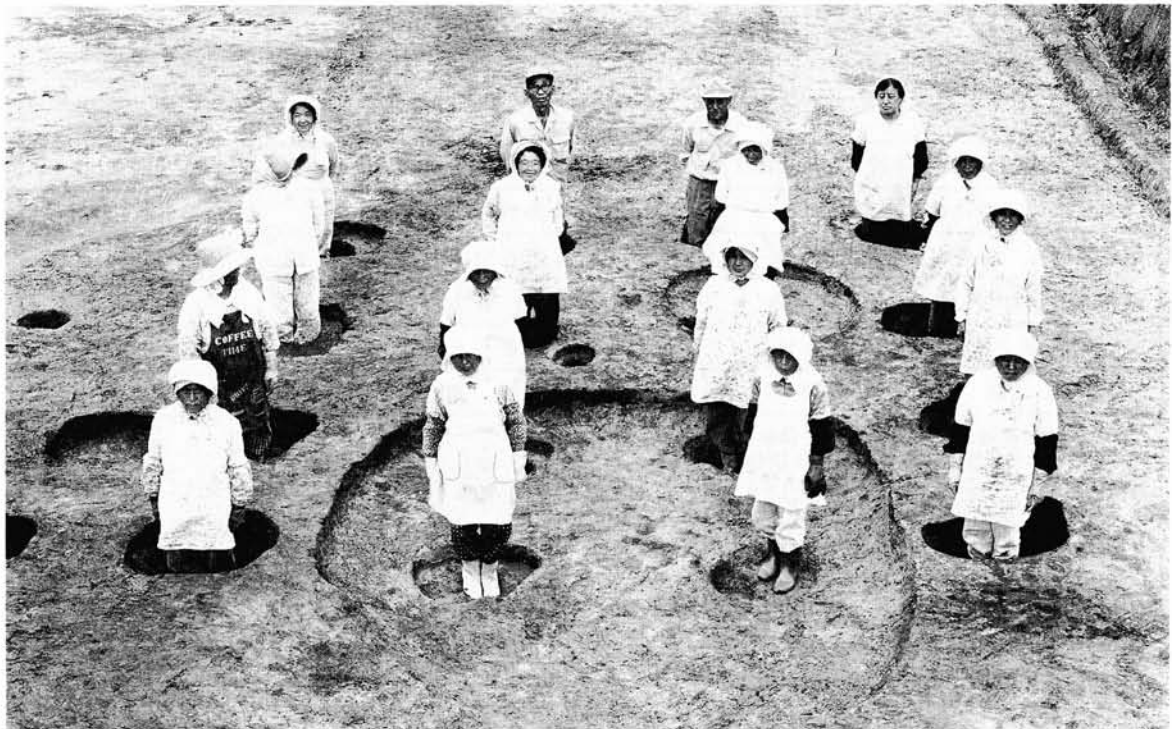
1号墳石室遺物出土状況

No.	6	遺跡名	大洞遺跡(立会)	所在地	安芸郡美里村北長野字大洞
調査原因	県営は場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H. 6. 2. 2~2. 7
調査面積	290㎡			担当者	高崎 仁
文化財保護法に関する文書番号※1			6 教文第 87号		※2 新発見
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
遺跡範囲のうち、削平を受けるA、B地区の発掘調査。長野城関連の遺構の検出が期待されたが、遺構は検出されなかった。			なし		土師器皿片
関連文献					
No.	7	遺跡名	細野遺跡(立会)	所在地	安芸郡美里村北長野字細野
調査原因	県営は場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H. 6. 2. 2~2. 7
調査面積	140㎡			担当者	高崎 仁
文化財保護法に関する文書番号※1			6 教文第 86号		※2 新発見
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
遺跡範囲のうち、削平を受ける排水路部分の発掘調査。長野城関連の遺構の検出が期待されたが、遺構遺物とも発見されなかった。			なし		なし
関連文献					
No.	8	遺跡名	大里西沖遺跡	所在地	津市大里陸合町字西沖
調査原因	県営は場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H. 5. 9. 27~H 6. 1. 24
調査面積	2,000㎡			担当者	石川隆郎・船越重伸・山口順也
文化財保護法に関する文書番号※1			5 教文第 857号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
遺跡の東側約1,500㎡をB地区、西側約500㎡をC地区として調査した。B地区の東側では、古墳時代後期の土塚墓群、径17m程の円墳や埴輪が出土する溝を多数検出した。西側では、奈良時代の竪穴住居や「和同開珎」が出土した土坑の他、平安~鎌倉時代の集落跡が確認された。 C地区では、縄文時代早期と思われる竪穴住居、古墳時代後期の溝の他、埴輪棺として利用されたと思われる円筒埴輪や馬具が出土した土坑がみつかった。			○縄文時代 竪穴住居1棟 土坑数基 ○古墳時代 円墳1基 溝10条 土塚墓4基以上 ○奈良時代 竪穴住居1棟 土坑数基 ○平安~鎌倉時代 掘立柱建物8棟 井戸1基 溝3条		○縄文時代 早期~後期の縄文土器、黒曜石の剝片 ○古墳時代 円筒埴輪 人物などの形象埴輪 馬具 管玉 須恵器 ○奈良時代 銅銭「和同開珎」 ○平安~鎌倉時代 土師器 山茶碗
関連文献					

No.	9	遺跡名	六大B遺跡 (A地区)	所在地	津市大里窪田町字出口
調査原因	一般国道23号中勢道路建設			事業主体	建設省中部地方建設局
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H. 5. 8. 17~12. 16
調査面積	1,270㎡			担当者	中村光司・本堂弘之
文化財保護法に関する文書番号※1			5教文第 684号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>六大B遺跡は、志登茂川と毛無川に挟まれた河岸段丘とその南斜面に立地する。A地区は、遺跡の北端部にあたり、段丘状を東西に通る伊勢別街道に接する。同街道の宿場「窪田宿」の一面にあたり、近世を中心とした遺構・遺物が確認された。</p>			<p>○鎌倉時代 ・井戸 2基 ○江戸時代 ・礎石建物 4棟 ・井戸 5基 ・溝 1条 ・埋篋 6基</p>		<p>・山茶碗 ・肥前産磁器 (碗) ・瀬戸美濃産陶器 (丸碗・広東碗・行平・仏具・湯呑・灯明皿) ・瀬戸美濃産磁器 (広東碗・端反碗・皿) ・土師器 (皿・灯明皿) ・煙管・銭貨 ・円形加工陶磁製品</p>
関連文献					
No.	10	3遺跡名	大垣内遺跡	所在地	津市大里窪田町字池ノ下
調査原因	県道津関線道路改良事業			事業主体	県土木部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H. 5. 5. 17~12. 16
調査面積	4,600㎡			担当者	服部芳人・船越重伸・山口順也
文化財保護法に関する文書番号※1			5教文第 152 (787)号		※2 新発見
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>毛無川の左岸、標高12~15mの低地に位置する。当初事業地内では約6,600㎡の調査予定であったが、未買収地があり、今年度は4,600㎡について調査を行った。</p> <p>各地区から掘立柱建物が検出されているが、A地区とB地区については棟方向がほぼ一致しており、計画的に建てられたものと思われる。またこの方向は北東で、平成元年度調査の安養院跡で検出された掘立柱建物とも一致する。この安養院跡の所在が宇大垣内地内であり、一連の遺跡の可能性が考えられる。</p>			<p>(A地区) ・旧河道 1本 (古墳~奈良) ・溝 1条 ・井戸 1基 (平安) ・掘立柱建物 13棟 (奈良~平安) ・土坑 (B地区) ・掘立柱建物 10棟 (奈良~平安) ・溝 数条 ・土坑 数基 (C地区) ・掘立柱建物 3棟 ・溝 ・土坑</p>		<p>・ヘラ書土器 ・墨書土器 ・木製品 ・円面硯 ・土馬 ・製塩土器 ・軒丸瓦 ・須恵器 ・土師器 ・緑釉陶器 ・黒色土器</p>
関連文献 津市教委『安養院跡』1990. 3					
No.	11-1	遺跡名	大古曾遺跡 (A地区)	所在地	津市大里窪田町字橋垣内
調査原因	一般国道23号線中勢道路建設			事業主体	建設省中部地方建設局
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H5. 5. 6~9. 6
調査面積	2,825㎡			担当者	小菅文裕・穂積裕昌
文化財保護法に関する文書番号※1			5教文第 683号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>大古曾遺跡の中でも最も北寄りの地区である。北側の橋垣内遺跡と同時期の飛鳥~奈良時代の掘立柱建物を20棟確認した。そのうちの数棟は橋垣内遺跡へ続いているものである。</p> <p>A地区の南側は遺構・建物ともに希薄で、若干の谷地形となっており、B・C地区とは隔離したものとなっている。従って、大古曾遺跡A地区は、橋垣内遺跡と一体のものとして捉えられよう。</p> <p>集落形成の当初より、堅穴住居ではなく、小規模ながらも掘立柱建物のみによる集落が形成されていることは注目される。</p>			<p>○飛鳥~奈良時代 ・掘立柱建物 20 ・溝 3 ・土坑 1 ○平安時代 ・溝 1 ○近世 ・土坑 1</p>		<p>・土師器 ・須恵器 (杯・甕・甌) 円面硯 4点 ・緑釉碗 (完形) ・山茶碗 ・青磁 ・土馬</p>
関連文献					



大垣内遺跡 SD6 古墳時代 南から



SB110 南から

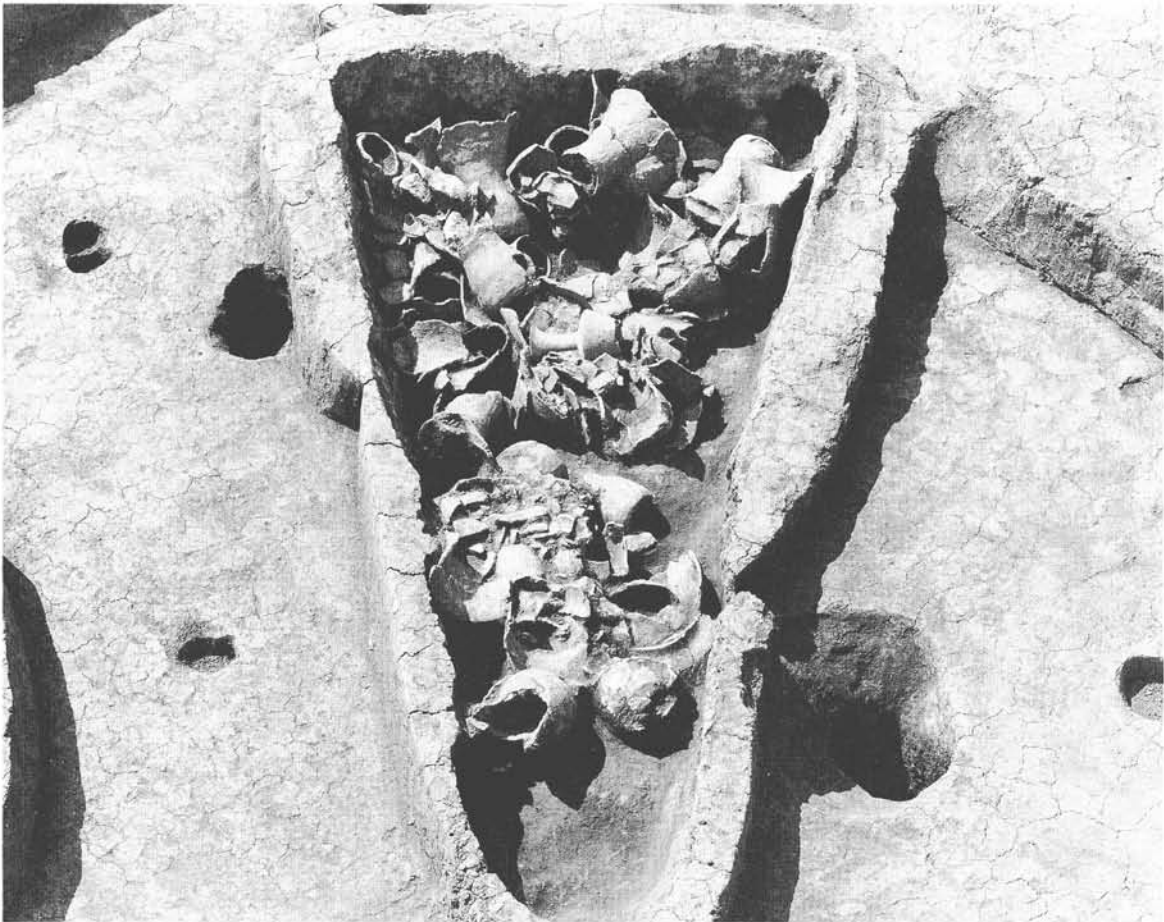
No.	11-2	遺跡名	大古曾遺跡 (C地区)	所在地	津市一身田大古曾字山ノ口
調査原因	一般国道23号中勢道路建設			事業主体	建設省中部地方建設局
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H. 5. 4. 13~11. 10
調査面積	4,210㎡			担当者	清水正明・山口 格
文化財保護法に関する文書番号※1				5教文第 683号	※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>安濃川と登茂川に挟まれた舌状の丘陵の北側に形成された小規模な扇状地に位置する。平成3年度調査の大古曾遺跡B地区の南側に隣接する。</p> <p>調査の結果、縄文時代と思われる溝をはじめ、古墳時代の溝、飛鳥～奈良時代の掘立柱建物や溝等を確認した。また、扇状地という立地から幾筋もの旧河道を検出。河並出土建物の中には、旧石器も含まれており注目される。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・掘立柱建物 4棟 ・土坑 2基 ・溝 5条 ・旧河道 5本 		<ul style="list-style-type: none"> ○旧河道から ・ナイフ形石器・縦長刮片等の石器 ・須恵器 ・土師器 ・山茶碗 ○溝から ・尖頭器・石鏃等の石器 ・須恵器 (壺完形含む) 	
関連文献					
No.	12	遺跡名	宮ノ前遺跡	所在地	津市長岡町字宮ノ前
調査原因	一般国道23号中勢道路建設			事業主体	建設省中部地方建設局
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H5. 4. 15~4. 26
調査面積	100㎡			担当者	本堂弘之・清水正明
文化財保護法に関する文書番号※1				5教文第 682号	※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>今年度の調査区は、見当山丘陵南斜面の裾部に立地する。厚い堆積土中の包含層から遺物が出土した。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・土坑 ・ピット 		<ul style="list-style-type: none"> ・緑釉陶器 ・山茶碗 ・土師器羽釜 ・平碗 ・山皿 	
関連文献					
No.	13	遺跡名	下村五間田遺跡 (立合)	所在地	久居市榑原町字五間田
調査原因	県営ほ場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H. 5. 11. 15
調査面積	100㎡			担当者	服部芳人
文化財保護法に関する文書番号※1				5教文第2083号	※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>下村五間田遺跡は、雲出川支流の榑原川中流右岸の自然堤防上に位置する。標高は43m、現況は、茶畑、畑および、荒地である。</p> <p>当遺跡は、縄文中期の土器片や有茎尖頭器が採集され、古くから所在は知られている。また、周辺でも近年サヌカイトのフレイクも表採されている。</p> <p>今回の調査は、周知の遺跡の南東約100mの地点で、地表下約80cmで人頭大の河原石混じりの砂礫層になり、河川の堆積状態が確認された。</p> <p>今回調査部分には、以前、榑原川が流れていたものと思われる。</p>		なし		なし	
関連文献					
鈴木敏男 「考古学からみた一志郡」「一志郡史」「久居市史」上巻 田村陽一 「久居市榑原町下村五間田遺跡採集の縄文土器」「三重ヒストリ」Vol. 5. 1993					

No.	14	遺跡名	東川遺跡(小松遺跡)	所在地	一志郡美杉村大字八知字東川白梶
調査原因	県営畜産環境整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H5.5.6~5.27 10.6~10.25
調査面積	本調査1000㎡ 立会調査1500㎡			担当者	竹田憲治・石川隆剛
文化財保護法に関する文書番号※1				5教文第789号 本 5教文第1864号 立会	※2 新発見
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>雲出川と老ヶ野川の合流点付近の丘陵端部に立地する。平成4年度の遺跡発見時には「小松遺跡」とされていたが、本調査に先立ち字切図と照合した結果、「東川遺跡」と改称した。</p> <p>発掘区はA~G地区にわかれ、B地区からは奈良時代の竪穴住居1棟平安時代の掘立柱建物1棟、時期不明の掘立柱建物2棟を検出し、F地区からは鎌倉時代の掘立柱建物1棟を検出した。</p>		<p>竪穴住居1棟(奈良) 掘立柱建物4棟(平安1棟、鎌倉1棟、不明2棟)</p>		<p>縄文土器(早期末・後期) 弥生土器(中期) 土師器(古墳前期~室町) 須恵器 陶器 山茶碗 瓦器 青磁 鉄釘、鉄鎌</p>	
関連文献	三重県埋蔵文化財センター年報4(1993年3月)				
No.	15-1	遺跡名	鴻ノ木遺跡(第4次)	所在地	松阪市射和町字延命寺垣外
調査原因	一般国道42号線松阪・多気バイパス建設			事業主体	建設省中部地方建設局
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H. 5. 4. 19~10. 29
調査面積	3600㎡			担当者	東良樹・小浜学
文化財保護法に関する文書番号※1				5教文第626号	※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>第4次の調査区は、鴻ノ木遺跡の最南部に位置し、櫛田川の形成した自然堤防上と本流に面した南側の一段下がった部分からなる。</p> <p>室町時代~江戸時代の遺構が中心で、土坑10基・配石遺構27基等が、確認できた。その他、時期は不確定であるが、石列による区画整地が2面あり、字名の「延命寺垣外」との関連が推測されるが、不確定である</p> <p>下層では、遺構は発見できなかったが、遺物は若干出土した。</p>		<p>・土坑 10 ・配石遺構 27 ・石列 ・溝 3等</p>		<p>・縄文土器 ・弥生土器 ・須恵器 ・土師器 ・青磁 ・常滑産の甕 ・近世陶器 ・瓦 ・銅貨等</p>	
関連文献					
No.	15-2	遺跡名	鴻ノ木遺跡(第5次)	所在地	松阪市中万町字水引揚
調査原因	一般国道42号線松阪・多気バイパス建設			事業主体	建設省中部地方建設局
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H. 5. 8. 30~H6. 3. 31
調査面積	2,200+下層1,800㎡			担当者	小浜学・田村陽一
文化財保護法に関する文書番号※1				5教文第1194号	※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>櫛田川が下流域にさしかかる低位段丘面に位置し、平成2年度に調査された第1次調査地の南に隣接する</p> <p>弥生時代以降の遺構面と縄文時代早期の遺構面を確認した。上層では鴻ノ木遺跡ではじめて弥生時代の遺構が確認されたほか、奈良時代~平安時代の集落跡であることが判明した。下層では、縄文時代早期の竪穴住居と考えられる土坑や炉が多く検出され第1次調査地より続く集落の南限が明らかとなった。</p>		<p>○縄文早期 ・土坑 15基 ・炉 9基 ・焼土坑 6基 ○弥生中期 ・土坑 7基 ・方形周溝墓 2基 ○奈良 ・竪穴住居 7棟 ○平安 ・掘立柱建物 5棟 ・溝、ピット</p>		<p>・礫器 ・石鎌 ・スクレーパー ・縄文土器片(押型文) ・弥生土器(甕、壺) ・土師器(皿、杯、甕、壺、ロクロ製あり) ・須恵器片</p>	
関連文献					

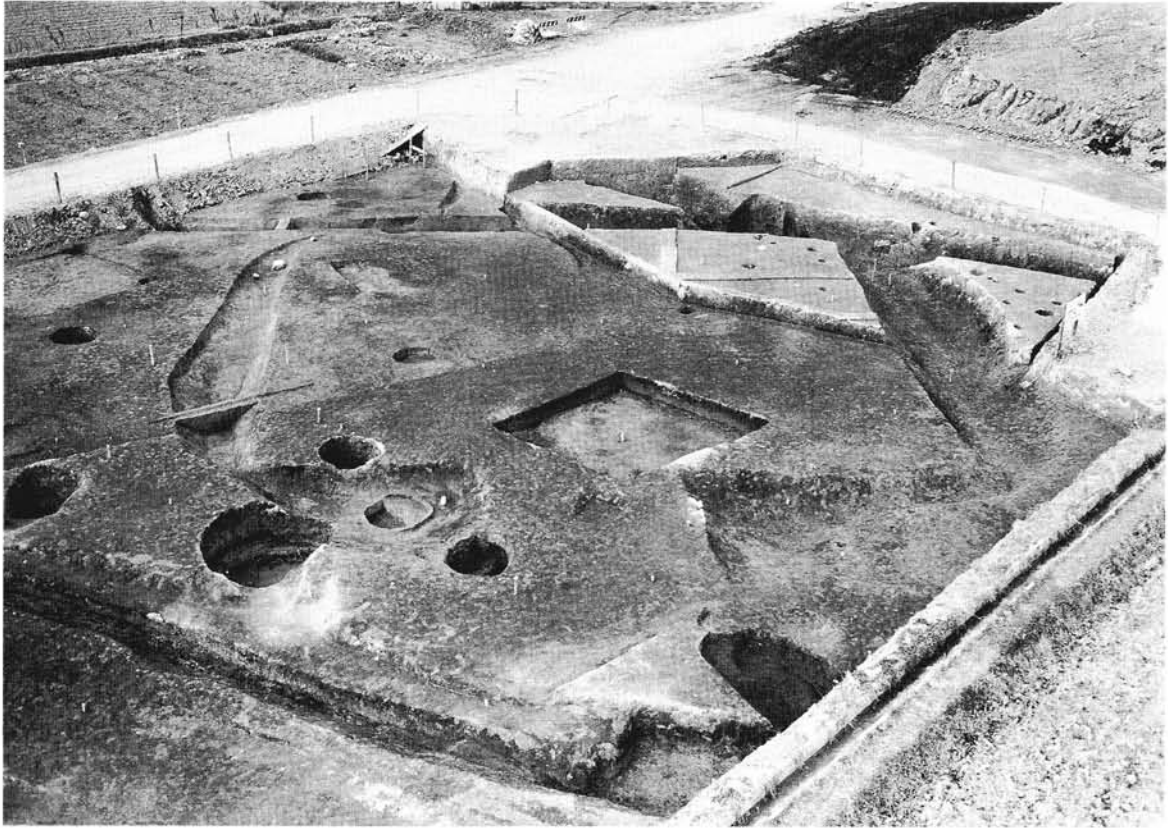
No.	16	遺跡名	鳥墓遺跡(立会)	所在地	多気郡明和町養村
調査原因	県営は場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H5. 7. 28
調査面積	100㎡			担当者	高崎 仁
文化財保護法に関する文書番号※1		5 教文第 2 1 1 4 号			※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
土器焼成坑が多数発見された北野遺跡の南にあり、現在も土器を焼いている神宮土器製作所に隣接している。排水路部分のみの調査。		なし		なし	
関連文献					
No.	17	遺跡名	北野遺跡	所在地	多気郡明和町明星・養村
調査原因	県営は場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H5. 5. 10~H6. 1. 31
調査面積	8,500㎡			担当者	上村安生・浜口元・竹田憲治・吉田利弘
文化財保護法に関する文書番号※1		5 教文第 6 8 5 号			※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>国史跡青宮跡の南東約2kmに所在する。低台地の南縁斜面に弥生時代後期から平安時代後期までの多くの遺構が検出され、遺物も整理箱で約600箱出土した。</p> <p>主な遺構には、弥生時代後期の竪穴住居があり、大別すると後期前半と後期後半の二時期がある。昨年に引き続き、隣接の排水溝をもつ住居がある。また、貯蔵穴や炉の位置に時期別の変遷が認められる。</p> <p>奈良時代前半の土器焼成坑は、今年も64基検出され、当遺跡の三次にわたる調査で検出された合計は、186基になり、一大生産地であったことをあらためて裏付けた。</p> <p>遺構は検出されていないがナイフ形石器が3点出土している。2×2mのグリッドを14ヶ所設定して調査を行った結果、低台地のトップ付近に割片が集中する傾向がわかった。石の材質は、チャート、頁岩、サスカイトがある。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○弥生時代後期 ・竪穴住居34 ・独立柱建物4 ・土坑6 ・溝15 ○弥生時代後期から古墳時代初め ・竪穴住居23 ・土坑1 ・溝1 ○古墳時代後期 ・竪穴住居14 ・土坑15 ・溝1 ○奈良時代前半 ・竪穴住居14 ・独立柱建物4 ・土器焼成坑64 ・土坑35 ・溝1 ○平安時代末期 ・独立柱建物1 ・井戸1 ・溝1 ○時期不明 ・竪穴住居11 ・独立柱建物2 ・土坑7 ・溝19 		<ul style="list-style-type: none"> ・ナイフ形石器3点 ・鋸刃石斧1点 ・弥生土器 ・土師器 ・須恵器 ・石製紡錘車 ・土製紡錘車 ・土馬 	
関連文献 『平成2年度農基整理文調査報告 第2分冊』(県埋文センター1991)					
No.	18-1	遺跡名	栗園遺跡(多気郡条里遺跡)	所在地	多気郡多気町荒蒔
調査原因	一般国道42号線松阪・多気バイパス建設			事業主体	建設省中部地方建設局
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H5. 8. 25~H6. 1. 27
調査面積	2,300㎡			担当者	東良樹・西村修久
文化財保護法に関する文書番号※1		5 教文第 1 1 9 5 - 2 号			※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>榑田川が、本流と駈川とに分流する地点から、約2km上流の、多気町荒蒔の水田地帯に所在する。</p> <p>この地域の水田には、H3年度のは場整備まで、古代条里制の区割りがよく残っていた。遺跡名も、前年度まで「多気郡条里遺跡」という名称を使用していた。調査区は、JR紀勢本線を挟んで南側をA地区、北側をB地区とした。</p> <p>A地区では、明確な遺構は検出できなかったが、県内25例目の出土例となる石帯(丸柄)が見つかった。</p> <p>B地区では、古墳時代初期の周溝墓のほか、古代から中世の溝・井戸・土坑が検出された。柱穴を思わせるピットも多少はみられたが、住居跡は検出できなかった。</p> <p>なお、はっきりと条里に関係する遺構も見られなかった。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○古墳時代 ・前方後方型周溝墓 全長17.5m 後方部15.5×14.5m ○飛鳥~奈良時代 ・溝 ○平安末~鎌倉時代 ・溝 ・井戸(素掘り) ・土坑 		<ul style="list-style-type: none"> ○古墳時代 ・周溝墓の周溝 古式土師器 壺 高杯(欠山新) ○平安末~鎌倉時代 ・溝・井戸・土坑 土師器 鍋 皿(含ロクロ製) 山茶碗 ※山茶碗の転用碗 ○包含層出土 ・石帯(丸柄) ・緑釉陶器細片 ・瓦器破片 等 	
関連文献					



北野遺跡 S K170 遺物出土状況



S F92 遺物出土状況



巢護遺跡（多氣郡条里遺跡）前方後方型周溝墓

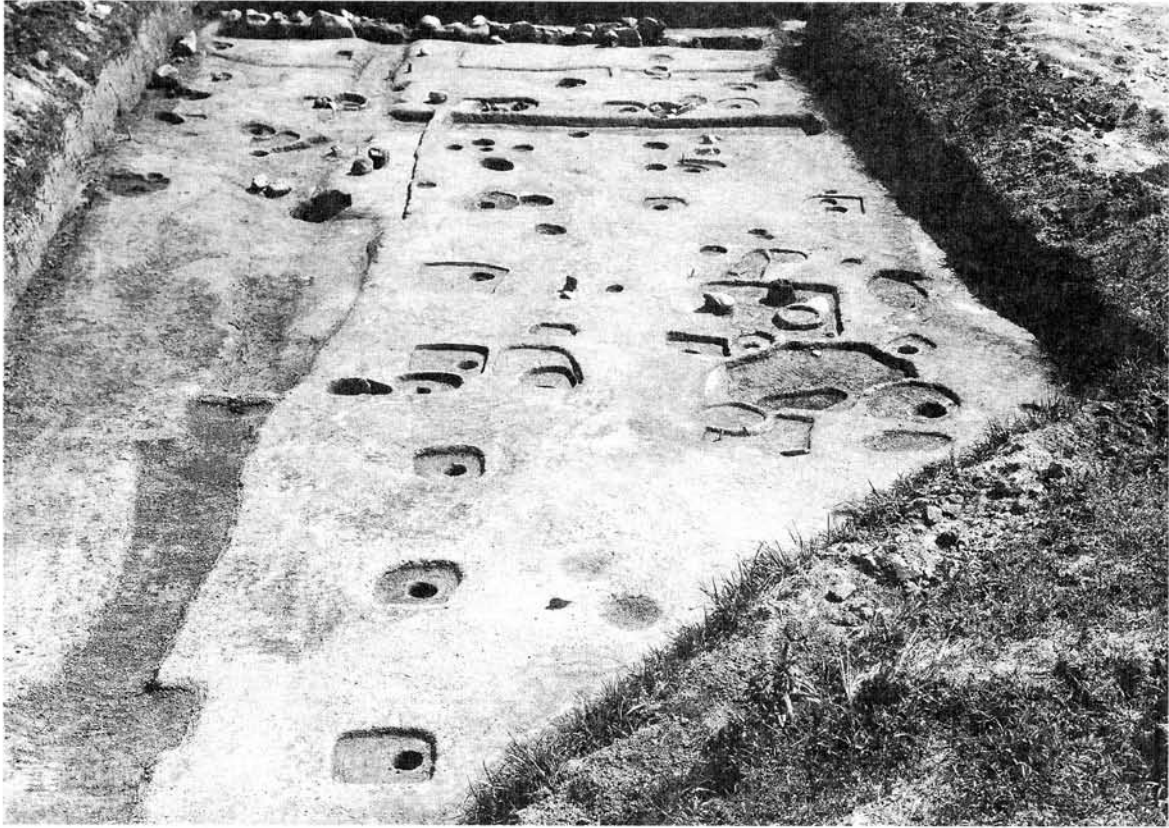


同周溝墓南辺溝壺出土狀況

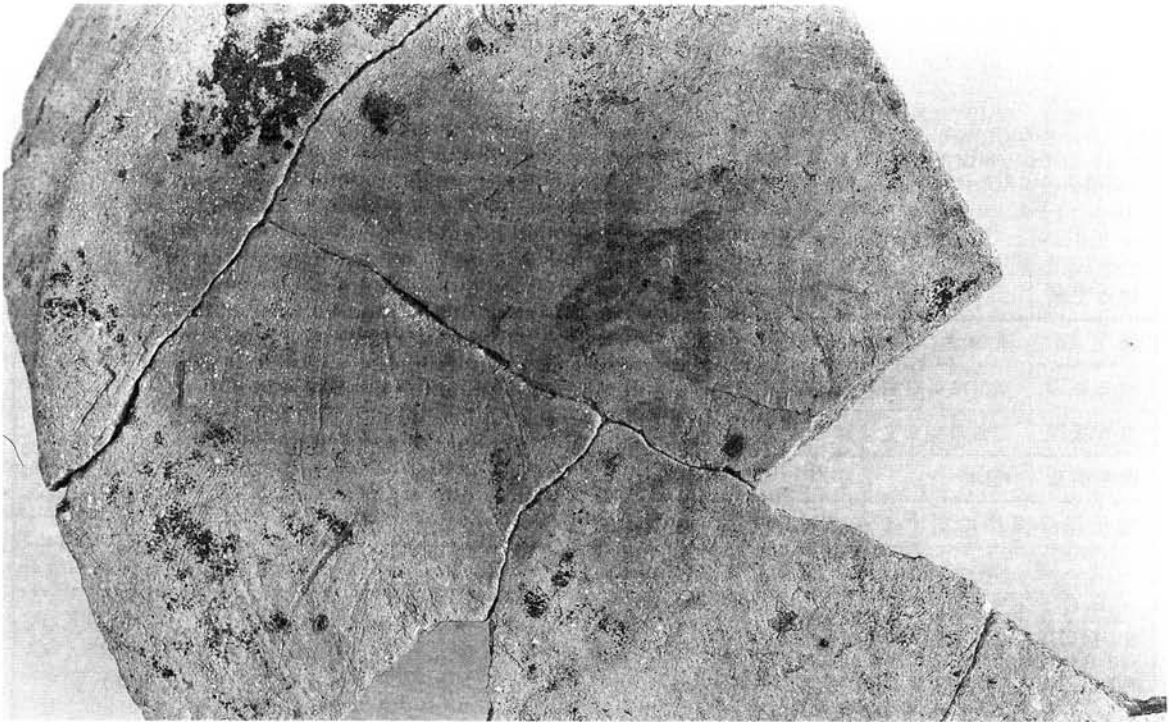
No.	18-2	遺跡名	渠護遺跡（荒蒔条里遺構）	所在地	多気郡多気町荒蒔・相可
調査原因	県道勢和兄国松阪線緊急道路整備			事業主体	県土木部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H5. 8. 2～H5. 10. 27
調査面積	2,100㎡			担当者	高崎 仁
文化財保護法に関する文書番号※1				5教文第1542号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
は場整備以前には、付近一帯に条里の地割りが残っていたとされる。			中世以降の溝、杭列		溝：中近世陶磁器 土師器 包含層：古墳時代以降の土師器 須恵器・山茶碗 製塩土器・石鏝
関連文献					
No.	19	遺跡名	上ノ垣外遺跡（第1次）	所在地	多気郡多気町荒蒔字上ノ垣外
調査原因	一般国道42号線松阪・多気バイパス建設			事業主体	建設省中部地方建設局
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	5. 8. 25～H6. 1. 27
調査面積	1,950㎡			担当者	西村修久
文化財保護法に関する文書番号※1				5教文第1195-1号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
榎田川右岸で、堤防から100mほど南に離れた段丘上に広がる遺跡。 調査区は遺跡の西端部で、大部分が小河川（相可川）方向に落ち込んでいく斜面にあたる。比較的新しい耕作の痕跡が多かったが、古代・中世の溝等の遺構も検出された。			○飛鳥～奈良時代 ・溝 ○室町時代 ・溝 ・集石遺構 ・土坑（墓？）		○室町時代 ・土師器（鍋・小皿） ・陶器（小皿） ○縄文時代 ・深鉢片（広瀬土埴40のあたりの時期）
関連文献					
No.	20	遺跡名	明気窯跡群（第2次）	所在地	多気郡多気町相可字明気
調査原因	一般国道42号松阪・多気バイパス建設			事業主体	建設省中部地方建設局
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H5. 4. 19～H5. 10. 29
調査面積	1,400㎡			担当者	宇河雅之・西村修久
文化財保護法に関する文書番号※1				5教文第 625号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
多気町役場の東方300mの尾根東側斜面中腹に立地。昨年度の調査区(1,500㎡)の南側に隣接。昨年度検出の1・2号窯（6世紀末～7世紀初）につづき3・4・5号の3基を確認。時期は7世紀初め～半ば。 3号窯では古墳時代タイプの杯身・蓋と宝珠つまみを有する杯身・蓋が供伴し、更に両者の中間的な「無宝珠でかえりのある杯蓋」と考えられるものも出土。 また5号窯では、窯体内及び灰原から出土する杯身・蓋が極少量である一方、平瓶・甕などの体部片が多く出土。			<ul style="list-style-type: none"> ・3号窯（灰原のみ） 窯体は用地外であるが、付近は土取りが進んでおり要注意。 ・4号窯 1.8㎡の床面のみ ・5号窯 町道建設により半壊 残存規模全長4.76m 最大幅2.14m 最大傾斜約20度 焼台が原位置で出土 ・土坑 ・窯体の立地する斜面に多数のピットあり 		須恵器（杯身・杯蓋・碗・高杯・ 埴・壺・甕・提瓶・横瓶・平瓶・ 捏鉢 焼台（粘土塊）
関連文献 「一般国道42号松阪・多気バイパス発掘調査概報Ⅲ」 県埋文センター 1993.3 「〃〃〃概報Ⅳ」 〃〃〃〃 1994.3					

No.	21	遺跡名	向村遺跡(立会)	所在地	度会郡度会町立花
調査原因	県営は場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H5. 9. 13
調査面積	600㎡			担当者	小林秀
文化財保護法に関する文書番号※1			5教文第1614号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
水路部分を中心に調査区を設定。すでに大きく攪乱を受けており遺物・遺構ともに確認できなかった。			なし	なし	
関連文献					
No.	22	遺跡名	城ノ前遺跡(立会)	所在地	度会郡度会町和井野
調査原因	県営は場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H5. 10. 15
調査面積	90㎡			担当者	竹内英昭
文化財保護法に関する文書番号※1			5教文第1865号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
一之瀬川右岸の水田面に残る長辺14m、短辺8mの楕円丘の盛土についてトレンチ調査を行ったところ、盛土中にわずかな土器片が混入していたが、盛土の構築時期は現代にまで下がるものと判明。近年までヘリポートとして利用されていたもよう。			なし	山茶碗・陶器片・土師器鍋	
関連文献					
No.	23	遺跡名	高塚宅跡	所在地	阿山郡伊賀町愛田
調査原因	県営広域営農団地農道整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	5. 9. 24~H6. 1. 7
調査面積	1,500㎡			担当者	吉澤良・稲森剛
文化財保護法に関する文書番号※1			5教文第1654号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
当遺跡は伊賀盆地の北東部に位置し、中世に多く築かれた城館の1つであると伝えられてきた。南北に土塁をもつ複郭構造の城館である。			<ul style="list-style-type: none"> ・南北に土塁を検出 ・2×2以上の東西方向に棟をもつ堀立柱建物1棟 ・土坑 	<ul style="list-style-type: none"> ・天目茶碗 ・土師器(皿、鍋) ・信楽産(壺、甕) ・砥石 ・鉄砲玉 ・銅銭 	
関連文献					

No.	24	遺跡名	伊賀国府跡	所在地	上野市坂之下・外山
調査原因	県営は場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	5. 5. 6～H5. 9. 27
調査面積	1,800㎡			担当者	竹内英昭・稲森剛
文化財保護法に関する文書番号※1			5 教文第 790号		※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>○追越地区 調査区をほぼ縦断するように、古墳時代後期初頭（5世紀末）の大溝を検出。多量の土器類を伴う。溝内の側壁を矢板および横木で補強しており、灌漑水路として人工的に掘削されたものと思われる。</p> <p>○前田地区 主として、12世紀初頭とみられる井戸および水溜に用いたとみられる石組遺構などを検出。良好な一括遺物が出土。自然流路とみられる溝から出土した銅鏡は、正倉院等で同型がみられる八稜鏡と判明。</p> <p>○国町地区 平安時代の伊賀国府の政庁を画する柵列・溝や脇殿の一部を検出。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・大溝・柱穴群・土坑 ・石組水溜状遺構 ・柱穴群・溝・井戸 ・柵列・溝・柱穴 		<ul style="list-style-type: none"> ・須恵器・土師器 ・中、近世の土器 ・矢板 ・弥生土器・土師器 ・須恵器・瓦器・陶器 ・白磁・銅鏡・下駄 ・弓 ほか ・土師器・須恵器 ・黒色土器・緑釉陶器 ・灰釉陶器・馬歯 ・鉄滓 ほか 	
関連文献					
No.	25	遺跡名	六地藏A遺跡	所在地	名賀郡青山町伊勢路
調査原因	県営は場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H5.6.28～H5.8.30, 11.5～11.12
調査面積	1,500㎡			担当者	吉澤良・船越重伸・浜口元・小林秀
文化財保護法に関する文書番号※1			5 教文第 890号		※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>当遺跡は、青山町の東部、伊賀から伊勢方面に抜ける布引山地の入口付近に所在する。見合谷川により形成された扇状地上に立地し、古墳時代～室町時代にわたっての遺構を確認した。</p>		<p><A地区> ・旧河道・溝・井戸 ・掘立柱建物（2×3） <B地区> ・土坑・溝 <C地区> ・溝</p>		<p><A, B, C地区> ・須恵器（杯身） ・土師器（杯・鍋・甕） ・瓦器（椀）・砥石 ・瓦質土器・信楽産甕</p>	
関連文献					
No.	26	遺跡名	六地藏B遺跡	所在地	名賀郡青山町下川原
調査原因	県営は場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H4.10.12～10.25
調査面積	400㎡			担当者	浜口元・小林秀
文化財保護法に関する文書番号※1			5 教文第 811号		※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>標高250m前後の、見合谷川による扇状地の縁辺部に位置する。基盤は砂層で、10～20cm程度の川原石を多く含んでいる。土坑7基、掘立柱建物1棟が検出され、12c～13cにかけての遺構である。</p>		<p>○鎌倉時代 ・土坑7基 ・掘立柱建物1棟</p>		<p>○古墳時代 ・土師器（台付甕） ○鎌倉時代 ・土師器（皿、鍋、羽釜） ・瓦器（椀）</p>	
関連文献					



伊賀国府跡 政庁西側棚列



墨書土器「国厨（くにのくりや）」

No	27	遺跡名	久保遺跡(立会)	所在地	名賀郡青山町下川原
調査原因	県営ほ場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H4. 10. 19~10. 26
調査面積	150㎡			担当者	浜口元・小林秀
文化財保護法に関する文書番号※1			5教文第1783号		※2 新発見
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>標高250m前後の、見合谷川による扇状地に位置する。基盤は褐色砂層である。遺物は比較的少なく時期の決定は難しいが土師器・瓦器から鎌倉時代の遺跡と考えられる。中世墓は13cのものと思われる。</p>			<p>○鎌倉時代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土坑21基 ・溝2条 ・中世墓1基 		<p>○鎌倉時代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土師器 皿 鍋 羽釜 ・瓦器 椀 皿
関連文献					
No	28	遺跡名	川南D遺跡	所在地	名賀郡青山町勝地川南
調査原因	県道伊賀青山線緊急道路改良事業			事業主体	県土木部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H5. 6. 28~H5. 7. 15
調査面積	500㎡			担当者	筒井正明・高崎仁
文化財保護法に関する文書番号※1			5教文第1066号		※2 新発見
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>青山町の北東部、奥山川の左岸に位置し、遺跡の北西約200mで奥山川は木津川に合流する。</p> <p>調査区の東側約3/4は大量に礫を含む地山であることから、奥山川の氾濫原と思われる。遺構を確認することができなかったが、調査区の西側約1/4で中世のものと思われる土坑を3基検出した。近辺には中世城館が多数あることから、それらとの関係があるかもしれない。</p> <p>また、近辺には群集墳も多数見られる関係上、包含層からは古墳時代の遺物も出土する。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・土坑3基 		<ul style="list-style-type: none"> ・須恵器(高杯、杯身) ・土師器(皿・鍋) ・信楽焼(甕・鉢) ・瓦器椀 ・青磁片 ・白磁片
関連文献					
No	29	遺跡名	勝地中世墓群	所在地	名賀郡青山町妙楽寺砂田
調査原因	県道伊賀青山線緊急道路改良			事業主体	県土木部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H5. 8. 30~H5. 9. 28
調査面積	250㎡			担当者	森川常厚・船越重伸
文化財保護法に関する文書番号※1			5教文第889号		※2 新発見
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>遺跡は、標高270mの西へ張り出す尾根に位置する。しかし調査区内では遺構・遺物とも検出できなかった。しかし、調査区外東側に塚一基ありその周囲に五輪塔散乱。</p>			<p>なし</p> <p>調査区以外に塚一基</p>		<p>なし</p> <p>調査区以外に五輪塔</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空風輪 ・火輪 ・木輪
関連文献					

県（三重県埋蔵文化財センター）担当分（試掘）

No.	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	遺跡の概要
ア-1	玉垣内遺跡	員弁郡藤原町山口字玉垣内	県営ほ場整備事業	136㎡	A地区15カ所、B地区2カ所の試掘坑を設定して調査を行った。A地区では溝・柱穴・土坑を、B地区では柱穴・土坑を検出した。特にA地区の溝は近接する玉垣城の堀の可能性が考えられる。
ア-2	玉垣内遺跡	員弁郡藤原町山口字玉垣内	主要地方道篠立下野尻線道路改良事業	32㎡	玉垣内城跡位置する丘陵西端の水田を調査した。遺物・遺構ともに確認されず、この部分に遺跡が及んでいないと考えられる。
イ	垣内遺跡	員弁郡北勢町一之坂地内	公害防除事業	256㎡	遺構希薄。遺物少量。
ウ	石佛東遺跡 (吹上遺跡)	員弁郡大安町南金井字石佛東	県営農村環境事業	600㎡	現況は畑および荒れ地であり、丘陵上に位置する。遺跡の西側で中世墓1基（1×0.7m）を検出した。遺物の散布は見られるが後世の開墾によりほとんどの遺構は壊されていると思われる。
エ	居敷1号墳	鈴鹿市津賀町居敷	辺法寺加佐登(T)線改良事業	3㎡	台地の南縁部にある円墳。周溝・遺物は確認できなかったが、盛土のマウンドを確認した。直径約10m、高さ約1m。
オ	敷田遺跡 (別所遺跡)	鈴鹿市徳居町	地方特定道道路改良工事三宅磯山停車場線	48㎡	大部分が旧河道と考えられる。1ヵ所の試掘坑から山茶碗が出土し、鎌倉時代の遺跡の存在が想定される。
カ	天水遺跡	鈴鹿市小田町天水	県営ほ場整備事業	144㎡	天水遺跡の南にひろがる水田部分に試掘坑を設定。遺構は土坑1基のみであったが、遺跡南辺に沿って遺物が出土した。遺跡の範囲が南辺にやや広がる可能性がある。
キ	国府東遺跡	鈴鹿市国分町	四日市鈴鹿環状線道路改良事業	40㎡	溝・柱穴を検出し、土師器・山茶碗を出土した。飛鳥～鎌倉時代の遺跡が高密度で存在すると考えられる。
ク	長者屋敷遺跡	亀山市能褒野町 鈴鹿市広瀬町	開拓地整備事業	166㎡	調査地は長者屋敷遺跡の北西部にあたる。試掘坑及び最近掘られたと思われる側溝において、溝・柱穴・土坑を確認した。特に溝は、遺跡内に残存する土塁方向と一致する。遺跡の範囲はさらに西に広がる可能性が考えられる。
ケ	峰城跡	亀山市川崎町	広域農道整備事業	37㎡	平成5年度の事業地内については自然地形であった。
コ	堂殿遺跡	亀山市川崎町	広域農道事業	192㎡	遺構は希薄で、遺物も確認されなかった。
サ	東屋敷遺跡	亀山市両尾町地内	亀山(T)石水溪線特定交安整備工事事業	16㎡	周知の遺跡の縁辺部にあたるが、遺構・遺物は認められなかった。
シ	大藪C遺跡	亀山市亀田町大藪	亀山(T)石水溪線(交差点改良)事業	40㎡	国道1号線亀山バイパス建設にともなう大藪C遺跡の北側で調査。時期不明の溝1条を検出。遺物はなし。遺跡の北側の広がりを確認した。
ス	仮)石上寺境内遺跡	亀山市和田町	県道鈴鹿亀山線交通安全事業	30㎡	道路北部に石上寺が所在し、かつて弥生土器が出土している。今回の調査では遺構・遺物ともに確認できなかった。
セ	山王遺跡	安芸郡河芸町南黒田字山王	一般道路23号中勢道路	128㎡	微量の須恵器・山茶碗・陶器片が認められたが、明確な遺構は認められなかった。
ソ	丸市遺跡	安芸郡河芸町南黒田字丸市	一般道路23号中勢道路	128㎡	微量の近・現代遺物が認められたが、遺構は確認できなかった。周辺地形の状況も合わせ、当初想定されていた中世城館の可能性はないと判断された。

No.	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	遺跡の概要
タ	内垣内遺跡	安芸郡河芸町字内垣内	一般道路23号 中勢道路	128㎡	微量の近・現代の遺物のほかは、遺構・遺物ともに認められなかった。
チ	藤ノ山遺跡	安芸郡芸濃町椋本	県営ほ場整備事業	48㎡	事業地内は中世の遺物が散布する地域である。試掘の結果、土師器片が少量出土したのみで、遺構は検出されなかった。
ツ	南神山遺跡	安芸郡安濃町南神山	県道穴倉南神山 津線改良事業	24㎡	遺物・遺構ともに確認できなかった。
テ	風呂ノ谷遺跡	安芸郡美里村字風呂ノ谷	県営ほ場整備事業	144㎡	土坑・溝と思われる遺構と、山茶碗・土師器の再編が少量出土した。
ト	大洞遺跡	安芸郡美里村字大洞	県営ほ場整備事業	80㎡	明確な遺構は検出されなかったが、山茶碗・土師器が少量出土した。
ナ	細野遺跡	安芸郡美里村字細野	県営ほ場整備事業	116㎡	柱穴、土坑と思われる遺構と、浅いが包含層を確認した。遺物も土師器・山茶碗が少量出土した。
ニ	天堤古墳	津市大里陸合町字点堤	一般道路23号 中勢道路	128㎡	自然地形。古墳に伴う遺構・遺物は全く検出されなかった。
ヌ	河崎遺跡	津市大里陸合町字河崎	一般道路23号 中勢道路	256㎡	遺物・遺構ともに確認されなかった。
ネ	六大A遺跡	津市大里窪田町字花村	一般道路23号 中勢道路	352㎡	六大B遺跡の北側にあたる県道津・関線に沿う部分では、中・近世の遺構・遺物が認められた。そこより下段の水田では谷地形状の落ち込み（大溝？）が確認され、弥生土器、古式土師器・土師器・須恵器のほか韓式系土器も出土した。
ノ	大古曾遺跡	津市一身田大古曾字山ノ口	市道大古曾3号 線道路建設事業	40㎡	微量の土師器片、山茶碗片、磁器片、瓦片が認められたが、明確な遺構は検出されなかった。
ハ	一身田小学校校庭遺跡	津市一身田大古曾	県道一身田豊野 久居線道路改良事業	32㎡	調査区は近・現代に攪乱及び盛土を行ったと思われ、遺構・遺物共に確認されなかった。
ヒ	尺ヶ寺遺跡	久居市榑原町尺ヶ寺	県営ほ場整備事業	288㎡	寺院の基壇の可能性のある整地土などの遺構及び、中世の遺物を確認。調査地区に中世寺院が存在した可能性は高い。
フ	古墳状隆起	久居市榑原町岡の前	県営ほ場整備事業	20㎡	遺構・遺物ともに確認されなかった。古墳ではない。
ヘ	上安子遺跡	久居市榑原町上安子	県営ほ場整備事業	80㎡	事業地内に中世の遺物が散布する。調査では遺構・遺物ともに確認されなかった。今回の調査区は遺跡の縁辺と考えられる。
ホ	砂田A遺跡 (砂田遺跡)	久居市榑原町砂田	県営ほ場整備事業	48㎡	事業地内に中世の遺物が散布する。調査では遺構・遺物ともに確認されなかった。今回の調査区は遺跡の縁辺と考えられる。
マ	仮) 砂田B遺跡	久居市榑原町砂田	県営ほ場整備事業	64㎡	遺構は確認されなかった。包含層よりサヌカイト製の石鏃（もしくは石匙）が出土した。
ミ	釜生田遺跡	一志郡嬉野町釜生田地内	県営ほ場整備事業	96㎡	事業地内は中世の遺物が散布する地域で、試掘の結果中世土坑やピットが検出され、中世の土器片が出土した。
ム	仮) 松阪・久居線遺跡	一志郡嬉野町黒野	主要地方道 松阪久居線緊急 地方道道路整備 事業	48㎡	三渡川の後背湿地にあたり、遺跡外。
メ	馬場遺跡	一志郡美杉村下多気	主要地方道 嬉野美杉線道路 改良事業	24㎡	完形の土師器皿数枚出土。事業地内の120㎡が遺跡である。

No.	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	遺跡の概要
モ	大久保遺跡	松阪市六根町大久保	県営ほ場整備事業	20㎡	遺構・遺物ともに確認されなかった。
ヤ	松葉遺跡	多気郡勢和村波多瀬	県営畜産経営環境整備事業	272㎡	事業地内ほぼ全域で遺構を検出。土師器皿・鍋、山茶碗などの中世遺物が少量出土。
ユ	馬場遺跡	多気郡勢和村波多瀬	県営畜産経営環境整備事業	64㎡	事業地内ほぼ全域で遺構を検出。遺物は地表面に土師器、陶器などの散布が見られるが、試掘坑からの出土はなかった。
ヨ	野垣内遺跡	松阪市高木町野垣内	県営ほ場整備事業	21.6㎡	遺構は検出されなかった。土師器細片や近世陶器辺が少量出土したが、磨滅しており周辺からの流れ込みと考えられる。
ラ	岡遺跡	松阪市西野町岡	県営ほ場整備事業	32㎡	遺構は確認されず、遺物も土師器細片1点が出土したのみであった。
リ	せぎ遺跡	松阪市西野町せぎ	県営ほ場整備事業	160㎡	溝などの遺構が検出された。ほぼ完形の子茶碗、布目のある瓦片、土師器小片・土師器鍋などが出土している。
ル	菅生遺跡	松阪市菅生町	県営ほ場整備事業	296㎡	弥生時代末頃の遺構（柱穴・土坑・溝）を検出。竪穴住居もしくは大溝と考えられるものもある。遺物は弥生土器（欠山式）を中心に少量の土師器・陶器なども出土。
レ	堀町遺跡	松阪市朝田町字平田、堀町、斎宮	一般国道42号松阪・多気バイパス建設	356㎡	朝田寺西方の自然堤防縁辺に立地。朝田寺の南西にあたる平田地区では、土坑・溝などを検出、弥生中期～中世の土器片が多数出土した。斎宮地区では畦畔と並行する溝を検出、古墳中期～中世の土器片が多数出土した。字名「斎宮」にも十分留意したい。
ロ	仮）六呂木遺跡（頂塚山遺跡）	松阪市六呂木町北出	国道166号道路改良事業	46㎡	六呂木遺跡の北にある頂塚山とよばれる標高140mの丘陵地に、トレンチをいれて調査を行ったが遺構・遺物とも確認されなかった。
ワ	北野遺跡	多気郡明和町菘村	県営ほ場整備事業	168㎡	平成5年度分調査の東に遺構の濃密に分布する地域が広がる事が分かりその調査を行った。溝などの遺構が確認された。
ヲ	曾祢崎遺跡	多気郡明和町上野	県営ほ場整備事業	16㎡	当遺跡は縄文時代以降の遺跡として知られている。今回の調査では、削平を受けたためか遺構・遺物とも確認されなかった。
ン	新徳寺遺跡	多気郡多気町相可字新徳寺	一般国道42号松阪・多気バイパス建設	96㎡	櫛田川右岸の河岸段丘（低位）に立地。縄文土器（堀之内Ⅰ式併行）多数出土。他に石鏝、石匙（未製品サヌカイト）も出土。遺構面では焼土を数カ所で確認した。
あ	仁田遺跡	多気郡多気町仁田	県道伊勢多気線道路改良事業	96㎡	ほぼ完形の子茶碗が1点と常滑製の甕片が出土したが、後世に開墾された地点からであり、遺構はまったく確認されず、周辺部からの流れ込みと考えられる。
い	片倉氏館跡	多気郡多気町四神田	県道伊勢多気線道路改良事業	60㎡	片倉氏館跡とされる方形台地の東端のみの調査である。地山と思われる礫層直上まで果樹の根が貫入していて、遺構は確認されなかった。
う	刀禰屋敷遺跡	伊勢市中村町	県道館町通線道路改良事業	88㎡	遺構・遺物ともに確認されなかった。
え	仮）岡村古墳	度会郡玉城町下田辺字高岡	一般地方道田丸停車場斉明線緊急道路改良事業	30㎡	当古墳は事業地に及んでいない。

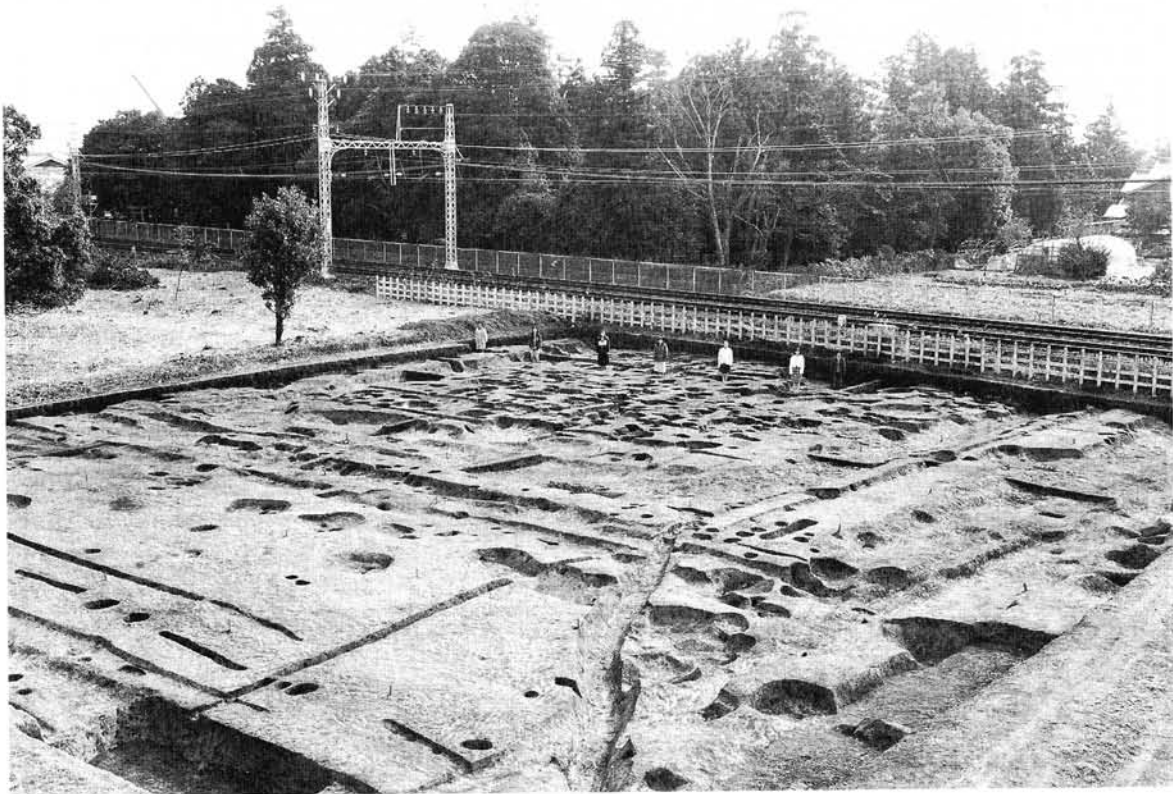
No.	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	遺跡の概要
お	山崎館跡	度会郡度会町立花字山崎	県営ほ場整備事業	193.5㎡	事業地内にある中世の館跡(伝承・山崎館)ではないかと思われる部分に、トレンチをいれて調査を行った。高台の南端で落ち込みがあり、時期不明の土師器片が検出されたが、自然河道の落ちと思われる。高台では、遺構・遺物とも確認できず自然地形と思われる。
か	東出遺跡	度会郡度会町東出	県営ほ場整備事業	32㎡	周知の遺跡の縁辺部。低湿地を利用した沼田またはその上に盛土をした畑である。田はぬかるんで重機が進入できず、畑も客土された耕作土の下は、灰色の粘質土が厚く堆積しており、地山を確認出来ず。遺構、遺物ともに発見出来ず。
き	奇良田遺跡(大野A遺跡)	度会郡度会町奇良田	県営ほ場整備事業	120㎡	柱穴、溝、土坑など多数。遺物は山茶碗片1点、土師器片1点。中世以降か。
く	沖ノ下遺跡	度会郡度会町沖ノ下	県営ほ場整備事業	48㎡	奇良田遺跡の北に接する遺跡。柱穴、溝、土坑など多数。遺物なし。奇良田遺跡と同時期か。
け	中村遺跡	度会郡度会町中村	県営ほ場整備事業	144㎡	田口と上田口の集落の間に広がる。柱穴、溝、土坑を多数検出。遺物は土師器片数点出土。中世以降。
こ	仮)細越遺跡	志摩郡浜島町南張	県営ほ場整備事業	2.4㎡	遺構は確認されなかった。遺物は、耕作土中に陶器などが混じっているが、付近の耕画ほ場整備事業作土は客土であり、遺物も客土とともに運び込まれたと考えられる。
さ	茂原遺跡	多気郡宮川村茂原	新荻原高等学校実習棟・寄宿舎建設	136㎡	調査範囲は、過去の造成工事によりすでに破壊されている。事業地内500㎡に弥生時代の遺跡あり。
し	宇原野遺跡	南牟婁郡御浜町下市木地内	県営ほ場整備事業	72㎡	遺構・遺物ともに確認されなかった。
す	仮)鮎田古墳	南牟婁郡紀宝町鮎田	県道小船紀宝線道路改良事業	12㎡	落石止めの工事の際出た礫が塚状に積まれていた。
せ	丸柱遺跡	阿山郡阿山町丸柱	国補特種改良一種国道422号	32㎡	事業地は遺跡外で、事業地南側に遺跡が広がる可能性が高い。
そ	向出遺跡	阿山郡阿山町字石川	地方道馬場丸柱線緊急整備事業	32㎡	遺構・遺物ともに確認されなかった。
た	奥知氏館跡	上野市山神字東出	地すべり事業	45㎡	奥知氏館跡と山神寄建神社古墳の接する地点。江戸時代の遺物を確認したが、流れ込みまたは盛土の可能性はある。中世の遺構・遺物は確認されなかった。
ち	井戸地遺跡	上野市土橋字井戸地	県営ほ場整備事業	328㎡	列・柱穴の他石組と思われる遺構が検出された。瓦器・土師器・須恵器・青磁等が多数出土した。奈良時代から中世にかけての遺跡と考えられる。
つ	北出遺跡	上野市山神字北出	県営ほ場整備事業	440㎡	山神の西辺の谷にあたる。柱穴を中心に土坑・溝が検出された。遺物は土師器・須恵器・瓦器・陶器が出土し、奈良～鎌倉時代の遺跡と考えられる。
て	久保遺跡	上野市山神字久保	県営ほ場整備事業	56㎡	現集落の南辺部にあたり、柱穴・土坑が検出された。遺物は陶器片が弱冠出土のみで中世の遺跡と考えられる。
と	火山遺跡	上野市山神字火山	県営ほ場整備事業	256㎡	北出遺跡の北部にあたる。柱穴・土坑・溝・杭列が検出された。遺物は土師器・瓦器・陶器・磁器が出土した。特に室町時代頃と思われる土符が出土した。鎌倉～室町時代を中心とした遺跡と考えられる。

No.	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	遺跡の概要
な	西出遺跡	上野市山神字西出	県営ほ場整備事業	144㎡	山神の現集落の南西辺にあたる。遺構は柱穴を中心に土坑・溝が検出された。土師器・須恵器・黒色土器・陶器が出土し、奈良～中世の遺跡と考えられる。
に	城屋敷跡	上野市山神	県営ほ場整備事業	64㎡	柱穴・土坑が検出された。遺物は土師器・須恵器・黒色土器が出ており、中世以前の遺跡と考えられる。
ぬ	仮)西高倉遺跡	上野市西高倉	一般地方道信楽上野線道路改良事業	16㎡	事業地は遺跡外である
ね	横尾遺跡	上野市安場西横尾	国道368号道路改良事業	56㎡	事業は遺跡外である。
の	仮)西横尾遺跡(安場古墳)	上野市安場西横尾	国道368号道路改良事業	60㎡	事業地内150㎡に、中世の遺跡が認められる。
は	市場遺跡	上野市上神戸	主要地方道上野名張線道路改良事業	20㎡	木津川の氾濫源であったと考えられる。遺構は検出されず、微量の遺物が出土したの道みであった。
ひ	仮)三軒家城跡	上野市三軒家	国道163号島ヶ原バイパス道路改良事業	36㎡	陶器粘土採取による地形の変形で、城跡ではない。
ふ	和田遺跡	上野市喰代地内	一般地方道中村上野線(道新)地方特定道路整備事業	20㎡	調査地西側は室町時代の安場氏館跡に、調査地内は縄文～中世の遺跡であるが、遺構・遺物ともに確認できなかった。
へ	仮)川南遺跡	阿山郡島ヶ原村字川南	国道163号道路改良事業	77㎡	遺構・遺物ともに確認できなかった。
ほ	東追付遺跡	阿山郡島ヶ原村大道地内	一般地方道島ヶ原停車場観菩提寺線道路改良事業	48㎡	遺構・遺物ともに確認できなかった。
ま	高寺遺跡	名賀郡青山町伊勢路	県営ほ場整備事業	40㎡	土坑・柱穴を確認。遺物から鎌倉～室町時代の集落と考えられる。
み	六地藏B遺跡	名賀郡青山町伊勢路	県営ほ場整備事業	144㎡	土坑・柱穴・堅穴住居などを確認。遺物から、古墳時代、中世の遺跡と考えられる。遺跡内に六地藏1号墳が所在する。
む	六地藏C遺跡	名賀郡青山町伊勢路	県営ほ場整備事業	28㎡	溝・土坑を確認。遺物から鎌倉～室町時代の集落と考えられる。
め	仮)伊勢路D遺跡	名賀郡青山町伊勢路	県営ほ場整備事業	40㎡	遺構・遺物ともに確認できなかった。
も	宮ノ後遺跡	名張市中村字宮ノ後	広域農道事業	34㎡	名張市の周知の遺跡である。事業地内の5ヵ所に試掘坑を入れて試掘調査を行ったが、遺構・遺物ともみられなかった。遺跡の縁片部にあたると思われる。
や	上小波田遺跡	名張市上小波田	広域農道事業	26㎡	広域農道にともなう分布調査によって発見された遺跡である。事業地内の4ヶ所に試掘坑を入れて試掘調査を行った結果、遺構はみられなかったが、古式土師器片・瓦器片が出土した。ただし遺物はいずれも磨耗が激しく、事業地外からの流入と思われる。
ゆ	深ヶ遺跡	名張市滝之原字深ヶ	県営ほ場整備事業	24㎡	名張市の周知の遺跡である。事業地内の水田3ヵ所に試掘坑を入れて試掘調査を行ったが、遺構・遺物ともみられなかった。遺跡の縁片部にあたると思われる。

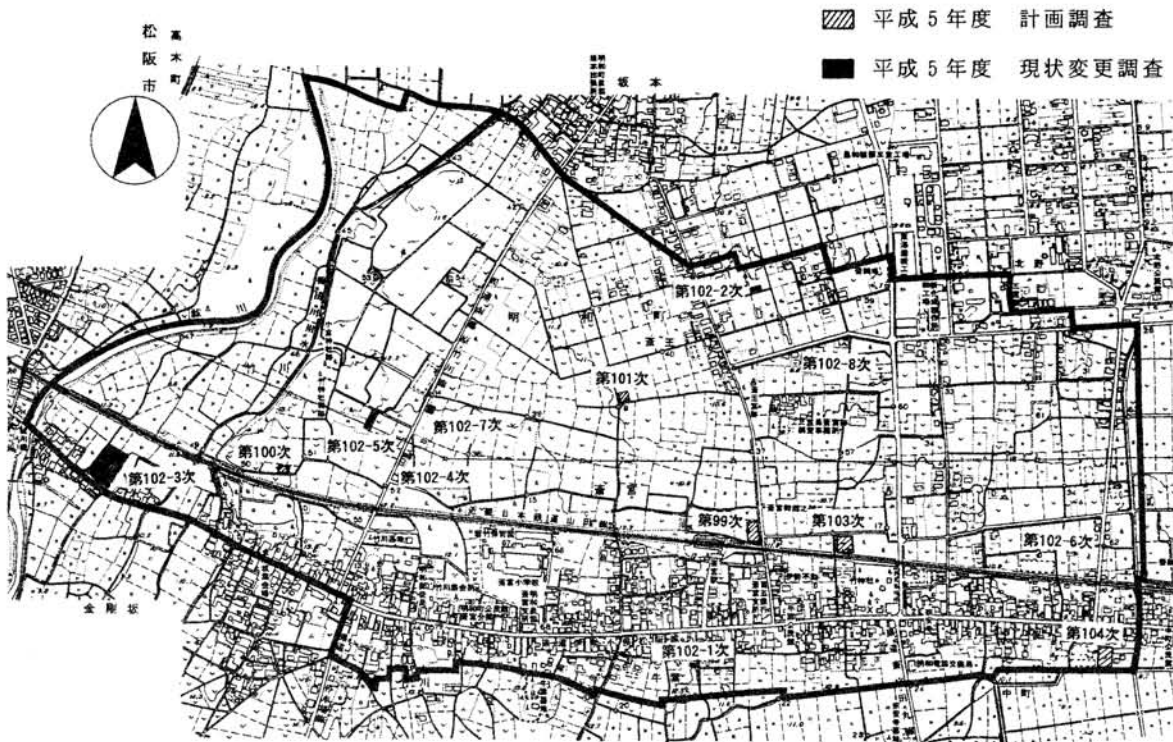
県（齋宮歴史博物館）担当分

No.	30-1	遺跡名	齋宮跡 第99次調査	所在地	明和町齋宮字内山3046-11 他
調査原因	計画調査			事業主体	三重県教育委員会
調査機関	齋宮歴史博物館			調査期間	H5. 4. 5～7. 13
調査面積	740㎡			担当者	大川勝宏
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>平成3年度から継続されてきた近鉄齋宮駅北側の3階目の調査になり、これまで奈良時代～鎌倉時代の遺構が発見されてきている。</p> <p>今回の調査では、史跡東部において確認されている方格地割を構成する道路の側溝と交差点の一部になるとみられる部分や、平安時代前期～末期（末期が中心）の掘立柱建物約40棟、井戸跡などが見つかっている。</p> <p>第93次・第95次調査の成果とあわせ考えると、今回調査した内山地区から上園地区一帯にも方格地割の規制がはたらいていた可能性が充分指摘できる。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ○奈良時代後期竪穴住居 ○平安時代前期～末期の掘立柱建物約40棟 ○平安時代前期の井戸跡 ○方格地割の区画道路跡の側溝および交差点の一部 ○平安時代中期の不明土埴 		<ul style="list-style-type: none"> ○平安時代前期～末期の土器 ○不明土埴出土の土師器・皿および壺内部に納められた延喜通寶約10枚 ○緑釉陶器約70片 ○ふいご羽口 <p style="text-align: right;">他</p>
関連文献					
No.	30-2	遺跡名	齋宮跡 第100次調査	所在地	明和町竹川字中垣423
調査原因	計画調査			事業主体	三重県教育委員会
調査機関	齋宮歴史博物館			調査期間	H5. 7. 19～10. 13
調査面積	280㎡			担当者	野原宏司
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>齋宮跡発見夫端緒となった古里地区の南側にあたる中垣内地区では、飛鳥・奈良時代、鎌倉時代の遺構・遺物が検出されているが、当該時期の齋宮跡を解明する目的で調査を実施した。</p> <p>調査の結果、奈良時代の柵列と掘立柱建物を検出し、柵列の柱筋は東西に延びることが判明した。</p> <p>調査区西側、第85-8次調査の飛鳥時代柵列の柱筋とはかなり異なっているが、近鉄線を挟んで南側の第58-4次調査の柵列がほぼ南北であることから飛鳥～奈良時代にかけて異なる方位による新たな区画の存在と遷宮が想定された。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ○奈良時代の柵列 ○奈良時代の掘立柱建物 		<ul style="list-style-type: none"> ○弥生時代前期の土器片 ○飛鳥時代～奈良時代の土器 ○平安時代～鎌倉時代の土器
関連文献 『齋宮跡 発掘調査ニュース 第29号』 齋宮歴史博物館					
No.	30-3	遺跡名	齋宮跡 第101次調査	所在地	明和町齋宮字篠林3194 他
調査原因	計画調査			事業主体	三重県教育委員会
調査機関	齋宮歴史博物館			調査期間	H5. 7. 19～10. 13
調査面積	540㎡			担当者	大川勝宏
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>今年度の史跡環境整備に先立ち史跡東部の平安時代前半の方格地割の北西隅にあたる可能性のある当地点の遺構の状況の確認目的として調査を実施した。</p> <p>明確に直角の道路角をつくらないが、最終的に鎌倉時代に埋没したとみられる幅5m内外の道路跡が発見され、この道路が調査区南端で二方向に分岐する事が確かめられた。この点から平安時代に溯ってこの地点が道路の角となっていた可能性は高いと考えられる。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ○平安時代後期土埴 ○平安時代～鎌倉時代道路跡の側溝および交差点の一部 ○鎌倉時代前葉の木棺墓3基 		<ul style="list-style-type: none"> ○平安時代～鎌倉時代の土器 ○中世墓内から出土した土師器・鍋、青磁碗片、短刀
関連文献 『齋宮跡 発掘調査ニュース 第29号』 齋宮歴史博物館					

No.	30-4	遺跡名	齋宮跡 第102次調査 史跡現状変更調査	所在地	明和町齋宮地内地		
調査期間	H5. 4. 9～H6. 3. 31		事業主体	明和町教育委員会	調査機関	齋宮歴史博物館	
調査回数	調査面積	調査期間		地番・地積		原因	
第102-1次	60㎡	H5. 4. 9～4. 23		明和町齋宮字木葉		車庫兼物置の新築	
第102-2次	90㎡	H5. 6. 16～7. 26		〃 〃 字楽殿		個人住宅の新築	
第102-3次	390㎡	H5. 5. 11～3. 31		〃 竹川字花園633-1 他		盛土工事	
第102-4次	50㎡	H5. 9. 17～9. 30		〃 〃 字東裏		個人住宅の新築	
第102-5次	260㎡	H5. 10. 12～11. 25		〃 〃 字中垣内		住宅兼店舗の新築	
第102-6次	270㎡	H5. 12. 16～1. 13		〃 〃 齋宮字鍛冶山内地内		側溝の改修	
第102-7次	250㎡	H6. 2. 2～3. 31		〃 竹川字東裏		個人住宅の新築	
第102-8次	310㎡	H6. 2. 3～3. 7		〃 齋宮字楽殿地内		側溝の新設	
No.	30-5	遺跡名	齋宮跡 第103次調査	所在地	明和町齋宮字柳原2779-3 他		
調査原因	計画調査			事業主体	三重県教育委員会		
調査機関	齋宮歴史博物館			調査期間	H5. 10. 4～H6. 1. 25		
調査面積	1,170㎡			担当者	大川勝宏		
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>史跡東部に広がっていた方格地割のほぼ中央部にあたり、区画内に現在竹神社を含む方形区画の北西角の部分に調査した。</p> <p>地割りを構成する幅12～13mの東西・南北の道路跡およびこれらが直交する交差点が発掘された他、多数の平安時代前期の掘立柱建物、また、現在の竹神社の社殿地を囲むようにして東西106m、南北97mの方形の区画をつくる大規模な竪列遺構とみられる掘立柱列の北西隅の部分が発見された。</p> <p>今回調査した区画も昨年度の第98次調査で齋宮内院の一画と推定されたブロックとならび、平安時代の齋宮中枢部の一部と考えられる。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ○奈良時代後期竪穴住居 ○平安時代初期の竪列 ○平安時代前期～後期の掘立柱建物 ○方格地割道路跡の側溝および交差点の一部 ○平安時代前期～中期の土器溜まり土坑3基 ○方形区画内部を細分する平安時代後期の区画溝 		<ul style="list-style-type: none"> ○平安時代前期～末期の土器 ○土器溜まり出土の9世紀後葉～10世紀前葉の土師器類 ○緑釉陶器約40片 ○志摩式製塩土器 ○瓷器三足盤を模倣したとみられる土師器（脚部のみ） <p style="text-align: right;">他</p>	
関連文献	『史跡齋宮跡第103次（柳原地区）現地説明会資料』齋宮歴史博物館						
No.	30-6	遺跡名	齋宮跡 第104次調査	所在地	明和町齋宮字笛川 他		
調査原因	計画調査			事業主体	三重県教育委員会		
調査機関	齋宮歴史博物館			調査期間	H6. 1. 31～6. 3. 31		
調査面積	350㎡			担当者	大川勝宏		
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>平成4年度の第96-5次調査で八脚門が発見された方格地割の西南区画に対する東南区画の周辺中央部を調査し、門等の遺構の有無を調べた。</p> <p>調査の結果、八脚門、竪列等の遺構は検出されず、方格地割に関連する時期の遺構としては、井戸1基を検出するにとどまった。</p> <p>また、方格地割の南辺に相当するとみられる部分で近世以後の溝が発見され、平安時代の区画溝を踏襲している可能性がある。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ○平安時代前期の井戸 ○鎌倉時代後期の井戸 ○室町時代の溝 ○室町～江戸時代の溝 		<ul style="list-style-type: none"> ○平安時代前期・鎌倉時代後期・室町～江戸時代の土器 	
関連文献	なし						



第103次調査 検出された平安時代初期の柵列



No.	31	遺跡名	若林遺跡（試掘）	所在地	桑名市大字蓮花寺字若林
調査原因	鉄塔建設			事業主体	(株)東海デジタルホン
調査機関	桑名市教育委員会			調査機関	H5. 6. 7～6. 11
調査面積	67.3㎡			担当者	齋藤 理
文化財保護法に関する文書番号※1					※2 新発見
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
桑名市のはぼ中央部、標高85m前後の丘陵に位置する。丘陵頂部は約1,600㎡の平坦面となっているが、遺構は確認されなかった。			なし	・瀬戸・灰釉練鉢	
関連文献					
No.	32	遺跡名	安永城跡（試掘）	所在地	桑名市大字安永
調査原因	住宅建設			事業主体	(株)大洋物産
調査機関	桑名市教育委員会			調査機関	H6. 1. 24～1. 26
調査面積	400㎡			担当者	齋藤 理
文化財保護法に関する文書番号※1				教社第772号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
調査地点は桑名市の南東部、員弁川北岸の沖積地である。遺跡の位置、範囲等ははっきりしておらず、今回の調査でも遺構は確認できなかった。			なし	・須恵器 ・灰釉陶器 ・山茶碗 ・古瀬戸 ・近世陶器	
関連文献					
No.	33	遺跡名	平尾城跡	所在地	四日市市平尾町3025他
調査原因	市道改良事業			事業主体	四日市市土地開発公社
調査機関	四日市市遺跡調査会			調査機関	H5. 2. 10～8. 31
調査面積	3,023㎡			担当者	川崎正幸
文化財保護法に関する文書番号※1				(番号なし) H5. 1. 4 付け	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
三滝川左岸の、標高約40mのなだらかな台地上に立地する。西側が自然崖となるが、他は台地面と地続きである。 土塁、堀切は比較的小規模であるが、自然崖に面する主郭の土塁は、他の部分より規模が大きく、内側に石組みが見られた。 郭内では土坑、ピット、浅い溝、井戸、集石遺構、郭外では、土坑、ピット、溝、堀切、土塁、掘立柱建物、集石土坑等を検出した。			・土塁・堀切 ・井戸・土坑・ピット ・集石遺構・集石土坑 ・掘立柱建物	・土師器（皿、羽釜等） ・陶器（甕、鉢、播鉢等） ・山茶碗・灰釉陶器・須恵器 ・施釉陶器・天目茶碗 ・宋銭	
関連文献					
『三重の中世城館』（三重県教育委員会、1976） 『四日市市史 第三巻 史料編 考古II』（四日市市、1993）					

No.	34	遺跡名	西野山遺跡(試掘)	所在地	四日市市南小松町字西野山
調査原因	南小松工業団地造成事業			事業主体	四日市市土地開発公社
調査機関	四日市市教育委員会			調査機関	H5.3.22~4.20
調査面積	約672㎡			担当者	葛山拓也
文化財保護法に関する文書番号※1				教社第728号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>内部川右岸の台地上に所在する。 開発予定地内に4×4mの試掘調査坑を42ヶ所設定した。 溝、土坑、ビットなど検出したが、遺物は確認されなかった。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 溝 土坑 ビット 	なし	
関連文献	四日市市教育委員会『四日市市文化財保護年報 3』 1992				
No.	35-1	遺跡名	西野遺跡(試掘)	所在地	四日市市南小松町字西野
調査原因	南小松工業団地造成事業			事業主体	四日市市土地開発公社
調査機関	四日市市教育委員会			調査機関	H5.3.22~4.20
調査面積	約816㎡			担当者	葛山拓也
文化財保護法に関する文書番号※1				教社第728号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>内部川右岸の台地上に所在する。 開発予定地内に4×4mの試掘調査坑を51ヶ所設定した。 溝、土坑、ビットなどとともに、削平された石室を検出。西野古墳群が従来確認されていた1~7号墳より西方にも広がっていることが判明。 遺物は石室に伴うものの他、縄文土器、石鏃など検出。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 石室3基 溝 土坑 ビット 	<ul style="list-style-type: none"> 縄文土器 土師器 須恵器 石鏃 刀子 耳環 銭 	
関連文献					
No.	35-2	遺跡名	西野遺跡	所在地	四日市市南小松町字西野
調査原因	南小松工業団地造成事業			事業主体	四日市市土地開発公社
調査機関	四日市市遺跡調査会			調査期間	H5.7.1~6.1.31
調査面積	約10,000㎡			担当者	春日井 恒、葛山拓也
文化財保護法に関する文書番号※1				(番号なし) H5.6.18付け	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>内部川右岸の台地上に所在する。 縄文時代晩期から奈良時代まで、墓域を形成していた遺跡である。 縄文時代晩期では合口土器棺、古墳時代中期末の土器棺墓、古墳時代終末期の横穴式石室、小石室、土杭墓、土器棺墓、奈良時代の再葬墓などを検出。古墳時代終末期には、数基がまとまって小グループを形成している。 (なお古墳については西野古墳群として扱う。)</p>			<ul style="list-style-type: none"> 溝、土杭、ビット 土器棺墓 5基 土杭墓 多数 再葬墓 1基 焼土杭 2基 掘立柱建物跡 1棟 (以下西野古墳群) 横穴式石室、小石室、墓道、周溝 	<ul style="list-style-type: none"> 縄文土器(突帯文土器、変容壺と思われる) 土師器(5C末~7C前) 須恵器(7C初~8C) 石鏃 石棒 鉄鏃 刀子 	
関連文献					

No.	36	遺跡名	西野古墳群	所在地	四日市市南小松町字西野	
調査原因	南小松工業団地造成事業			事業主体	四日市市土地開発公社	
調査機関	四日市市遺跡調査会			調査期間	H5.7.1~6.1.31	
調査面積	約10,000㎡			担当者	葛山拓也	
文化財保護法に関する文書番号※1		(番号なし) H5.6.18付け			※2	新発見
遺 跡 の 概 要						
<p>内部川右岸の台地上に所在する。今回発見されたものは、試掘調査により発見されたものを含めて15基で、従来調査区外東側で墳丘が確認されていた7基とあわせ、今のところ西野古墳群は22基で形成されている。 調査以前、既に開鑿され、墳丘は全て失っていた。主体部は全て石室と思われ、横穴式石室が8基、小石室が7基である。石室の残存状態も悪く、遺物が元位置を留めるものは少ない。小石室からは全く遺物は検出されなかった。遺物が検出された横穴式石室は概ね7世紀前半頃でおさまるとみられる。</p>						
古墳名	墳形	規模(m)	主体部	出土遺物	時期	備考
8号墳	円墳	径6.0	横穴式石室	土師器、須恵器、鉄鏃	7C初	墓道、周溝
9号墳	—	—	小石室	—	—	—
10号墳	円墳	径4.6	小石室	—	—	—
11号墳	—	—	小石室	—	—	—
12号墳	—	—	横穴式石室	土師器、須恵器、耳環	7C前半	墓道
13号墳	—	—	小石室	—	—	—
14号墳	—	—	横穴式石室	須恵器、鉄鏃、刀子	7C前半	—
15号墳	—	—	小石室	—	—	—
16号墳	—	—	小石室	—	—	—
17号墳	方墳か	6.5×4.5	横穴式石室か	須恵器	7C前半	—
18号墳	円墳	径6.0	横穴式石室か	須恵器	7C前半	—
19号墳	—	—	小石室	—	—	—
20号墳	方墳	一辺7.0	横穴式石室	—	—	墓道、周溝
21号墳	方墳	5.0×3.5	横穴式石室	—	—	周溝
22号墳	方墳	6.1×4.8	横穴式石室	須恵器	7C前半	周溝
関連文献						
No.	37-1	遺跡名	西ヶ谷遺跡	所在地	四日市市東坂部町字西ヶ谷他	
調査原因	住宅団地造成			事業主体	鉄建建設株式会社	
調査機関	四日市市遺跡調査会			調査期間	H5.4.1~7.19	
調査面積	約2,300㎡			担当者	春日井 恒	
文化財保護法に関する文書番号※1		(番号なし) H5.2.24付け			※2	周知
遺 跡 の 概 要		主 な 遺 構		主 な 遺 物		
<p>部田川北岸の丘陵及び丘陵裾部に広がる古墳時代の集落跡と思われる遺跡である。1989年に一部試掘調査が行われ、古墳時代の土師器・須恵器等が出土している。 1993年1月~2月にかけて、四日市市教育委員会が行った試掘・地中沙により遺構、遺物が確認された区域の発掘調査を行ったところ、7世紀前半代と思われる竪穴住居跡3棟、土師器焼成坑1基等を検出し、集落跡であることを確認した。なお、当遺跡の東方約200mのところには、ほぼ同時期の西ヶ谷集落である可能性が高いものと思われる。</p>		<p>○古墳時代後期(7C前半) ・竪穴住居跡 3棟 ・土師器焼成坑 1 ・他 土坑 ・溝 ・ピット</p>		<p>○古墳時代後半(7C前半) ・土師器(坏、甕、甌等) ・須恵器(蓋坏、高坏、甕、鉢等) ・竊道具?</p>		
関連文献 『四日市市文化財保護年報1-平成元年度-』(四日市市教育委員会1991) 『西ヶ谷古窯跡部』四日市市遺跡調査会文化財調査報告書Ⅷ(四日市市遺跡調査会1992)						
No.	37-2	遺跡名	西ヶ谷遺跡(試掘)	所在地	四日市市山之一色町字堂前	
調査原因	耕地整理			事業主体	山之一色町堂前耕地整理事業準備委員会	
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H5.10.20~10.26	
調査面積	368㎡			担当者	川崎正幸	
文化財保護法に関する文書番号※1		教文第352号			※2	周知
遺 跡 の 概 要		主 な 遺 構		主 な 遺 物		
<p>垂坂丘陵の南斜面裾部に立地する。H5.4.1~7.19にかけて行われた第1次調査場所に隣接する。 4m×4mの試掘調査坑を23ヶ所設定して調査を行ったところ、10ヶ所で遺構を検出した。</p>		<p>・ピット ・土坑 ・溝 ・土器焼成坑 2基 ・竪穴住居 1棟</p>		<p>・土師器(甕、高坏) ・須恵器(蓋坏、甕、提瓶)</p>		
関連文献 『平成4年度三重県埋蔵文化財センター年報4』(三重県埋蔵文化財センター、1993)						



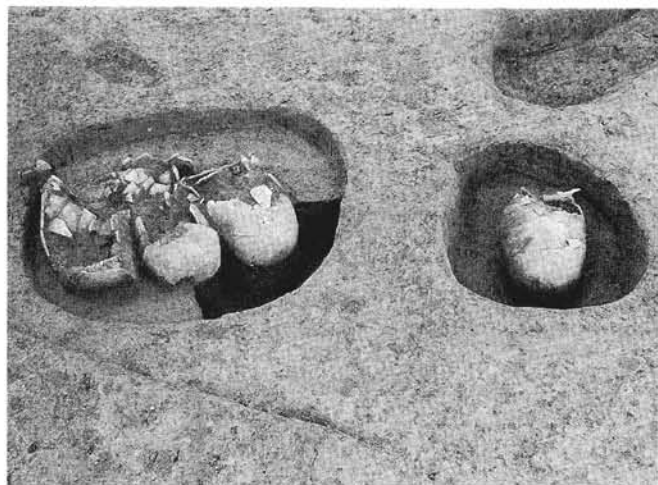
西野古墳群 8号墳・9号墳・10号墳
(北西より)



合口土器棺



西野古墳群11号墳



土器棺墓

No.	38	遺跡名	茶臼山4号墳	所在地	四日市市大字泊山字盆井
調査原因	地中送電線建設			事業主体	中部電力株式会社
調査機関	四日市市遺跡調査会			調査期間	H5.7.16~8.6
調査面積	約476㎡			担当者	春日井 恒
文化財保護法に関する文書番号※1				(番号なし) H5.6.10付け	※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>海岸部を臨む丘陵の東縁部、標高30m程のところに築かれた古墳群である。 円墳4基から成ると言われるが、戦後の鉄塔建設による破壊が著しく、調査した4号墳の墳丘は、既に削平されていた。鉄塔周辺には、埴輪片や土師器片が散乱している。 調査では、墳丘及び主体部を確認することはできなかったが、性格不明の溝跡を検出し、5世紀前半頃と思われる埴輪片や土師器片が出土している。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・古墳時代(5世紀前半) ・溝 1条 		<ul style="list-style-type: none"> ○古墳時代(5世紀前半) ・埴輪(円筒形、朝顔形、形象等) ・土師器(甕、高坏) 	
関連文献	『四日市市史 第2巻 資料編 考古I』(四日市市1988)				
No.	39	遺跡名	浄裕遺跡(試掘)	所在地	四日市市中川原三丁目198-1、199
調査原因	共同住宅建設			事業主体	個人
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H5.7.28
調査面積	96㎡			担当者	葛山拓也
文化財保護法に関する文書番号※1				教文第204号	※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>三滝川と鹿化川に挟まれた低地に所在する。昭和52年の発掘調査では弥生土器、土師器、須恵器、山茶碗等が検出されている。今回の調査はそれより80m程西方の地点である。 開発予定地内に4×4mの試掘調査坑を6ヵ所設定した。 わずかに遺物を検出したが遺構は確認されなかった。</p>		なし		<ul style="list-style-type: none"> ・土師器 ・灰釉陶器 ・山茶碗 ・磁器 各1点 	
関連文献	四日市市教育委員会『埋蔵文化財包蔵地の発掘調査』1979				
No.	40	遺跡名	真造寺遺跡	所在地	四日市市小牧町字真造寺
調査原因	土地区画整理			事業主体	四日市市小牧町南土地区画整理組合
調査機関	四日市市遺跡調査会			調査期間	H5.8.16~8.27
調査面積	300㎡			担当者	春日井 恒
文化財保護法に関する文書番号※1				(番号なし) H5.7.5付け	※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>朝明川南岸の台地上に所在し、昭和30年代から弥生土器、石器等が採集されていた遺跡である。1989年3月に行われた試掘調査によって、遺構、遺物が確認された区域について発掘調査を行った。 調査では、弥生時代の遺構、遺物は確認されず、古墳時代後期の竪穴住居跡1棟、土坑2基、時期不明の掘立柱建物跡1棟、近世頃と思われる焼土坑2基を検出した。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○古墳時代後期 ・竪穴住居跡 1棟 ・土坑 2基 ○近世 ・焼土坑(火葬穴) 2基 ○時期不明 ・掘立柱建物跡1棟 ・ピット 多数 		<ul style="list-style-type: none"> ○古墳時代後期 ・土師器(甕等) ・須恵器(坏身、坏蓋、甕等) ・砥石 	
関連文献	『四日市市文化財保護年報1—平成元年度—』(四日市市教育委員会1991)				

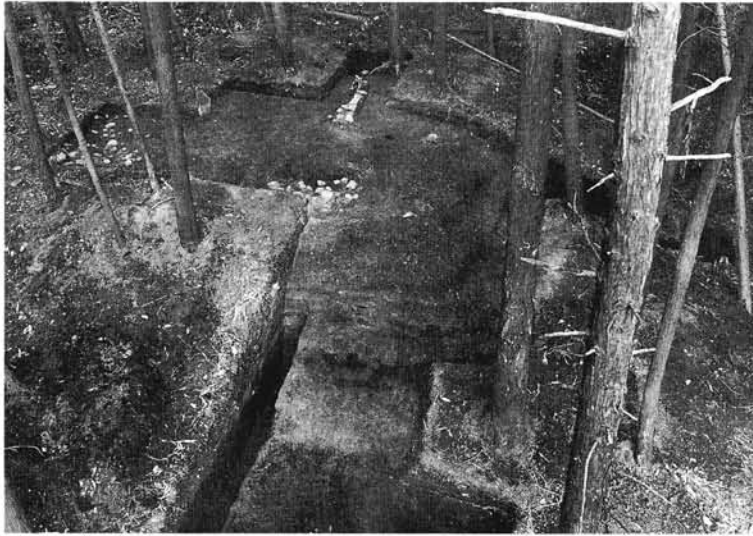
No.	41	遺跡名	小方縄遺跡(試掘)	所在地	四日市市大治田3丁目
調査原因	工場建設			事業主体	(株)ナカガワ
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H5.9.10
調査面積	96㎡			担当者	川崎正幸
文化財保護法に関する文書番号※1				教文第258号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>内部川左岸から600m程北方の沖積低地上に立地する。標高約400mである。</p> <p>基本的層序は、耕土-灰褐色粘質土-灰色粘土-暗灰色粘土-灰白色粗砂+細砂-灰色粘土-灰色細砂である。4m×4mの試掘調査坑を6ヶ所指定して調査を行ったが、1ヶ所で灰褐色粘質土中から土師器片が出土したのみで、他に遺構建物は確認されなかった。</p>			なし		土師器片
関連文献					
No.	42-1	遺跡名	米田遺跡(試掘)	所在地	四日市市小古曾3丁目892 他
調査原因	配送センター建設			事業主体	(株)秋田運輸
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H5.9.21~9.30
調査面積	448㎡			担当者	川崎正幸
文化財保護法に関する文書番号※1					※2 新発見
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>『四日市市史』編纂事業に伴う分布調査を契機として発見された。</p> <p>開発計画予定地内に4m×4mの試掘調査坑を28ヶ所設定して調査を行った所、26ヶ所から土師器、山茶碗、灰釉陶器、陶器、青磁等が多数出土した。</p>			なし		<ul style="list-style-type: none"> ・土師器(皿、羽釜、鍋) ・陶器(甕、鉢、搦鉢) ・山茶碗・山皿・灰釉陶器・青磁等 ※山茶碗墨書「西坊」等
関連文献 『四日市市史 第三巻 史料編 考古II』(四日市市、1993)					
No.	42-2	遺跡名	米田遺跡	所在地	四日市市小古曾3丁目892 他
調査原因	配送センター建設			事業主体	(株)秋田運輸
調査機関	四日市市遺跡調査会			調査期間	H5.12.6~6.2.4
調査面積	1,250㎡			担当者	川崎正幸
文化財保護法に関する文書番号※1					※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>内部川左岸の沖積低地上に立地する。基本的層序は、耕土-灰褐色粘質土-暗灰色粘質土-灰色粘質土-灰色粘土-青灰色粘土-黒色粘土-褐色粘土(木製品、木片を多く含む)-暗青灰色粘土-青灰色細砂-灰白色粗砂である。</p> <p>灰色粘質土層上面で溝、土坑、ビット、柵列、灰白色粗砂層上面で溝、土坑、ビット、井戸、自然流路を検出した。</p>			土坑、ビット、柵列、溝、井戸		<ul style="list-style-type: none"> ・土師器(皿、羽釜、鍋等)・陶器(甕、捏鉢、搦鉢等)・山茶碗 ・山皿・灰釉陶器・施釉陶器・青磁・白磁・瓦器・木製品(下駄、曲物等)・漆器・五輪塔・石臼・宋銭 等
関連文献					

No.	43	遺跡名	市場城跡 (試掘)	所在地	四日市市市場町字大屋敷2093-1 2093-2
調査原因	分譲住宅建設			事業主体	(株)名泗コンサルタント
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H5.11.19~11.22
調査面積	64㎡			担当者	川崎正幸
文化財保護法に関する文書番号※1			教文第420号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>朝明川左岸の河岸段丘上に立地する。屋敷群と想定される土塁が主郭を取り囲むように残存しており、開発計画予定地内にも北西隅に土塁の痕跡が残存している。</p> <p>6m×1mのトレンチを3本、4m×4mの試掘調査坑を3ヶ所設定して調査を行ったところ、東西方向の土塁は旧里道によって削平されており、南北方向の土塁は置土下に残存していることが判明した。また、土坑、ピット、溝を検出した。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・土坑 ・ピット ・溝 ・土塁 		<ul style="list-style-type: none"> ・陶器 (甕・鉢) ・施釉陶器
関連文献 『三重の中世城館』(三重県教育委員会、1976)、『四日市市史 第三巻 史料編 考古II』(四日市市、1993)					
No.	44	遺跡名	西台古墳 (試掘)	所在地	四日市市河原田町2065-1 他
調査原因	宅地造成			事業主体	(株)エステートコスモ
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H5.11.26~11.29
調査面積	404㎡			担当者	川崎正幸
文化財保護法に関する文書番号※1			教文第422号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>鈴鹿川と内部川にはさまれた低地上に立地する。墳形・規模・主体部等は明らかとなっていないが、須恵器、鉄器、鉄剣の出土が伝えられている。</p> <p>基本的総序は耕土-灰褐色粘質土-灰色粘土-青灰色粗砂-暗青灰色粘土-青灰色細砂である。</p> <p>灰色粘土から山茶碗、陶器片、暗青灰色粘土から土師皿片が出土したが、遺構は検出されなかった。</p>			なし		<ul style="list-style-type: none"> 土師器皿片 陶器片 山茶碗
関連文献					
No.	45	遺跡名	小判田遺跡 (試掘)	所在地	四日市市久保田
調査原因	宅地造成			事業主体	個人
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H5.12.2
調査面積	48㎡			担当者	川崎正幸
文化財保護法に関する文書番号※1			教文第442号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>三滝川下流右岸の沖積低地上に立地する。1976年の1次調査では、掘立柱建物、土坑、溝、井戸等が検出されている。</p> <p>基本的総序は、耕土-灰褐色粘質土-灰色粘質土-灰色粗砂-黒灰色粘土-青灰色粘土-青灰色細砂-灰色粘土-黒灰色粘土-青灰色粘土-灰色細砂である。黒灰色粘土と青灰色細砂、灰色細砂がそれぞれ1次調査の遺物包含層と遺構面に相当するが、いずれからも遺構・遺物を検出し得なかった。灰色粘質土から山茶碗、灰色粗砂から土師器皿が出土したが、2次堆積によるものと思われる</p>			なし		<ul style="list-style-type: none"> ・土師器皿 ・山茶碗
関連文献 『四日市市埋蔵文化財調査報告12 小判田遺跡』(四日市市教育委員会、1977)					

No.	46	遺跡名	赤堀城跡（試掘）	所在地	四日市市城西町
調査原因	共同住宅建設			事業主体	個人
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H5.12.22
調査面積	80㎡			担当者	春日井 恒
文化財保護法に関する文書番号※1				教文第483号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>平野部に所在する中世城館であるが、過去3回の発掘調査により、主郭の一部を検出している。</p> <p>今回の試掘調査は、遺跡推定範囲の北西部にあたり、4m×4mの試掘調査坑を5ヵ所設定し調査を行ったが、中世の遺物が若干出土しただけで、明確な遺構は確認できなかった。</p>			なし	○中世 ・土師器・陶器・山茶碗	
関連文献	『赤堀城跡—四日市都市計画道路事業3・4・24堀木日永線に伴う発掘調査』四日市市埋蔵文化財調査報告15（四日市市教育委員会、1986） 『赤堀城跡2』四日市市遺跡調査会文化財調査報告書Ⅳ（四日市市遺跡調査会、1989） 『赤堀城跡3』四日市市遺跡調査会文化財調査報告書Ⅴ（四日市市遺跡調査会、1993）				
No.	47	遺跡名	藤池遺跡（試掘）	所在地	四日市市西坂部町2916-1外
調査原因	土地造成			事業主体	(有)フジエステート
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H5.12.25
調査面積	32㎡			担当者	春日井 恒
文化財保護法に関する文書番号※1				教文第490号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>海蔵川の支流、江田川の北岸に位置する古墳時代の遺跡である。</p> <p>開発計画区域内に4m×4mの試掘調査坑を2ヵ所設定し、調査を行ったが、以前の畑地利用の際の攪乱が著しく、土師器や須恵器が若干出土したがいずれの試掘調査坑からも遺構を確認することはできなかった。</p>			なし	○古墳時代後期 ・土師器・須恵器	
関連文献					
No.	48	遺跡名	落川原遺跡（試掘）	所在地	四日市市西坂部町2752-2
調査原因	宅地造成			事業主体	(有)フジエステート
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H5.12.25
調査面積	16㎡			担当者	春日井 恒
文化財保護法に関する文書番号※1				教文第488号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>海蔵川の支流、江田川の北岸に位置する古墳時代から平安時代の遺跡である。1972年に一部発掘調査が行われ、土器焼成坑、溝等が検出されている。</p> <p>開発計画区域内に4m×4mの試掘調査坑を1ヵ所設定し、調査を行ったが、古墳時代後期の竪穴住居跡1棟、土坑等を検出した。</p>			○古墳時代後期 ・竪穴住居跡 1棟 ・土坑 1基 ・ピット	○古墳時代後期 ・土師器（甕等）	
関連文献	『四日市市西坂部町・落川原遺跡』昭和47年度県営園場整備事業地域埋蔵文化財調査2（三重県教育委員会1973）				

No.	49	遺跡名	海星学園内遺跡（試掘）	所在地	四日市市泊小柳町2-6
調査原因	ショッピングセンター建設			事業主体	東亜紡織株式会社
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H6.2.7~6.2.8
調査面積	144㎡			担当者	葛山拓也
文化財保護法に関する文書番号※1			教文第495号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>内部川によって形成された沖積平野に所在する。学園建設の際、飛鳥時代の土師器甕の完形品が出土している。</p> <p>開発計画地内に4m×4mの試掘調査坑を9ヵ所設定した。土師器片と須恵器片を検出したが、遺構は確認されなかった。</p>			なし		土師器片 2 須恵器片 1
関連文献	染川 仁「本校出土の土器について」『星塔』1号（海星学園高校、1960）				
No.	50	遺跡名	縄生庵寺跡	所在地	三重郡朝日町縄生字中谷2444番地ほか
調査原因	学術調査			事業主体	朝日町教育委員会
調査機関	朝日町教育委員会			調査期間	H5.7.12~12.2
調査面積	271㎡			担当者	早川裕己
文化財保護法に関する文書番号※1			朝教社第431号・朝教社第591号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>塔跡の南東部の丘陵内平地と南畑部をトレンチ調査したが、寺院と関連づけられる遺構は確認できなかった。</p> <p>調査区全体を包括するような地形測量（1/200）を委託して補助事業を終了する予定である。</p>					・平瓦片・丸瓦片・須恵器片 （少量）
関連文献					
No.	51	遺跡名	徳居33・34号窯跡	所在地	鈴鹿市郡山町字西高山
調査原因	宅地造成			事業主体	三交不動産株式会社
調査機関	鈴鹿市遺跡調査会			調査期間	H5.3.22~4.10
調査面積	200㎡			担当者	藤原秀樹
文化財保護法に関する文書番号※1			（平成4年度）鈴教遺第5号		※2 新発見
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>遺跡は東から西へ入り込む浅谷の南面する斜面に立地し、1981年調査された31・32号窯に近接して立地する。</p> <p>造成工事によって削平の後に発見されたため、窯体の一部と灰原の10×20mの範囲のみ調査を行った。</p> <p>34号窯は軟質の砂岩層に掘り込まれた地下窯で、検出したのは焚口から焼成部への4mのみである。壁面にはスサ入り粘土による3面の補修がみられるが、床面は地山面一面に粗砂を敷くのみである。</p> <p>灰原は34号→33号の順に重複して形成され、厚さは3mにおよぶが下半部は湧水による崩落がいちじるしく完掘できなかった。</p>			・窯体（34号） 1基 ・灰原（33、34号窯）		・須恵器 ・陶棺 ・棒状土製品 ・土師器
関連文献	「郡山遺跡群発掘調査報告Ⅰ」1983				

No.	52-1	遺跡名	長者屋敷遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市広瀬町字丸内
調査原因	個人住宅建築			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.4.8
調査面積	12㎡			担当者	藤原秀樹
文化財保護法に関する文書番号※1				鈴教文第4号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
調査地点は長者屋敷遺跡の北東端にあたる。1×6mの試掘坑を2ヶ所設定し、耕作土を除去したところ、黄褐色土層の基盤層となるが、遺構・遺物とも確認されなかった。			なし	なし	
関連文献					
No.	52-2	遺跡名	長者屋敷遺跡	所在地	鈴鹿市広瀬町字矢下、仲起
調査原因	学術調査			事業主体	鈴鹿市教育委員会
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.11.29～H6.2.28
調査面積	230㎡			担当者	清山健、新田剛、藤原秀樹、松井豪
文化財保護法に関する文書番号※1				鈴教文第112号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
藤岡謙二郎氏がかつて調査したB地点（南端建物趾）の性格及び範囲を明らかにする目的で調査を実施した。調査箇所は後殿の南東隅、軒廊の一部、築地塀ないしは回廊に伴うと考えられる溝の一部、後殿東の建物基壇の一部である。 後殿は礎石の痕跡から、東西7間であることがわかった。東辺からは地覆と考えられる瓦列が検出された。			<ul style="list-style-type: none"> ・後殿 ・軒廊 ・溝（東辺内周溝、外周溝、西辺外周溝） 	<ul style="list-style-type: none"> ○7世紀後葉 須恵器杯 ○8世紀後半～9世紀前葉 須恵器（杯、甕） 土師器（杯、皿、甕） 丸瓦、平瓦 重圈文軒丸瓦 重廓文軒平瓦 唐草文軒平瓦（6719A） 	
関連文献					
No.	53	遺跡名	津賀東部遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市高塚町字神垣
調査原因	個人住宅建設			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.5.6
調査面積	6㎡			担当者	藤原秀樹
文化財保護法に関する文書番号※1				鈴教文第16号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
1m×3mの試掘坑2ヶ所を設定したが、約60cmの盛土、10cmの旧耕作土（クロボク）の下は、茶褐色粘質土の地山面であるが耕作による攪乱がいちじるしく、遺構・遺物とも検出されなかった。			なし	なし	
関連文献					



長者屋敷遺跡
後殿



軒廊



東内周溝

No.	57	遺跡名	西ノ野遺跡(試掘)	所在地	鈴鹿市国府町字西ノ野
調査原因	地区集会所建築			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.7.20
調査面積	16㎡			担当者	藤原秀樹
文化財保護法に関する文書番号※1				鈴教文52号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>1×7m、1×9mの試掘溝を設定した。整地土、旧耕作土を除去し黄褐色砂質土の基盤層(地山)上面で遺構の検出を試みたが、植木の植え替えによるであろう攪乱が著しく、年代不明の穴2箇所を検出したのみであった。</p>			ピット 2	なし	
関連文献					
No.	58	遺跡名	岸岡山II遺跡(試掘)	所在地	鈴鹿市岸岡町字大門
調査原因	区画整理			事業主体	千代崎駅前土地区画整理組合設立準備委員会
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.5.12
調査面積	46㎡			担当者	新田 剛
文化財保護法に関する文書番号※1				鈴教文第2号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>遺構は検出されなかった。遺物は造成層に含まれるものである。</p>			なし	埴輪片 須恵器片 ともに微量	
関連文献					
No.	59	遺跡名	天王屋敷遺跡(試掘)	所在地	鈴鹿市玉垣町字山神戸
調査原因	宅地造成			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.8.5
調査面積	26㎡			担当者	清山 健、新田 剛
文化財保護法に関する文書番号※1				鈴教文第62号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>開発地域内に1m幅の試掘坑を4ヵ所設定した。うち3ヵ所は0.1~0.3m表土を除去したのち基盤層に達し、遺構・遺物の検出はなかった。残りの1ヵ所は造成土が深く、約1m掘削したが、基盤には到達せずこれ以上の掘削は断念した。 造成土からは瓦が混入して出土した。</p>			なし	瓦	
関連文献					

No.	60	遺跡名	神戸中学校遺跡	所在地	鈴鹿市十宮4丁目
調査原因	校庭土質改良工事			事業主体	鈴鹿市
調査機関	鈴鹿市遺跡調査会			調査期間	H5.8.23~12.16
調査面積	1,600㎡			担当者	藤原秀樹、松井 剛、清山 健
文化財保護法に関する文書番号※1			鈴教遺第3号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>弥生時代後期～江戸時代までの遺跡である。主に弥生時代と鎌倉時代、室町時代の遺構・遺物が多い。近くに萱町遺跡、須賀遺跡、宮ノ前遺跡があり弥生時代後期における関連が窺われる。</p> <p>検出された弥生時代の大溝は環壕集落の壕と考えられ、多数の土器が出土した。</p> <p>中世の遺構では井戸（素掘りのもの）を20基検出した。また方形の溝によって区画された中に掘立柱跡が集中して見つかっており、神戸城に関連するものと考えている。</p>			<p>(弥生時代後期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 方形周溝墓 3基 ・ 土溝多数 ・ 大溝 1条 <p>(古墳時代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 堅穴住居 1棟 ・ 溝 2条 <p>(鎌倉～室町時代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 掘立柱跡 多数 ・ 土坑 多数 ・ 井戸 20基 		<p>(弥生時代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 壺・甕・高杯 <p>(古墳時代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土師器（坏、高杯、甗、甕） ・ 須恵器（坏、高杯、甕） ・ 水晶製勾玉 <p>(鎌倉時代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山茶碗 <p>(室町時代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 羽釜・捏鉢・すり鉢・常滑甕 ・ 金箔軒瓦片 <p>(江戸時代)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 天目茶碗、瀬戸、美濃陶、陶器多数
関連文献					
No.	61	遺跡名	国分西遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市国分町字西浦
調査原因	個人住宅建設			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.9.13
調査面積	7㎡			担当者	新田 剛
文化財保護法に関する文書番号※1			鈴教文第91-2号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>基本層序は第1層が耕作土（0.2m）、第2層が褐色砂質シルト（0.2m）、第3層が黄褐色砂質シルト（地山）である。</p> <p>第3層上面にて遺構検出を行った。その結果、鎌倉時代以降と考えられる溝、ピットが検出された。遊離遺物と考えられる瓦が出土した。</p>			溝、ピット		瓦（奈良時代）
関連文献					
No.	62	遺跡名	伊勢国分寺跡、国分遺跡、国分西遺跡	所在地	鈴鹿市国分町字西浦・北条・西高木
調査原因	学術調査			事業主体	鈴鹿市教育委員会
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.9.13~11.24
調査面積	499㎡			担当者	清山健、新田剛、藤原秀樹、松井豪
文化財保護法に関する文書番号※1			鈴教文第73・101号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>史跡指定地と現国分町集落の間、史跡の南側及び集落内に発掘区を設定した。調査の結果、平安～鎌倉時代の掘立柱建物、溝、瓦溜り、などが検出された。出土遺物の大半は瓦溜りから出土した。土のう袋にして約300袋にも及ぶ瓦類で、その他灰釉碗、山茶碗などが出土した。瓦溜りの瓦には軒丸瓦、軒平瓦が多く含まれるが、集落内から出土するタイプのものが多い。</p>			<p><6BFE-A> 土壇（瓦溜り）、溝、掘立柱建物</p> <p><6BFC-C> 溝、掘立柱建物</p> <p><6BFC-F> 溝</p> <p><6BGH-C> 溝、掘立柱建物</p> <p><6BIB-A-1> 溝、掘立柱建物</p> <p><6BIB-A-2> 溝</p>		<p><6BFE-A> 灰釉碗、羽釜、山茶碗、丸瓦、平瓦、軒丸瓦、軒平瓦、鬼瓦、磁石</p> <p><6BFC-C> 灰釉碗、山茶碗、青磁碗、瓦</p> <p><6BFC-F> 瓦</p> <p><6BGH-C> 山茶碗、瓦</p> <p><6BIB-A-1> 軒平瓦、山茶碗</p> <p><6BIB-A-2> 瓦、山茶碗</p>
関連文献					

No.	63	遺跡名	国分東遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市国分町字孫作
調査原因	個人住宅			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.9.16
調査面積	2㎡			担当者	新田 剛
文化財保護法に関する文書番号※1			鈴教文第91-3号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
造成層及び表土が約0.9mあり、以下は湧水のため、掘削を断念した。			なし		なし
関連文献					
No.	64	遺跡名	西ノ岡A遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市高岡町字西ノ岡
調査原因	区画整理			事業主体	高岡山土地区画整理組合
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.9.20
調査面積	30㎡			担当者	藤原秀樹
文化財保護法に関する文書番号※1			鈴教文第87号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
鈴鹿川に向かって舌状に張り出す台地の先端部に位置する。1.5m×20mのトレンチ調査を行ったが、耕作による削平がいちじるしく、わずかに弥生土器片が出土したのみである。			なし		弥生土器
関連文献					
No.	65	遺跡名	天王屋敷遺跡（試掘） 大口野遺跡、石塚古墳	所在地	鈴鹿市岸岡町石塚 玉垣町大口野、山神戸、井龍田
調査原因	区画整理			事業主体	鈴鹿市区画整理課
調査機関	鈴鹿市遺跡調査会			調査期間	H5.10.4～10.12
調査面積	1,000㎡			担当者	藤原秀樹
文化財保護法に関する文書番号※1			鈴教遺第5号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
14haの開発対象地域の全域に60ヶ所の試掘坑を設定して調査を行った。 遺構が検出されたのは、天王屋敷遺跡とされる範囲のうち、現況畑となっている約10,000㎡の範囲と大口野遺跡の島畑となっている3,600㎡の範囲のみであった。前者は白鳳寺院の可能性が考えられていたが、わずかに瓦片の出土をみたのみで、古墳時代後期の竪穴住居が広く分布しているようである。 後者は、奈良時代の掘立柱建物らしきPitが検出されている。 石塚古墳については、盛土下層から瓦片が出土しているため、古墳の可能性は希薄である。			〈天王屋敷遺跡〉 竪穴住居、土壇、Pit、溝 〈大口野遺跡〉 Pit、土壇		須恵器 土師器 平瓦
関連文献					

No.	66	遺跡名	岸岡山15～21号墳	所在地	鈴鹿市岸岡町字見当山北山越	
調査原因	公園造成			事業主体	鈴鹿市公園緑地課	
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.10.10～	
調査面積	200㎡			担当者	藤原秀樹	
文化財保護法に関する文書番号※1		鈴教文第88号			※2	周知
遺跡の概要						
<p>伊勢湾を眼下に見下す、岸岡山丘陵（45m）上に分布する古墳群で、全長33mの前方後円墳21号墳を主墳とし20基あまりの古墳群が分布している。</p> <p>公園整備に先立ち範囲確認のための調査を行った。</p> <p>21号墳は前方部及び後円部南半について盛土の流出がいちじるしいが、後円部北西半の墳丘裾ラインはよく残っていて、前方部径22m、全長33～35mと推定できる。</p> <p>16～19号墳も盛土の流出がいちじるしく、盛土の残存高は30～50mで主体部はすでに流出しているとみられる。旧地表には弥生～古墳初頭の包含層がみられる。</p> <p>15・20号墳については、試掘トレンチにおいては墳跡も見うけられなかった。</p>						
古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
21号墳	前方後円墳	後円部径22m 全長33～35m	—	円筒埴輪 須恵器	6C前	かつて遷頭大刀、須恵器、朱、鉄鏝出土
15号墳	円墳	—	—	古式土師器 土師器 円筒埴輪 弥生土器（後期） 土師器	—	かつて須恵器平瓶か採集墳丘祭祀
16号墳		8.5m	—		6C?	
17号墳		8.5m	—		6C	
18号墳		10m	—		6C前	
19号墳	—	16m	—	須恵器	6C前	—
20号墳	—	—	—	—	—	—
関連文献						
No.	67	遺跡名	国分北遺跡	所在地	鈴鹿市国分町字八幡前	
調査原因	道路改修			事業主体	鈴鹿市	
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.11.12～15	
調査面積	100㎡			担当者	藤原秀樹	
文化財保護法に関する文書番号※1		鈴教文109号			※2	周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物		
幅2m×延長50mについて調査を行った。層位は、道路舗装を除去すると、旧耕作土10cmをへて地山、黄褐色基盤土層となる。検出遺構は幅5mの土塼と溝で前者は近世瓦を含み粘土の採掘坑とみられる。後者は、走方方向から国分寺周辺でみられる中世地割溝とみられる。		・溝 1 ・土塼 1		・瓦（奈良、近世） ・山茶碗 ・磁石		
関連文献						
No.	68	遺跡名	津賀平遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市津賀町字池ノ坪	
調査原因	農業関連施設建設			事業主体	鈴鹿農業協同組合	
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.11.24～26	
調査面積	300㎡			担当者	藤原秀樹	
文化財保護法に関する文書番号※1		鈴教文第85号			※2	周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物		
遺跡は鈴鹿川左岸の台地上に立地する。開発面積1.6haに20ヶ所の試掘坑を設定した。その結果、中央部に深さ2mの埋没谷があり、その北側に中世のPit、土塼が検出された。南側では、台地の辺縁を中心に堅穴住居、Pitが検出され、須恵器を伴わないことから古墳時代前期のものと思われる。遺構検出面は地表から70～80cmと深く、クロボク層におおわれている。		堅穴住居 2棟 Pit 土塼		土師器 須恵器 山茶碗 羽釜		
関連文献						

No.	69	遺跡名	野田遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市稲生町字長尾
調査原因	自動車整備工場建築			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H6.2.18
調査面積	4 m ²			担当者	清山 健
文化財保護法に関する文書番号※1			鈴教文157-3号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>1.5×1m、2.5×1mの試掘坑を2ヶ所設置したが、聞き取りによれば、以前大きな造成があり、遺物などの出土はなかったとのこと。 それぞれ60cm掘り下げたが造成層を除くと削平された地山にあたる。</p>			なし	なし	
関連文献					
No.	70	遺跡名	西ノ城戸B遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市国府町
調査原因	個人住宅建築			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H6.2.18
調査面積	4.8m ²			担当者	清山 健
文化財保護法に関する文書番号※1			鈴教文157-5号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>3×1、1.8×1mの試掘坑を2ヶ所設置した。 40cm掘り下げたところでクロボクの旧表土に至る。さらに20cm掘り下げると基盤である紫がかった赤褐色粘質土となる。この層は南から北へ落ち込んでいくようであるが、自然地形で遺構とは考えられない。</p>			なし	なし	
関連文献					
No.	71	遺跡名	起A遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市安塚町字宮塚1704
調査原因	個人住宅建築			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H6.2.18
調査面積	3 m ²			担当者	清山 健
文化財保護法に関する文書番号※1			鈴教文157-2号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>現在の耕作層に天目茶碗、染付などの小片が混じっている。 試掘坑は現在栽培している場所を外して1×3mのものを設置した。は場整備時の耕作層は下45cmのところで見られた。その下、赤褐色粘質土（基盤）まで掘り下げたが、遺物・遺構ともになかった。</p>			なし	なし	
関連文献					

No.	72	遺跡名	北中大野遺跡(試掘)	所在地	鈴鹿市三畑町字北中大野
調査原因	個人住宅建築			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H6.2.18
調査面積	5.5㎡			担当者	清山 健
文化財保護法に関する文書番号※1				鈴教文第157-4号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
3.5×1m、2×1mの試掘坑を2ヶ所設置した。 50cmクロボクの堆積があり、その下層は黄褐色砂質土(地山)であった。			なし	なし	
関連文献					
No.	73	遺跡名	須賀遺跡	所在地	鈴鹿市須賀1丁目
調査原因	分譲住宅建築			事業主体	㈱田中工務店
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H6.3.2~3.7
調査面積	44㎡			担当者	清山 健
文化財保護法に関する文書番号※1				鈴教文第163号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
調査区は駐車場として舗装する部分に南北2×東西16mを区切り、ピットなどの並びに必要な部分を2×2mで3箇所拡張した。 遺構は方形のピット、円形のピットの他には1mを超える土坑、江戸時代の溝を検出した。 遺物はほとんどが土師器の小片であったが、ピットから完型品の須恵器坏蓋(6C後)が出土した。			○古墳時代 掘立柱跡 土坑 ○中世、近世 掘立柱跡 溝 ○弥生時代 壺片	○古墳時代 ・土師器(高坏片) 甕片 ・須恵器(坏蓋) 甕 ○その他 染付、瀬戸、美濃陶磁器	
関連文献					
No.	74-1	遺跡名	若宮遺跡	所在地	亀山市田村町若宮
調査原因	排水処理場建設			事業主体	亀山市
調査機関	亀山市教育委員会			調査期間	H5.6.15~9.25
調査面積	700㎡			担当者	山口昌直
文化財保護法に関する文書番号※1				亀教社第29号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
安楽川右岸の標高約35mの段丘上北端に位置し、現況は茶畑および荒蕪地である。平成3~4年度の遺跡詳細分布調査において須恵器・土師器・灰釉陶器・山茶碗等の遺物の散布が見られた。 調査の結果、後世の開墾等による削平をうけており、遺物は山茶碗片がわずかに出土しただけであったが掘立柱建物、土坑、溝、井戸が確認された。			・掘立柱建物 ・土坑 ・井戸 ・溝	・山茶碗	
関連文献					

No.	54	遺跡名	八野遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市八野町字北河原
調査原因	自動車整備専門学校建設			事業主体	株式会社ホンダクリオ三重北
調査機関	鈴鹿市遺跡調査会			調査期間	H5.6.1～7.13
調査面積	2,740㎡			担当者	清山 健、新田 剛
文化財保護法に関する文書番号※1			鈴教遺第2号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>開発予定地57,061㎡のうち、現存古墳のある山林を除いた範囲を対象に幅1.5mの試掘坑を20mおきに設け調査を行った。 表土（耕作土）を0.15～0.8m除去し遺構検出を行ったところ、全てのトレンチから遺構ないしは遺物が検出された。</p>			<p>〈弥生〉 竪穴住居 〈古墳〉 古墳周溝 〈鎌倉〉 掘立柱建物溝</p>		<p>〈縄文〉 石斧・石鏃 〈弥生〉 土器 〈古墳〉 埴輪・土師器 須恵器 〈奈良〉 土師器・須恵器 軒丸瓦（重圍文） 平瓦 〈鎌倉〉 山茶碗</p>
関連文献					
No.	55	遺跡名	石薬師東遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市石薬師町字寺東
調査原因	消防学校建設			事業主体	県総務部
調査機関	三重県教育委員会・鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.6.14～8.18
調査面積	1,200㎡			担当者	藤原秀樹
文化財保護法に関する文書番号※1			（県にて手続）		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>調査地は鈴鹿川左岸の台地上で県消防学校を中心として3つの調査区に分かれる。 〈サブグラウンド地区〉 14,000㎡を対象に東西方向のトレンチを4本設定した。北側から浅谷が入り込み、それを囲むように古墳（痕跡）が分布する。 〈消防学校グラウンド〉 遺跡地図によれば消滅墳である石薬師東21～23号墳の所在地である。28,000㎡を対象に東西3本南北1本のトレンチと、校舎間に小トレンチ4ヶ所を設定した。南側グラウンドにおいて古墳痕跡が分布する。 〈東方原野地区〉 18,000㎡を対象に9本のトレンチを設定した。地形は西側の高台と東側の旧水田に分かれ高台では古墳痕跡1基が、旧水田部分では古墳～奈良時代の竪穴住居・掘立柱建物、溝、方形周溝、土塚が密に分布する。</p>			<p>古墳周溝 （円墳1基、方墳5基） 溝、土塚、ピット</p> <p>古墳周溝 （円墳1基、方墳4基） 土塚</p> <p>古墳周溝 （方墳1基） 竪穴住居、掘立柱建物、溝、土塚、Pit 方形周溝</p>		<p>・埴輪・須恵器</p> <p>・埴輪・須恵器</p> <p>・埴輪 ・土師器・須恵器・山茶碗・縄文土器</p>
関連文献					
No.	56	遺跡名	国府A遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市国府町字西之条
調査原因	個人住宅建築			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.7.9
調査面積	6㎡			担当者	藤原秀樹、新田 剛
文化財保護法に関する文書番号※1			鈴教文第38号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>1×6mの試掘溝1箇所を設定し、耕作土（黒褐色土）15cm除去すると地山基盤層に至る。検出した溝は古墳の周溝あるいは奈良時代の区画溝とみられる。柱穴からは奈良時代以降の建物が建っていたことが確認された。 この調査により、これまで考えられていたよりもさらに西に遺跡が広がっていることが明らかになった。</p>			<p>・柱穴 大2 小2 ・溝 1</p>		<p>溝から 〈奈良時代〉 ・須恵器 ・土師器 いずれも小片</p>
関連文献					

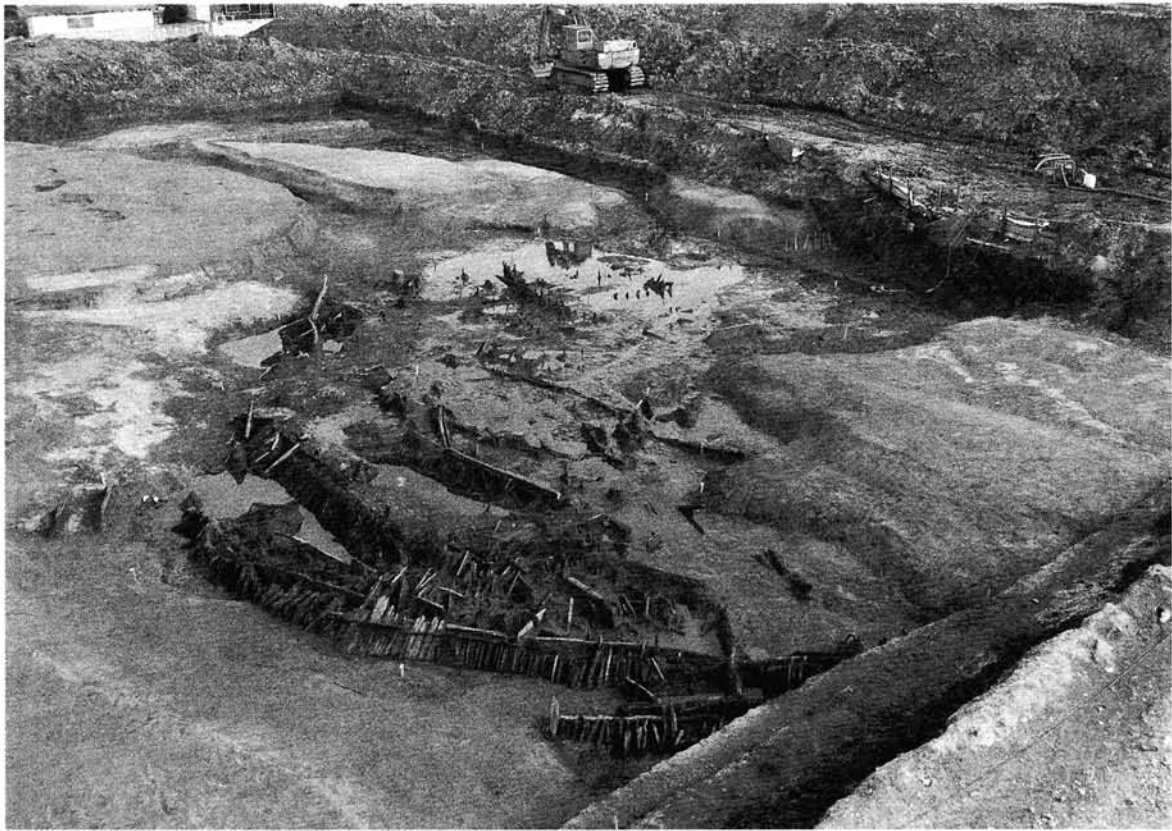
No.	74-2	遺跡名	若宮遺跡	所在地	亀山市田村町若宮
調査原因	農道整備			事業主体	亀山市
調査機関	亀山市教育委員会			調査期間	H6.2.7～3.2
調査面積	800㎡			担当者	山口昌直
文化財保護法に関する文書番号※1				亀教社第451号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>安楽川右岸の標高約35mの段丘上西北端に位置し、現況は茶畑、荒蕪地及び道路である。平成5年6月～9月の調査地から250m西方に位置する。</p> <p>調査の結果、現道路部はすでに削平を受け、その他の部分は段丘の落ち際にあたるため、遺構・遺物はほとんどみられなかった。</p>			・ピット		・山茶碗細片
関連文献					
No.	75-1	遺跡名	陰涼寺遺跡	所在地	亀山市北鹿島町
調査原因	国道交差点改良			事業主体	県土木部
調査機関	亀山市教育委員会			調査期間	H5.12.1～H6.1.31
調査面積	650㎡			担当者	山口昌直
文化財保護法に関する文書番号※1				亀教社第279号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>鈴鹿川左岸の標高約80mの丘陵尾根上南端に位置する。遺跡内には陰涼寺山1号墳が存在し、周辺で弥生土器や土師器が発見されている。また、寛永11年～慶安3年には現在南崎町にある上現山本久寺がこの陰涼寺山の辺りに存在した。平成3～4年度の遺跡詳細分布調査時に陰涼寺山1号墳にあたると思われる墳丘状の高まりの存在は確認されている。</p> <p>調査の結果、墳丘の周辺の包含層から土師器片がわずかに出土しただけで、遺構は検出されなかった。</p> <p>陰涼寺山1号墳は、表土直下から有線電話のコード等が、また断ち割り調査の結果空き缶や牛乳びん等が地山直上あたりで発見され、排土を盛ったものと判明した。</p>					
関連文献					
No.	75-2	遺跡名	陰涼寺遺跡	所在地	亀山市北鹿島町
調査原因	宅地造成			事業主体	白川不動産有限公司
調査機関	亀山市教育委員会			調査期間	H5.12.21～H6.1.13
調査面積	610㎡			担当者	山口昌直
文化財保護法に関する文書番号※1				亀教社第424号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>鈴鹿川左岸の標高約80mの丘陵尾根上南端に位置する。同時期に調査を行った国道交差点改良工事に伴い発掘現場の北側に隣接する。</p> <p>調査の結果、現表土から約25cm下で地山層の落ち込みを確認、さらに掘削すると近代以降の陶磁器片やガラス片、瓦等が多量に出土した。その他の遺構や遺物は見られず、谷地形を利用したごみ捨て場であった。</p>					
関連文献					

No.	76	遺跡名	亀山城跡	所在地	亀山市東丸町東丸
調査原因	道路改良工事			事業主体	亀山市
調査機関	亀山市教育委員会			調査期間	H6.2.7～3
調査面積	380㎡			担当者	山口昌直
文化財保護法に関する文書番号※1				亀教社第386号	※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>椋川右岸、標高約74mの段丘上に位置し、現況は宅地である。調査区は亀山城の外堀北東端部にあたる。</p> <p>亀山城の北東端部には、三之丸東北隅櫓があり、正保年間(1644年～1648年)の絵図には見られるが、江戸中期以降の絵図には描かれていない。慶安3年(1650年)の暴風雨によって被害を受け、その後は修理を行われずに破却された可能性がある。</p>		<p>・外堀</p>		<p>・軒平瓦 ・軒丸瓦 ・石臼 ・近世陶器</p>	
関連文献					
No.	77	遺跡名	山添遺跡	所在地	安芸郡安濃町大字清水
調査原因	宅地造成			事業主体	西浦産業株式会社
調査機関	安濃町遺跡調査会			調査期間	H5.3.15～8.30
調査面積	1,697㎡			担当者	田中秀和
文化財保護法に関する文書番号※1				安遺第3号	※2 新発見
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>本遺跡は、津市と安濃町に接し、調査前は谷水田であり、付近には津市亀井遺跡や丘陵上に堂山古墳群がある。</p> <p>調査は、1工区と2工区に分けられ、1工区では、縄文時代土坑、弥生時代溝、奈良時代井戸(水溜)、中世溝等が検出された。</p> <p>第2工区では、上・下層に分けて調査した。上層の黒色粘土層上面で土坑、溝、田のすき溝、下層の地山面では、弥生時代中期のL字状の溝、土坑等が検出された。</p> <p>津市亀井遺跡との関連が注目される。</p>		<p>(1工区) 弥生時代 溝・土坑 縄文時代 土坑 奈良時代 井戸(水溜め) 平安時代 溝 (2工区) 弥生時代 溝、土坑 中世 すぎ溝 土坑</p>		<p>石鏃、石斧、砥石、弥生土器、須恵器、土師器、山茶碗、陶器、銅銭「寛永通宝」、墨書土器「生林房」(山茶碗) 木製品 木材、牛の鞍 板材、棒状製品</p>	
関連文献					
No.	78	遺跡名	西相野遺跡	所在地	安芸郡安濃町大字草生
調査原因	団地造成			事業主体	安濃町
調査機関	安濃町遺跡調査会			調査期間	H5.9.1～11.28
調査面積	1,880㎡			担当者	田中秀和
文化財保護法に関する文書番号※1				安遺第19号	※2 新発見
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>経ヶ峰から派生した丘陵上の遺跡で、東約500mに中相野古墳が存在する。</p> <p>縄文時代早期後半の茅山下層式～ハツ崎式にかけてのおとし穴や土坑が多量に発見され、おとし穴は確実なものが8基あり、中央部に杭を立てたものといふものがある。</p> <p>又、古墳時代後期の溝や江戸時代の耕作溝等が走っていた。</p> <p>今後、周辺で縄文時代早期の集落が発見される可能性もあり、期待されるところ大である。</p>		<p>・おとし穴 8基 ・土坑 43基 ・風倒木 2 ・溝 7条</p>		<p>・深鉢片 10数点 ・石鏃等 30点 ・陶器 数点 ・須恵器片 数点</p>	
関連文献					

No.	79	遺跡名	垂水城跡	所在地	津市大字垂水字井戸谷	
調査原因	土砂採集・宅地造成			事業主体	㈱建成・㈱幸三建設	
調査機関	津市教育委員会			調査期間	H5.6.1~10.4 H6.1.10~2.7	
調査面積	約4,950㎡			担当者	村木一弥、米山浩之	
文化財保護法に関する文書番号※1				津教文第27号・143号	※2 周知	
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物		
垂水城跡は、津市の南部、標高45mほどの丘陵東端部、眺望の効く好所に占拠している。城はすでに削平された推定主郭を中心に尾根上に連続する郭があり、北半は堀・土塁によって特に堅固に防禦されている。また、北側は不明であるが、西・南に広がっていた可能性が高い。文献・古地図等から天文年間、垂水村鷺山の長野氏と北島氏の合戦の地と考えられる。		<ul style="list-style-type: none"> 堀・土塁 掘立柱建物・門 溝・土坑 		<ul style="list-style-type: none"> 土師器（皿・鍋・羽釜） 常滑焼壺、捏鉢 瀬戸美濃焼燗鉢 灰釉皿・天目茶碗 石製品（五輪塔・石臼） 須恵器（蓋杯・提瓶） 		
関連文献	「伊勢一國旧城跡附」「勢州軍記」					
No.	80	遺跡名	四ツ野古墳	所在地	津市高茶屋小森町字四ツ野	
調査原因	墓地造成			事業主体	引接寺	
調査機関	津市教育委員会			調査期間	H5.6.10~7.13	
調査面積	150㎡			担当者	池端清行・海田美幸	
文化財保護法に関する文書番号※1				津教文第38号	※2 周知	
遺跡の概要						
四ツ野B遺跡内にあり、標高約10mの段丘南端部に位置する方墳である。平地に存在するため墳丘はすべて盛土である。北側が道によって削られているが1辺12mの方墳と考えられる。墳丘からは2つの埋葬施設が検出された。いずれも木棺直葬で東西を主軸として、平行して並んでいる。棺内から須恵器、鉄製品、玉類等の豊富な副葬品が出土した。須恵器の型式より埋葬施設に時期差はほとんどないと考えられる。須恵器を豊富に副葬するこの古墳は、四ツ野B遺跡において須恵器がまったく出土しないのと対照的であり、四ツ野B遺跡に住んでいた人々が、古墳の見下ろす沖積平野へ移っていったことを考えさせる。						
古墳名	墳形	規模(m)	主体部	出土遺物	時期	備考
四ツ野古墳	方墳	12×10m 高さ1.8m	<ul style="list-style-type: none"> 木棺直葬 北棺 <ul style="list-style-type: none"> 長さ2.6m 幅0.5~0.6m 南棺 <ul style="list-style-type: none"> 長さ4m 幅0.5~0.6m 	<ul style="list-style-type: none"> 北棺 <ul style="list-style-type: none"> 須恵器 { 壺身杯蓋 高杯 鉄製品 { 鉄鏃 刀子 南棺 <ul style="list-style-type: none"> 土師器台付壺 須恵器 { 壺身杯蓋 提瓶 直刀 刀子 鉄鏃 玉類 { 管玉10 環玉15 耳玉100 	6C中	
関連文献						
No.	81	遺跡名	四ツ野B遺跡	所在地	津市高茶屋小森町字四ツ野	
調査原因	墓地造成			事業主体	引接寺	
調査機関	津市教育委員会			調査期間	H5.7.13~9.1	
調査面積	500㎡			担当者	池端清行、海田美幸	
文化財保護法に関する文書番号※1				津教文第38号	※2 周知	
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物		
<p>雲出川が形成した沖積地を見おろす段丘の南東隅に位置する。平成4年度の調査により78棟の竪穴住居が検出され古墳時代前期を中心とした集落遺跡であることが判明した。</p> <p>今回の調査でも縄文時代晩期の土器棺蓋、古墳時代前期を中心とした竪穴住居群、時期不明の掘立柱遺物を検出した。</p> <p>縄文時代晩期の土器棺蓋は前回調査も含めて3基が検出され、破片も多数出土しており、遺跡内にはなお数基の土器棺蓋が存在するものと考えられる。竪穴住居は9棟検出したが、前回調査した遺跡東部に比較するとその遺構密度は薄くなっている。</p> <p>竪穴住居は一辺5~6mの隅丸方形で、南辺中央部に貯蔵穴をもち、床面のほぼ中央部には炉の跡と考えられる焼土が存在する。</p> <p>今回の調査により、古墳時代前期を中心とする集落遺跡はさらに西側へ広がることが判明した。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○縄文時代晩期 <ul style="list-style-type: none"> 土器棺蓋 1基 ○弥生時代後期~古墳時代前期 <ul style="list-style-type: none"> 竪穴住居 9棟 時期不明 掘立柱建物 2棟 		<ul style="list-style-type: none"> ○縄文土器（晩期） <ul style="list-style-type: none"> 壺 ○弥生土器（後期） <ul style="list-style-type: none"> 高杯 ○土師器（古墳時代前~中） <ul style="list-style-type: none"> 壺、甕、高杯、ミニチュア土器 		
関連文献						

No.	82	遺跡名	大古曾遺跡(試掘)	所在地	津市一身田大古曾
調査原因	宅地造成			事業主体	大和開発㈱
調査機関	津市教育委員会			調査期間	H5.11.17~12.2
調査面積	300㎡			担当者	池端清行、村木一弥
文化財保護法に関する文書番号※1				津教文第134号	※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>大古曾地区の北部に広がる低丘陵の南東側緩斜面(標高約25m)に営まれた火葬穴群である。今回の調査で3基を検出したが、さらに多数の火葬穴が存在するものと考えられる。3基のうち1基の埋土除去を行なったところその規模は1.5×1.2mの隅丸方形で深さは現地表より0.7mほどである。石組等は認められなかったが、検出したすべての火葬穴より骨片と土師器皿が出土した。同様な遺跡として、江戸時代前半期を中心として営まれたと考えられる玉城町所在の岡村近世墓群が知られている。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・火葬穴 3基 		<ul style="list-style-type: none"> ・骨片 ・土師器皿 	
関連文献	『三重県埋蔵文化財センター年報、No31 岡村近世墓群』田中喜久雄				
No.	83	遺跡名	庄田第1号墳	所在地	久居市庄田町
調査原因	国道165号交通安全対策事業			事業主体	県土木部
調査機関	久居市教育委員会			調査期間	H5.4~5
調査面積	300㎡			担当者	辻 富美雄
文化財保護法に関する文書番号※1					※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>丘陵根部に構築された円墳、直径20m、高さ2.5mの規模をもつ。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・木棺直葬主体部 		<ul style="list-style-type: none"> ・鉄刀・鏡・ガラス玉 ・須恵質埴輪 	
関連文献					
No.	84	遺跡名	久居城址	所在地	久居市西鷹跡町
調査原因	三重県都市計画街路新設工事			事業主体	県土木部
調査機関	久居市教育委員会			調査期間	
調査面積	500㎡			担当者	辻 富美雄
文化財保護法に関する文書番号※1					※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
江戸時代の久居藩城下町		<ul style="list-style-type: none"> ・溝 ・ピット 		<ul style="list-style-type: none"> ・陶磁器 ・瓦 	
関連文献	久居市史 藤影記				

No.	85	遺跡名	木造城址	所在地	久居市木造町
調査原因	三重県一般農道整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	久居市教育委員会			調査期間	H5.11~H6.3
調査面積	2,800㎡			担当者	辻 富美雄
文化財保護法に関する文書番号※1				※2	周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
中世城館			<ul style="list-style-type: none"> 城址の濠と考える溝2 (幅5m、深1m) 石囲い、石組遺構 (火葬墓) 		<ul style="list-style-type: none"> 山茶碗 土師質羽釜 土師質小皿
関連文献	久居市史 藤影記				
No.	86	遺跡名	片部遺跡	所在地	嬉野町中川
調査原因	中川駅周辺土地区画整理			事業主体	中川駅周辺土地区画整理組合
調査機関	嬉野町教育委員会			調査期間	H5.7.1~11.10
調査面積	4,000㎡			担当者	和気清章
文化財保護法に関する文書番号※1				嬉教文第689号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>中川駅東に広がる水田地帯で南東方向には西山古墳が近接する。 遺構面の標高は約4m程度の低地に所在する遺跡である。 本来、奈良・平安の遺構面が上層に存在すると考えられていたが、盛土工事時に削閉され、今回の調査においては確認することができなかった。 今回確認された遺構は、大溝1条・それに付属する溝2条で、大溝中には溝に平行する形での木列が12条、方形の取水樹2基、水門2列等が確認され、平坦部においては柱穴等が確認することができたが建物としてのまとまりを認めることはできなかった。</p>			<p>大溝・幅4m、深さ2m 木列・堰状遺構 (最長18m・最短6m) 方形取水樹 一辺6m程度の杭列で堰き止められ、それに付属する導水部として自然木を加工した導水部を有し、南側に溝を引き込む柵列状遺構が付属し、その先端部で水門状の堤防が2列確認することができた。</p>		<p><溝上層> 須恵器 (TK208~MT15) <溝下層> 欠山式併行期~ 直口壺・手焙形土器等 鋤 横槌 建築部材</p>
関連文献					
No.	87	遺跡名	小川城跡	所在地	嬉野町中川
調査原因	中川駅周辺土地区画整理			事業主体	中川駅周辺土地区画整理
調査機関	嬉野町教育委員会			調査期間	H5.12.10~
調査面積	4,000㎡			担当者	和気清章
文化財保護法に関する文書番号※1				嬉教第1027号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>中川地内に所在する小川神社裏に所在する遺跡であり、室町を中心とする遺跡である。 式内社小川神社に近接するが今回の調査においてはそれに関する遺構・遺物は確認されていない。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 方形区割りの溝 6 井戸 4 掘立柱建物 4 集石遺構 1 堀状遺構 1 石垣状遺構 		<ul style="list-style-type: none"> 土師器 (羽釜・鍋) 青磁碗 山茶碗
関連文献					



片部遺跡 堰 全景



堰北から

No.	88	遺跡名	五反田遺跡	所在地	嬉野町中川	
調査原因	中川駅周辺土地区画整理			事業主体	中川駅周辺土地区画整理	
調査機関	嬉野町教育委員会			調査期間	H 6.2.10～	
調査面積	1,200㎡			担当者	和気清章	
文化財保護法に関する文書番号※1		嬉教文第163号			※2	周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物		
西山古墳西前方に広がる水田地帯に所在する遺跡で、弥生時代前期の遺物が確認されている。遺構は不安定な粘土堆積層中に所在し、湿地帯が形成されていたことが認められる。		・自然流路 2		弥生時代前期土器片等		
関連文献						
No.	89	遺跡名	天白遺跡	所在地	嬉野町釜生田	
調査原因	範囲確認調査			事業主体	嬉野町	
調査機関	嬉野町教育委員会			調査期間	H 5.5.20～8.1	
調査面積	400㎡			担当者	和気清章	
文化財保護法に関する文書番号※1		嬉教文第423号			※2	周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物		
昨年度県埋蔵文化財センター調査地の南に位置する部分の発掘調査である。 中村川が蛇行する左岸に位置する畑地で、現標高が27m前後である。 遺跡の時期の中心は縄文時代後期後半の遺物が中心であるが、一部中期末の遺物も確認された。 他の時期としては、古墳時代前期の土坑1基・7世紀初頭横穴式石室1基・中世溝・土坑等である。		○縄文時代 配石遺構 2基 他に縄文時代の遺構として明らかかなものは確認することができなかったがすり鉢状の落ち込みや、土器出土にブロック状に出土する等の傾向が認められる。 ○古墳時代 土坑 1基 横穴式石室 ・無袖 (1m×3m) ○中世 土坑 2 溝 2		○縄文時代 土偶4体・石棒1 ・縄文土器 ・石鏃 ・磨製石斧 ・打製石斧 ・楔形石器 ・大型石皿 ○古墳時代 ・土師器 (器台・脚付碗・壺) 後期 ・須恵器 (杯身・蓋・フラスコ) ○中世 土師器皿		
関連文献						
No.	90	遺跡名	一志庵寺・天保遺跡	所在地	嬉野町一志・島田	
調査原因	町道新設			事業主体	嬉野町	
調査機関	嬉野町教育委員会			調査期間	H 5.3.15～5.10	
調査面積	2,000㎡			担当者	和気清章	
文化財保護法に関する文書番号※1		嬉教文第135号			※2	周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物		
現在の嬉野町内業師寺裏山をとり島田に至る部分である。 一志庵寺については中村川右岸の河川敷部においては方形に区画される溝状遺構が確認された他一志の集落部においては堀状遺構・竪穴式住居 (奈良) 2基・方形石組遺構 (中世) などが確認された。 一志上段丘陵地においては縄文から中世に至る時期の遺物が確認されたが土坑等がわずかに確認されたのみである。 天保遺跡は近畿自動車道西側の幅2m程度の調査であったが奈良時代～平安時代を中心とした遺構が確認された。		【一志庵寺】 ・竪穴住居2棟 (一辺3m) ・方形集石遺構 (一辺2m) ・堀状遺構 (幅3m、深さ2m) ・溝 【天保遺跡】 ・土坑 ・柱穴 ・掘立柱建物		【一志庵寺】 ・軒丸瓦 (山田寺式) ・凸面布目瓦 ・土師器 ・石硯 【天保遺跡】 ・土師器 ・須恵器		
関連文献						

No.	91	遺跡名	黒田遺跡	所在地	嬉野町黒田
調査原因	墓地造成			事業主体	㈱石吉
調査機関	嬉野町教育委員会			調査期間	H5.8.1～8.30
調査面積	600㎡			担当者	和気清章
文化財保護法に関する文書番号※1				嬉教文第690号	※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>中村川左岸の近鉄線と堤防に囲まれる水田地帯に所在する遺跡である。 標高は6m程度の低地で中村川に近接することなどから、当初氾濫地帯であると推察されたがまったく氾濫を受けた層位は認めることはできなかった。 遺跡は主に奈良から平安時代の掘立柱建物や溝等が確認された。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・掘立柱建物 3棟 ・溝 4条 ・道状遺構 1 		<ul style="list-style-type: none"> ・土師器 ・須恵器 ・製塩土器 ・緑釉陶器 	
関連文献					
No.	92	遺跡名	大足地内（試掘）	所在地	松阪市大足町
調査原因	スポーツ公園建設			事業主体	市教育委員会
調査機関	松阪市教育委員会			調査期間	H5.4.15
調査面積	80㎡			担当者	西田尚史、福田 昭
文化財保護法に関する文書番号※1					※2
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>耕土下に砂礫層が広がっており、遺跡の存在は認められない。</p>		なし		なし	
関連文献					
No.	93	遺跡名	小津地内（試掘）	所在地	松阪市川井町小津
調査原因	病院の移転建設			事業主体	三重厚生連
調査機関	松阪市教育委員会			調査期間	H5.5.17～18
調査面積	357㎡			担当者	西田尚史、福田 昭
文化財保護法に関する文書番号※1					※2
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
<p>事業地の大部分では場整備が行なわれ、地山は砂又は砂礫混じり層であるため、遺跡はなかった。</p>		なし		なし	
関連文献					

No.	94	遺跡名	池田地内(試掘)	所在地	松阪市井口中町池田
調査原因	砂利採取			事業主体	松阪興産(株)
調査機関	松阪市教育委員会			調査期間	H5.7.22
調査面積	48㎡			担当者	福田 昭
文化財保護法に関する文書番号※1				※2	—
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
耕土下に砂又は砂礫があり、遺跡はなかった。			なし	なし	
関連文献					
No.	95	遺跡名	仮)山口遺跡(試掘)	所在地	松阪市井口中町山口
調査原因	砂利採取			事業主体	松阪興産(株)
調査機関	松阪市教育委員会			調査期間	H5.10.15
調査面積	64㎡			担当者	福田 昭
文化財保護法に関する文書番号※1				※2	新発見
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
周田の水田面より一段高い畑地を試掘したところ、遺構は検出されなかったが、遺物が多く出土した。			なし	<ul style="list-style-type: none"> ・須恵器杯身 ・土師器甕 他 	
関連文献					
No.	96	遺跡名	涌早崎遺跡(試掘)	所在地	松阪市大津町涌早崎
調査原因	宅地開発			事業主体	三重エステート(株)
調査機関	松阪市教育委員会			調査期間	H5.6.25
調査面積	48㎡			担当者	福田 昭
文化財保護法に関する文書番号※1				※2	周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
涌早崎遺跡(一部H3年度に発掘調査済)内に含まれている湿地部分を試掘した。遺構の検出、遺物の出土はなかった。			なし	なし	
関連文献					

No.	97	遺跡名	新田町遺跡（試掘）	所在地	松阪市大黒田町新田町
調査原因	市道建設			事業主体	市土木部
調査機関	松阪市教育委員会			調査期間	H5.10.8
調査面積	48㎡			担当者	西田尚史
文化財保護法に関する文書番号※1				※2	周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>新田町遺跡内の市が買収した部分の試掘をしたが、遺構の検出はなく、遺物の出土は僅少であった。試掘した箇所は、遺跡の縁辺部と思われる。</p>			なし	なし	
関連文献					
No.	98	遺跡名	古轡通りB遺跡（試掘）	所在地	松阪市早馬瀬町古轡通り
調査原因	砂利採取			事業主体	松阪サンバイド(株)
調査機関	松阪市教育委員会			調査期間	H6.1.7
調査面積	72㎡			担当者	福田 昭
文化財保護法に関する文書番号※1				※2	周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>周知の遺跡である古轡通りB遺跡の所在する畑地には、土師器片、山茶碗片が散布しており、試掘でも更に弥生土器片、土師器皿片、須恵器片が出土した。 尚畑地と同程度の高さの水田にも試掘を入れたがS字口縁甕が出土した。 周知の遺跡の範囲を広げて考える必要がある。</p>			焼土跡	<ul style="list-style-type: none"> ・弥生土器 ・土師器皿（平安） ・須恵器片（古墳） ・S字口縁甕（古墳） 	
関連文献					
No.	99	遺跡名	口南戸遺跡	所在地	松阪市立野町口南戸
調査原因	市道建設			事業主体	市土木部
調査機関	松阪市教育委員会			調査期間	H5.7.29～
調査面積	630㎡			担当者	福田 昭、西田 尚史
文化財保護法に関する文書番号※1				松教第239号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>阪内川の南、浅間古墳群の北に所在する。台地上にあり、前に自然堤防が広がっている。昨年度試掘をして遺跡が確認されている。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・竪穴住居跡 4棟 ・土坑 8基 ・ピット 多数 	<ul style="list-style-type: none"> ・縄文土器 ・山茶碗 ・鍋 ・土師器皿 	
関連文献 『松阪市史 資料篇 考古』1978					

No.	100	遺跡名	浅間古墳群	所在地	松阪市立野町	
調査原因	市道建設			事業主体	市土木部	
調査機関	松阪市教育委員会			調査期間	H5.7.29～	
調査面積	4,800㎡			担当者	福田 昭、西田尚史	
文化財保護法に関する文書番号※1		松教第239号			※2	周知
遺跡の概要						
周知の浅間古墳群の北東側を市道が通るが、古墳すべてがのり面でカットされるためやむなく本調査をした。『市史』に当初7基が記載されていたが、雑木を刈り取った後、地形測量で6基増えた。 当古墳群は、阪内川右岸の丘陵上にあり、立野古墳群、東山古墳群等、後期古墳が集中している。『市史』に銅鏡出土の記載があった。						
古墳名	墳形	規模(m)	主体部	出土遺物	時期	備考
1号墳	円墳	9	未調査	須恵器 杯蓋・杯身 皿、壺 他	6C中 5 7C前	
2号墳	〃	7.5	〃			
3号墳	〃	8	〃			
4号墳	〃	16	〃			
5号墳	〃	16	〃			
6号墳	〃	12	〃			
7号墳	〃	9	〃			
8号墳	〃	17	〃			
9号墳	〃	8	〃			
10号墳	〃	8	〃			
11号墳	〃	7	〃			
12号墳	〃	未計測	〃			
13号墳	〃	〃	〃			
関連文献	『松阪市史』資料篇 考古、1978					
No.	101	遺跡名	阿形遺跡	所在地	松阪市阿形町宝蔵寺	
調査原因	スポーツ公園建設			事業主体	市教育委員会	
調査機関	松阪市教育委員会			調査期間	H6.1.13～2.28	
調査面積	2,300㎡			担当者	福田 昭	
文化財保護法に関する文書番号※1		松教第1765号			※2	周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物		
周知の遺跡である阿形遺跡はH3年度の県埋文センターの調査で5本の環濠が検出され、今回の調査区は、電気探査で環濠の可能性が指摘されたところである。 遺構・遺物は調査区の東側に集中していた。		<ul style="list-style-type: none"> 溝 2条(弥生) 竪穴住居跡 1棟(弥生) 土坑 5基 (縄文、弥生、中世) ピット 		<ul style="list-style-type: none"> 弥生土器 多数 壺(中世) 鍋(〃) 山皿、(〃) 山茶碗 縄文土器 		
関連文献	『松阪市史 資料篇 考古』1978、『阿形遺跡』1991					
No.	102	遺跡名	発シA遺跡	所在地	多気郡明和町大字有爾中字発シ・平田	
調査原因	町立幼稚園駐車場造成工事			事業主体	町教育委員会	
調査機関	明和町教育委員会			調査期間	H5.8.24(試掘) H5.11.19～H6.2.5	
調査面積	245㎡			担当者	森田幸伸	
文化財保護法に関する文書番号※1		明教斎第141号			※2	周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物		
本遺跡は、明和町の南部丘陵地帯から北側へ派生する丘陵支脈、東端部の南東緩斜面に立地する。 事業地内において、上下段と地形が異なるため、2×4mの試掘坑を2ヶ所、2×2mの試掘坑1ヶ所を設定し、調査した結果、上段約250㎡に遺構が確認された。 本調査の結果、土師器焼成皿4基、土皿4基、溝などが検出された。 土師器焼成皿4基とともに数片の碗を除いて、ほとんどが壺の出土であった。他に鍋が若干見られたにすぎない。		<ul style="list-style-type: none"> ○奈良時代 ・土師器焼成皿(4基) ・土皿(3基) ・溝 1条 ○平安時代末期 ・土皿(1基) 		<ul style="list-style-type: none"> ○奈良時代以前 ・チャートフレイク ・サスカイトフレイク ○奈良時代 ・土師器(壺、碗) ・須恵器(壺) ○平安時代末期 ・土師器(鍋、小皿) 		
関連文献						

No.	103	遺跡名	金剛坂遺跡	所在地	多気郡明和町大字金剛坂字辰ノ口
調査原因	防火水槽新設工事			事業主体	明和町
調査機関	明和町教育委員会			調査期間	H6.1.10~H6.1.12
調査面積	62㎡			担当者	森田幸伸
文化財保護法に関する文書番号※1				明教斎第142号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>本遺跡は、櫛田川下流域の東部に形成された洪積台地上に立地する。標高は約15mである。</p> <p>これまでの発掘調査で、方形周溝墓、竪穴住居、掘立柱建物、土師器焼成仏、溝等が検出されている。</p> <p>今回の調査は、現道路敷設内において、工事該当場所の約62㎡を対象として行った。</p> <p>その結果、方形周溝墓と考えられる溝のコーナーの一部が検出された。方形周溝墓とすれば一辺が少なくとも8m以上の規模と考えられる。</p>			<p>○弥生時代</p> <p>・方形周溝墓 1基</p>		<p>○弥生時代</p> <p>・壺底部</p> <p>○奈良時代</p> <p>・土師器甕</p>
関連文献					
No.	104	遺跡名	西山城跡	所在地	多気町大字西山字上奥尻
調査原因	伊勢多気線道路特殊改良工事			事業主体	県土木部
調査機関	多気町教育委員会			調査期間	H5.1~H6.4
調査面積	800㎡			担当者	中里 守
文化財保護法に関する文書番号※1				多教社第752号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>多気町大字西山南方の標高55mの丘陵頂部にある。山頂部には、縦40、横30mほどの方形の台状地があり、西側には幅約5mの堀がある。</p> <p>調査区にも一部分土塁らしき形跡のものが残存する。</p>			<p>・土坑</p>		<p>土師器鍋、甕片多数 (羽釜形も少量あり)</p>
関連文献 伊勢名勝志					
No.	105	遺跡名	森庄遺跡(試掘)	所在地	多気町大字森庄字林中
調査原因	保育所建設			事業主体	多気町
調査機関	多気町教育委員会			調査期間	H5.3中旬
調査面積	40㎡			担当者	中里 守
文化財保護法に関する文書番号※1				多教社第147号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>縄文、弥生時代遺跡(遺物包含地)、外城田小学校付近の畑及び果樹園地帯の広い範囲に散布している。土色は黒色をしている。石鏃(石製品)の出土数が多い。</p>			<p>縄文(竪穴) 弥生(土坑)</p>		<p>・縄文土器(押型文)</p> <p>・弥生土器</p> <p>・石鏃(石包丁、石斧等)</p>
関連文献					

No.	106	遺跡名	池ノ谷遺跡	所在地	多気郡勢和村丹生字池ノ谷、字馬ノ谷
調査原因	範囲確認調査			事業主体	勢和村教育委員会
調査機関	勢和村教育委員会			調査期間	H 6 . 2 . 14~27
調査面積	360㎡			担当者	奥 義次
文化財保護法に関する文書番号※1				勢教第102号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>宮川の支流濁川に注ぐ小支流東岸の台地上に位置する。遺跡範囲は南北約500メートルに達し、特に中央部に張り出す舌状台地に濃密な遺物分布がある。</p> <p>堆積土層は地山までが20~30cmの浅い地区と約1メートルの比較的厚い地区に分かれる。ただし、後者もかなり攪乱が目立ち複雑な様相を示す。</p> <p>戦後の開墾以降おびただしい量の磨石・叩石、石棒が出土し、注目されていたが、今回の調査によって朱の生産遺跡としての性格が明らかとなった。</p>			溝状遺構	<p>縄文早期押型文土器 晩期突帯文土器 弥生前・中期土器 須恵器、土師器、石鏃、磨石、叩石、剝片、辰砂原石など</p>	
関連文献					
No.	107	遺跡名	高ノ御前遺跡(試掘)	所在地	伊勢市有滝町字高ノ御前
調査原因	県営は場整備に伴う土取り			事業主体	伊勢市教育委員会
調査機関	伊勢市教育委員会			調査期間	H 5 . 10 . 1
調査面積	約50㎡			担当者	岩 中 淳 之
文化財保護法に関する文書番号※1				※2	周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>浜堤微高地に位置する6世紀初頭以降の古墳時代を中心とした遺物散布地である。</p> <p>今回、有滝地区で行われている県営は場整備事業に伴い、遺跡の近隣地及び一部内包される地域に、客土用に利用するための土取り計画がなされたため試掘調査を実施。</p> <p>土取り計画内の一部で左記のような遺構・遺物が検出されたため、その区域は除外し土取りは行われた。</p> <p>なお、遺跡の一部は平成6年度に県営は場整備事業に入る予定であり、その対応は別途協議中である。(県対応)</p>			土壇など	<ul style="list-style-type: none"> ・土師器 (甕・S字台付甕) ・須恵器 (蓋杯・甕) 	
関連文献					
No.	108	遺跡名	うるし原遺跡(試掘)	所在地	伊勢市磯町字うるし原
調査原因	倉庫建設事業			事業主体	伊勢市教育委員会
調査機関	伊勢市教育委員会			調査期間	H 5 . 10 . 22
調査面積	約50㎡			担当者	岩中淳之
文化財保護法に関する文書番号※1				※2	周知
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>外城田川左岸、標高3m程の河岸段丘に位置する鎌倉以降の遺物散布地。</p> <p>今回、遺跡の一部に倉庫建設事業計画がなされたため試掘調査を実施。</p> <p>調査の結果、水田床土下はすぐ礫層となり遺構・遺物は検出されず、建設工事は施工された。</p>			なし	なし	
関連文献					

No.	109	遺跡名	掛橋遺跡 (B地区)	所在地	度会郡小俣町本町
調査原因	マンション敷地造成			事業主体	個人
調査機関	小俣町教育委員会			調査期間	H5.10.8~11.19
調査面積	539㎡			担当者	河瀬信幸、山崎富三郎
文化財保護法に関する文書番号※1				小教委第869・890号	※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
宮川下流左岸の段丘上に位置する遺跡で、玉城町中桑山遺跡・野垣内遺跡から続く弥生時代後期からの集落跡である。また、離宮院遺跡も隣接しており、奈良・平安時代と考えられる掘立柱建物も見られ、また中世墓と考えられる遺構も検出された。		<ul style="list-style-type: none"> ・弥生時代後期～末期の堅穴住居 2棟、土壇1ヶ所 ・奈良～平安時代の掘立柱建物 4～5棟 ・鎌倉時代前期の中世墓1ヶ所及び溝1条 ・その他時期不明の土坑数ヶ所 		<ul style="list-style-type: none"> ・弥生時代後期～末期の壺・甕・高杯（中には朱彩高杯1点）など。 ・平安時代中頃の灰釉陶器数点 ・鎌倉時代前期の蔵骨器及び山茶碗・小刀など。 	
関連文献					
No.	110	遺跡名	田丸城址	所在地	度会郡玉城町田丸114番地
調査原因	田丸城城郭石垣修復工事			事業主体	玉城町
調査機関	玉城町教育委員会			調査期間	H6.1.21~1.23
調査面積	24㎡			担当者	中西正典、北島充生
文化財保護法に関する文書番号※1				玉教委第46号	※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
田丸城城郭の石垣修復工事に関連する調査台風により土塁崩壊した箇所について、当初、石垣で積む計画をしていたが、石垣の根石があるか否かの結論が出ず、田丸城址整備検討委員会の意見をもとに、石垣で修復することに決定。 事前に根石があるかどうか試掘を実施。土塁部分には根石はなく、途中で石垣は止めてある。 止めた箇所の石垣部分は裏ぐりがなく、地山部分を削り、石1個がはめこんである状態。		石垣		特になし	
関連文献					
No.	111	遺跡名	熊野街道八鬼山道	所在地	尾鷲市大字南浦字八鬼山
調査原因	間伐作業道棚山線開設			事業主体	尾鷲森林組合
調査機関	尾鷲市教育委員会			調査期間	H6.1.10~1.11
調査面積	40㎡			担当者	岩本 功
文化財保護法に関する文書番号※1				尾教社第960号	※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
熊野街道の石だたみ道は、寛永12年(1635)の路線変更の時か、正徳2年(1712)の紀州5代藩主吉宗の治世時代に施工されたものと推定される。 今回、林道開設工事により、一部現状変更がなされるため記録保存調査を行なったものである。		幅約1.5mの石敷の街道 (測量図作成中)		・染付茶碗 1点	
関連文献					

No.	112	遺跡名	向遺跡(試掘)	所在地	伊賀町大字愛田字向		
調査原因	多目的用地造成			事業主体	伊賀町		
調査機関	伊賀町教育委員会			調査期間	H5.7.29		
調査面積	約40㎡			担当者	仁保晋作		
文化財保護法に関する文書番号※1						※2	周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
<p>平成元年に開発に伴う確認調査で新発見され、形状から古墳と推定されるが断定出来ないため、向遺跡と仮称した。 (規模 東西11m、南北12m、高さ1.2m) 本年度、町の多目的用地造成工事に伴ない試掘調査を実施した。結果は自然地形であることが判明し、開発は実施されることとなっている。</p>			なし		なし		
関連文献							
No.	113	遺跡名	中出山10号・11号墳	所在地	大山田村大字出後字中出山		
調査原因	資材置場造成			事業主体	岡山工務店		
調査機関	大山田村教育委員会			調査期間	H5.7.12～8.1		
調査面積	300㎡			担当者	八賀 晋		
文化財保護法に関する文書番号※1				大山教第525号		※2	周知
遺跡の概要							
<p>中出山古墳群は山田盆地を見おろす標高220mほどの丘陵先端部に位置するところに16基ある。今回10号墳・11号墳の調査を実施した。 <10号墳> 墳頂部分で南北のだ円形の基壇(4m×1.5m)を確認された。 <11号墳> 南西の方向に開口する玄室長4.8m、巾1.9m、羨道部巾0.9m、残長1.0mの横穴式石室を確認した。 また、石室の床面に板石を敷きつめられていた。</p>							
古墳名	墳形	規模(m)	主体部	出土遺物	時期	備考	
10号墳 11号墳	— 円墳	— 12m	— 左片袖式 横穴石室	須恵器 (杯身・杯蓋・小型壺) 須恵器 (杯身・杯蓋・高杯・提瓶・ 平瓶) 土師器・耳環4 直刀2本・鉄鏃	5C後半 6C後半 7C前半		
関連文献							
No.	114	遺跡名	荒堀長川館跡	所在地	上野市比自岐字田中		
調査原因	地区公園運動公園造成			事業主体	上野市		
調査機関	上野市教育委員会			調査期間	H5.5.7		
調査面積	約1,500㎡			担当者	豊岡、山岡、中浦、福田、笠井		
文化財保護法に関する文書番号※1				上教社第367号		※2	周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
<p>本遺跡は比自岐川左岸、比自岐神社の北東約200mのところに位置する。現況は荒地で、東・西及び南に一部土塁が残る。また、北には井戸も現存する。今回地区の運動公園造成に伴い東の土塁が除去されるため城館の測量及び土塁の調査を行ったものである。</p>			土塁		なし		
関連文献							

No.	115	遺跡名	堂垣内館跡	所在地	上野市佐那具町字堂垣内
調査原因	工業団地造成			事業主体	(株)紀文エステート
調査機関	上野市遺跡調査会			調査期間	H5.7.1～8.31
調査面積	600㎡			担当者	福田典明、笠井賢治
文化財保護法に関する文書番号※1			上遺第45号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>堂垣内館跡の主郭と想定される範囲の南東部分について、東西方向にのびる堀を検出した。検出した堀は調査区北隅で陸橋部を持ち、それをはさんで東側は箱堀、西側は薬研堀の形状を呈する。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・中世城館に伴う箱堀、薬研堀 		<ul style="list-style-type: none"> ・土師器 小皿 ・中世陶器 (播鉢ほか)
関連文献	上野市教育委員会・上野市遺跡調査会『堂垣内館址発掘調査報告』1991				
No.	116	遺跡名	高野遺跡	所在地	上野市佐那具町字高野
調査原因	工場増設			事業主体	株式会社ナカテツ
調査機関	上野市遺跡調査会			調査期間	H5.8.2～9.3
調査面積	約520㎡			担当者	豊岡 勇
文化財保護法に関する文書番号※1			上遺第44号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>高野遺跡は柘植川左岸の低位河岸段丘上の標高約155mに位置する。東から西へ流れる柘植川は高野遺跡付近で北に蛇行し、河合川と合流する。御墓山古墳は南へ300mの距離にある。現況は畑に若干の盛土があった。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・縄文時代後期の小土坑、古墳時代の堅穴住居と土坑 ・平安時代後期の掘立柱建物 		<ul style="list-style-type: none"> ・縄文土器 (後期初頭) ○古墳時代 (5世紀前半) <ul style="list-style-type: none"> ・高杯・小型丸底壺など ○平安時代中期～後期 <ul style="list-style-type: none"> ・土師器杯 ・黒色土器杯 など
関連文献					
No.	117	遺跡名	蓮花寺推定地遺跡	所在地	上野市服部町字中之坊1135-1 他
調査原因	宅地造成			事業主体	大光開発株式会社
調査機関	上野市遺跡調査会			調査期間	H5.9.27～12.28
調査面積	約3,000㎡			担当者	豊岡 勇、山岡 裕、中浦基之
文化財保護法に関する文書番号※1			上遺第106号		※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>蓮花寺推定地遺跡は、上野市服部町の柘植川と服部川の合流点に近い平坦地に位置し、南西に接して延喜式内社小宮神社がある。試掘により堀の存在が確認され、今回その堀に囲まれた内部を発掘調査した。調査の結果、屋敷は四方を幅3.5m～7mの堀で囲まれ、南側中央には土橋が残り入り口となっていたことが確認された。土塁については、すでに削平を受け残存しないが、堀の内側に遺構の空白地が巡ることから、底辺4mほどの幅で土塁が存在したと考えられる。内部には掘立柱建物が少なくとも4棟は建ち、他に石組みの井戸や拳大から人頭大の石を敷きつめた場所、区画溝、土坑等を確認している。墓塚と考えられる土坑も10基を数え、当時の城館としては比較的多くの瓦が出土していることから寺であった可能性も少なくはないが、仏具等の遺物は確認できなかった。ただ井戸内より蓮花文の軒丸瓦が1点出土している。時期は出土遺物の中心が16世紀後半のものであることから、「天正伊賀の乱」前後のものと考えられる。他の時代の遺構としては古墳時代の溝1条、鎌倉時代の石組み井戸1基、鎌倉時代の集石遺構1基を確認した。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・堀 ・掘立柱建物 4棟 ・石組み井戸 3基 (室町時代の井戸 2基) (鎌倉時代の井戸 1基) ・井戸であった可能性のある土坑 2基 ・石敷遺構 2ヶ所 ・区画溝 ・墓塚 10基 ・鎌倉時代の集石遺構 1基 ・古墳時代の溝 1条 		<ul style="list-style-type: none"> ・土師器 小皿 ・陶器 播鉢片、捏鉢片、甕片、天目茶碗片、青磁碗片、軒丸瓦片、軒平瓦片 ・磁器 漆器碗片、曲物 ・瓦 碗片、杯身片・杯蓋片 ・石製品 石臼片 ・木製品 漆器碗片 ・瓦器 碗片 ・須恵器 杯身片・杯蓋片 ・土師器 高杯片、小型丸底壺、手づくね土器
関連文献					

No.	118-1	遺跡名	御墓山窯跡（試掘）	所在地	上野市佐那具字中坂
調査原因	駐車場造成			事業主体	ミカサ金属工業株式会社
調査機関	上野市遺跡調査会			調査期間	H5.5.11～28
調査面積	100㎡			担当者	豊岡 勇、福田典明
文化財保護法に関する文書番号※1				上遺第25号	※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
御墓山窯跡は、その先端に御墓山古墳の所在する南北丘陵が東西に派生させる小尾根の東部分に位置する。本年4月に駐車場造成に伴って1基の窯が半壊状態であることを発見し、事業主と協議を重ねた結果、掘削された法面での遺構検出とバラス敷きの駐車場での試掘調査を行なったものである。調査の後、露出した窯跡は芝生を貼って保護されることになった。		<ul style="list-style-type: none"> ・窯体1基（4号窯） ・灰原もそくは土坑1基 		須恵器（杯・杯蓋・壺・甕・盤） 窯壁	
関連文献					
No.	118-2	遺跡名	御墓山窯跡（1～3号室）	所在地	上野市佐那具字中坂
調査原因	駐車場造成			事業主体	個人
調査機関	上野市遺跡調査会			調査期間	H5.9.20～
調査面積	1,800㎡			担当者	福田典明、笠井賢治
文化財保護法に関する文書番号※1				上遺第74号	※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
御墓山古墳の南、約300mの所に位置する。窯は丘陵東側に検出され、2基は並列した形で、1基は調査区の南西隅に検出された。1号窯に伴う灰原は、約25m×15m、2号・3号窯に伴う灰原は約30m×30mの広がりをもつ。また、2号窯の灰原の下層からは、灰原とは時期差のある遺物を含む堆積層が、約1mの厚さで、10m四方の広がりをもち、確認された。 また、関連遺構として、土坑・溝・ビットが検出されている。		<ul style="list-style-type: none"> ・窯体 3基 ・土坑 3基 ・溝 3条 ・ビット 多数 		<ul style="list-style-type: none"> ・杯身・杯蓋（7C中頃～7C末頃） ・長頸瓶・平瓶 ・短頸壺・円面碗 ・鉢・提瓶・横瓶 ・陶棺・土馬・土鈴 ・子持台付壺 その他 	
関連文献					
No.	119	遺跡名	大門A遺跡・的場遺跡・広見遺跡	所在地	上野市下友生地区
調査原因	農業集落排水事業			事業主体	上野市
調査機関	上野市遺跡調査会			調査期間	H5.9～11, 2.～
調査面積	260㎡			担当者	山岡 裕、中浦基之、福田典明
文化財保護法に関する文書番号※1				上遺第75号	※2 周知
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
3遺跡とも久米川右岸の段丘上に位置する。大門A遺跡は昭和58年度県教育委員会が調査し、平安・室町時代の遺構・遺物が検出された遺跡である。的場遺跡も同年の試掘調査で土師器、須恵器片が出土している。また、広見遺跡では土師器杯片が表採されている。今回農業集落排水事業に伴い工事の進行に合わせて試掘調査を行ったものである。		<ul style="list-style-type: none"> ・17c初の溝 		<ul style="list-style-type: none"> ・肥前磁器。 	
関連文献					



御墓山窯跡
1号窯（東から）



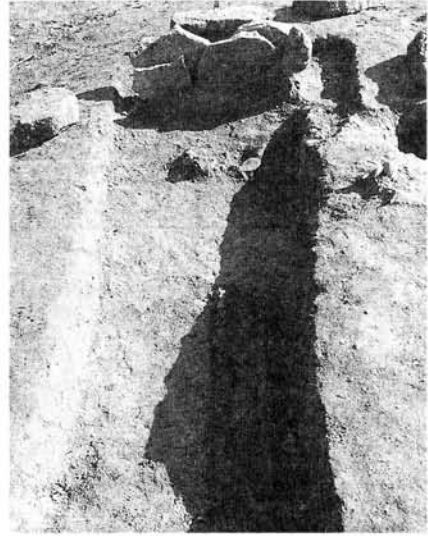
御墓山窯跡
2号窯（東から）

No.	120	遺跡名	藤原堡跡	所在地	上野市桂字美弥ほか
調査原因	農業集落排水事業			事業主体	上野市
調査機関	上野市遺跡調査会			調査期間	H 6.3.22～3.24
調査面積	約14㎡			担当者	山岡 裕
文化財保護法に関する文書番号※1				上遺第96号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>藤原堡跡は、通称巽城と呼ばれ、現在そこには個人の住宅が建ち、北側に土塁跡と思われるものが残る。</p> <p>桂地区における農業集落排水事業予定地が、上野市遺跡地図照合等により、藤原堡跡内を通ることが確認され、平成6年3月22日より工事の進行に合わせ立会調査を実施した。</p> <p>調査の結果は、1ヶ所で近代以降の信楽焼の甕片を含む土坑が、もう1ヶ所で小さな炭片を含む土層が確認されたが、その外の地点ではいずれの掘削箇所においても遺構・遺物・包含層は確認されず、表土直下は主として黄褐色粘質土の地山であった。今回の排水管設置範囲内では藤原堡跡に結びつくようなものは確認できなかった。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 近代以降の土坑1基 		<ul style="list-style-type: none"> 近代以降の信楽焼甕片
関連文献	『三重の中世城館』三重県教育委員会				
No.	121	遺跡名	養虫庵（試掘）	所在地	上野市愛宕町・西日南町
調査原因	養虫庵整備工事			事業主体	上野市
調査機関	上野市遺跡調査会			調査期間	H 5.11、H 6.1
調査面積	約50㎡			担当者	豊岡 勇、山岡 裕、中浦基之
文化財保護法に関する文書番号※1				上遺第85号	※2 周知
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>上野城下町南端に位置する。1688年芭蕉の弟子である服部土芳により創建されたものであるが、1699年火災にあい翌年再建された。庵は木造葺草で庵を包んで庭園がある。今回は、庵西側の整備事業に伴い、試掘調査を行ったものである。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ピット（根石含） 土坑 溝 		<ul style="list-style-type: none"> 近世陶器 瓦
関連文献					
No.	122	遺跡名	平垣内古墳群（試掘）	所在地	上野市長田字平垣内
調査原因	鉄塔敷設工事			事業主体	(株)中部電力
調査機関	上野市遺跡調査会			調査期間	H 5.10.12～13
調査面積	20㎡			担当者	福田典明、豊岡 勇
文化財保護法に関する文書番号※1				上遺第80号	※2 新発見
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>上野市長田字平垣内地内の南西方向にのびる尾根上に立地する古墳群である。従来は古墳の存在が確認されていなかったが、踏査の結果、円墳と思われるマウンド状の高まりが3基確認され、その中の2基についてはトレンチ調査の結果、古墳の周溝と想定される落ち込みから円筒埴輪片が出土した。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 2基の円墳と周溝 2号墳…径15m、高さ2m 周溝あり 3号墳…径15m、高さ3m 		<ul style="list-style-type: none"> 円筒埴輪片
関連文献					

No.	123	遺跡名	沢代遺跡	所在地	名賀郡青山町阿保字沢代		
調査原因	川上ダム建設所敷地造成工事			事業主体	川上ダム建設所		
調査機関	青山町遺跡調査会			調査期間	H5.12.8～H6.2.28		
調査面積	1,400㎡			担当者	境 宏		
文化財保護法に関する文書番号※1				青教社第106号		※2	新発見
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
木津川の右岸の河岸段丘上に位置する。試掘調査の結果、多数の弥生～古墳時代の土器および、奈良時代の土器が出土した。				○古墳時代の初め 堅穴住居 13棟 Pit、土坑 ○奈良時代 掘立柱建物 2棟 [いずれも2間×2間以上の規模、同じ方向]		○弥生土器 ○古式土師器 (甕、壺、高杯、碗、小型丸底甕) ○須恵器 (宝珠つまみ杯蓋、杯身、甕) ○土師器 (杯蓋、身、長胴甕、皿) ○墨書土器 「申日？」 ○円面硯	
関連文献							
No.	124	遺跡名	横山古墳群	所在地	名張市赤目町壇字横山 他		
調査原因	宅地造成			事業主体	朝日住宅株式会社		
調査機関	名張市遺跡調査会			調査期間			
調査面積	2,400㎡ (当初1,580㎡) (変更後2,400㎡)			担当者	門田了三、橋本晋吉		
文化財保護法に関する文書番号※1				名遺調第125号		※2	周知・新発見
遺跡の概要							
名張市の南部、赤目地区に所在する全長70mの前方後円墳琴平山古墳を盟主とする古墳群で、開発地内では大きく2つの支群に分れる。北側の横山11～15号墳は木棺直葬を主体とする一群で、6C前半には同じ尾根上に初期横穴式石室の琴平山古墳が築かれる。南側の丸尾山周辺は横穴式石室を主体とする一群で、山頂には初期横穴式石室で豊富な副葬品の丸尾山古墳が築かれている。 名張盆地内に、6Cになって初めて前方後円墳がつくられる背景の一端が徐々に明らかになってくる。							
古墳名	墳形	規模(m)	主体部	出土遺物	時期	備考	
横山13号墳	円墳	16m	木棺直葬 2基	(墓壇)鉄斧、石突き、鉄鏃、鹿角装刀子、剣 (西棺)直刀、堅櫛、玉類、コハク、ヒスイ、メノウ、碧玉ガラス (東棺)堅櫛、直刀、銅鏡(乳文鏡)、玉類、コハク	5C後	割竹型木棺 新発見	
横山14号墳	円墳	12m	木棺直葬	ガラス 高杯、直刀、玉類、ヒスイ、メノウ、コハク、緑色燐灰岩、ガラス、銅鏡(珠文鏡)	5C末	割竹型木棺 新発見	
横山15号墳	円墳	10.5m	木棺直葬	剣、刀子、鉄鏃、鉄斧		新発見	
横山11号墳	円墳	16.5m	木棺直葬	蓋杯、刀子、鉄鏃、直刀	6C初	割竹型木棺 周知	
横山12号墳	円墳	9m	木棺直葬	蓋杯、土師器小壺	6C前	箱式木棺 周知	
横山16号墳	円墳	9m	小石室	杯、鉄鏃	6C	新発見	
横山17号墳	不明		横穴式石室	杯、平瓶、銀環、土師器杯、壺	7C中	無袖式 墳丘は流失 新発見	
石取場1号墳	円墳	10m	横穴式石室	蓋杯、高杯、鉄鏃、直刀	6C後	無袖 周知	
丸尾山古墳	不明		横穴式石室	蓋杯、高杯、鉄鏃、刀子、銀象嵌刀装、金環、銀環、馬具(金網張り鏡板)、玉類、ガラス、碧玉	6C前	片袖 墳丘は3月に調査 周知	
丸尾山2号墳	不明		横穴式石室	蓋杯、壺、提瓶、金環、銀環、直刀	6C後	新発見	
丸尾山3号墳	不明		横穴式石室			3月に調査 新発見	
関連文献							



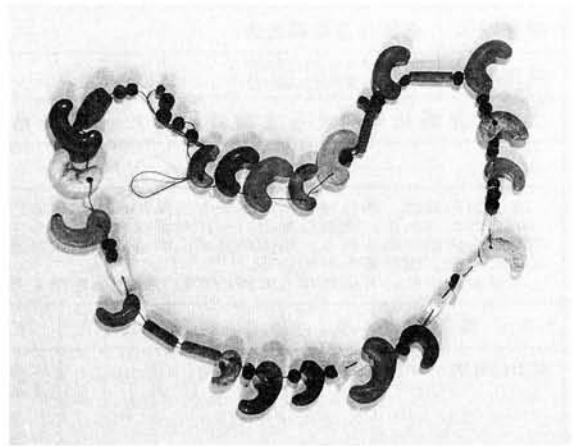
横山古墳群 全景



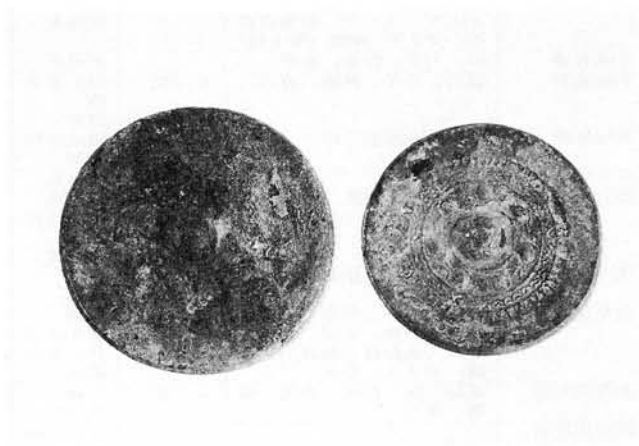
横山14号墳 主体部



丸尾山古墳 横穴式石室



横山14号墳 玉類



銅鏡 (左 14号墳 右 13号墳第2主体)



丸尾山古墳 銀象嵌刀装 (X線)

Ⅲ. 埋蔵文化財保護体制の充実

1. 各種会議

〔三重県埋蔵文化財担当者会議〕

当埋蔵文化財センターのほか、県文化振興課・斎宮歴史博物館及び市町村の埋蔵文化財担当者による技術研修や情報交換を目的として、本年度は次の4回を開催した。

	開催日	場所	内容
第1回	平成5年4月16日	斎宮歴史博物館講堂	<ul style="list-style-type: none"> 平成5年度の事業計画について 講演会「三重県の地震考古学」 寒川 旭氏（通産省工業技術院地質調査所） 事例報告 斎宮跡 北野遺跡
第2回	平成5年6月22日	嬉野町ふるさと会館 1階多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> 市町村及び県の現状と課題 現地視察 嬉野町ふるさと会館内歴史資料館 美杉村ふるさと資料館
第3回	平成5年10月14日	斎宮歴史博物館講堂	<ul style="list-style-type: none"> 市町村及び県の現状と課題 斎宮歴史博物館特別展「巫女の文化」見学 講演会「埋蔵文化財行政の諸問題」 岡村道雄氏（文化庁文化財保護部記念物課） 現地視察 明和町北野遺跡
第4回	平成6年2月18日	四日市市役所 9階第1会議室	<ul style="list-style-type: none"> 市町村及び県の現状と課題 事例報告 県下の主要な遺跡をスライドで 現地視察 四日市市立博物館 特別展「装飾古墳の世界」

〔三重県埋蔵文化財連絡調整会議〕

県および市町村の埋蔵文化財保護行政における諸問題について協議・情報交換を行うとともに長期計画展望について意見交換を行う目的で、今年度は次の2回を開催した。

	開催日	場所	内容
第1回	平成5年7月23日	斎宮歴史博物館 2階会議研修室	<ul style="list-style-type: none"> 発掘調査にかかる経費積算基準について 事例発表「四日市市における埋蔵文化財保護体制について」四日市市教育委員会 春日井 恒氏 「全国の埋蔵文化財センターの概況について その他 速報展「'92・三重」の視察
第2回	平成5年12月10日	明和町総合体育館 会議室	<ul style="list-style-type: none"> 発掘調査にかかる経費積算基準について 小規模開発にかかる埋蔵文化財保護について 遺跡の新発見・登録遺跡の変更の通知、遺跡台帳整備化にかかる流れについて 多気町郷土資料館視察

〔その他の会議〕

全国公立埋文協などが主催する会議・研修会に職員を派遣し、県外他機関との交流や技術研修を行っている。今年度は次の会議等に参加した。

名 称	内 容	期 日	場 所	出席者
平成5年度全国公立埋文協総会	平成4年度事業計画 その他	6月3・4日	奈良県橿原市	新田 洋 福田 哲也
平成5年度全国公立埋蔵文化財連絡協議会役員会	平成5年度事業計画 その他	9月16・17日	北海道苫小牧市	久保 富子 山澤 義貴
全国公立埋文協第5回全国研修会	埋蔵文化財と古人骨	10月21・22日	山口県下関市	新田 洋 河北 秀実
平成5年度東海4県文化財担当国会議	総会	11月17・18日	愛知県犬山市	泉 雄二
全国公立埋文協中部・北陸ブロック会議	発掘調査実施上にかかる諸問題について	2月24・25日	富山県富山市	新田 洋 福田 哲也

2. 埋蔵文化財発掘技術者研修

〔職員研修〕

職員の技術的向上を目的に、奈良国立文化財研究所が実施する埋蔵文化財発掘調査技術者研修と奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センターが実施する埋蔵文化財発掘技術専門研修を随時受講させている。

内 容	実 施 機 関	期 間	受講者
埋蔵文化財発掘技術者研修	奈良国立文化財研究所	平成5年7月1日～9月30日	竹田憲治
埋蔵文化財発掘技術者研修	奈良国立文化財研究所	〃 9月1日～11月30日	筒井正明
専門研修 環境考古学課程	奈文研埋蔵文化財センター	〃 11月24日～12月10日	高崎 仁
専門研修 城郭調査課程	奈文研埋蔵文化財センター	平成6年2月15日～2月22日	中村光司

〔埋蔵文化財発掘技術者研修（教員研修）〕

昭和42年度以来県下の学校教員を対象として埋蔵文化財の発掘調査等についての専門的知識と技術の習得を目的とする研修事業を実施している。昭和54年度以降期間1カ年の研修となり、本年度は次の3名が県埋蔵文化財センター及び県内発掘調査現場において研修を行った。これまで昭和54年度から本年度までに59名が研修を終了した。

平成5年度研修生

吉田 利弘 鈴鹿市立国府小学校
 稲森 剛 県立名張西高等学校
 船越 重伸 県立飯野高等学校

〔平成5年度研修内容〕

月	研 修 内 容
4	・研修ガイドンス ・2次整理研修Ⅰ・Ⅱ ・室内講義Ⅰ・Ⅱ ・自主研修および発表会
5	・発掘調査実習（伊賀国府跡 大里西沖遺跡 磐城山遺跡 ほか）
6	・ “ （伊賀国府跡 大里西沖遺跡 磐城山遺跡 ほか）
7	・ “ （伊賀国府跡 六地藏A遺跡 磐城山遺跡 ほか）
8	・ “ （伊賀国府跡 六地藏A遺跡 磐城山遺跡 ほか）
9	・ “ （伊賀国府跡 勝地中世墓群 北野遺跡 ほか）
10	・ “ （高塚宅址 大里西沖遺跡 北野遺跡 ほか）
11	・ “ （石薬師東26号墳 ほか）
12	・ “ （石薬師東26号墳）
1	・ “ （石薬師東26号墳） ・分布調査実習 ・試掘調査実習
2	・報告書作成実習 ・分布調査実習 ・試掘調査実習 ・室内講義Ⅲ
3	・報告書作成実習

〔室内講義内容〕

月 日	内 容	担 当 者
〔室内講義Ⅰ〕		
4. 12	埋文センターの組織と機能 埋蔵文化財の保護行政と発掘調査 遺跡の調査と方法 遺物の整理と実測	伊藤克幸（埋蔵文化財センター） 新田 洋（ “ ） 山田 猛（ “ ） 倉田直純（ “ ）
〔室内講義Ⅱ〕		
4. 14	遺跡の立地と地形環境 旧石器時代の三重 縄文時代の三重 弥生時代の三重	田村陽一（埋蔵文化財センター） 久保勝正（斎宮歴史博物館） 森川幸雄（埋蔵文化財センター） 河北秀実（ “ ）
4. 15	古墳時代の三重 奈良・平安時代の三重 斎宮 中・近世の三重	上村安生（ “ ） 森川常厚（ “ ） 岸田早苗（ “ ） 前川嘉宏（ “ ）
4. 19	文献からのアプローチ 近年の調査成果と活用	小林 秀（ “ ） 福田哲也（ “ ）
〔室内講義Ⅲ〕		
2. 4	整理・報告書作成のマニュアル	福田哲也（埋蔵文化財センター）
2. 7	縄文土器 弥生土器 古墳時代の土器	田村陽一（ “ ） 上村安生（ “ ） 竹内英昭（ “ ）

2. 8	奈良・平安時代の土器	泉 雄二（埋蔵文化財センター）
	中世の土師器	前川嘉宏（ ” ）
	山茶碗と瓦器	森川常厚（ ” ）
2. 9	瓦	河北秀実（ ” ）
	中世の陶磁器	倉田直純（ ” ）
	写真の整理と撮影	小林 秀（ ” ）
2. 28	保存処理と自然科学的分析	森川幸雄（ ” ）
	遺跡の整備と活用について	野口美幸（ ” ）
	文化財保護について	新田 洋（ ” ）

〔町村職員研修〕

町村教育委員会の職員を対象として埋蔵文化財発掘調査技術を研修し、文化財保護行政に資するための研修を実施している。本年度は次の2件を実施した。

所属・氏名	種 別	内 容	期 間
美杉村教育委員会 宮崎 洋史	発掘コースC	遺物整理実習・報告書作成実習 (美杉村須原六田遺跡)	平成5年2月16日～4月30日
多気町教育委員会 中里 守	発掘コースC	遺物整理実習・報告書作成実習 (多気町立岡山中世墓群)	平成5年6月1日～7月31日

3. 埋蔵文化財保護等に関する指導・協力

依頼者	内容	期日
大王町教育委員会	考古資料目録の執筆・編集の協力	4月1日～3月31日随時
文化振興課	玉城町師子焼遺跡の現状確認	4月8日
美杉村教育委員会	発掘調査報告書作成の指導（六田須原遺跡）	5月7日～5月31日
一志町教育委員会	長谷古墳群の分布調査指導	5月21日
上野市教育委員会	御墓山窯跡群の調査・保存についての指導	5月24日
(財)日本クレーン協会	講師	5月26日
上野市教育委員会	城之越遺跡保存整備指導委員会に出席	6月1日
嬉野町教育委員会	天白垣内遺跡の試掘調査指導	6月14日～9月17日随時
河芸町教育委員会	三行地内の窯跡についての現地指導	6月16日
大山田村教育委員会	猿野地内の遺跡分布調査指導	6月24日
二見町教育委員会	安養寺跡出土木製品の保管についての指導	7月13日
嬉野町教育委員会	天白垣内遺跡指導委員会に出席	7月21日
伊賀町教育委員会	発掘調査報告書作成の指導（霊山山頂遺跡）	8月1日～2月28日随時
員弁町教育委員会	発掘調査報告書作成の指導（段遺跡・北野遺跡）	8月1日～3月31日随時
朝日町教育委員会	縄生廃寺跡範囲確認調査の現地指導	8月6日
玉城町教育委員会	田丸城址整備検討委員会に出席	8月10日
鈴鹿市教育委員会	長者屋敷遺跡等の指導委員会へ出席	8月11日
嬉野町教育委員会	文化財保護委員会へ出席	8月18日
文化振興課	大宮町古ヶ山遺跡の現状確認	8月19日
玉城町教育委員会	田丸城址整備検討委員会に出席	9月4日
鈴鹿土木事務所	講師	9月9日
玉城町教育委員会	田丸城址整備検討委員会に出席	9月18日
文化振興課	志摩町切間A遺跡の現状確認	9月29日
紀宝町教育委員会	「紀宝町ウミガメ公園」の展示についての指導	10月4日
朝日カルチャーセンター奈良	講師	10月2日
嬉野町教育委員会	片部遺跡発掘調査の指導	10月21日～10月30日随時
東員町教育委員会	遺物の実測指導（村前遺跡）	11月1日～3月31日随時
朝日町教育委員会	縄生廃寺跡範囲確認調査の現地指導	11月16日
嬉野町教育委員会	文化財展示委員会へ出席	12月6日
菰野町教育委員会	講師	12月25日
多気町教育委員会	西山城跡発掘調査の指導	1月6日～3月31日随時
文化振興課	熊野街道八鬼山道の発掘調査協力	1月10・11日
(財)三重県長寿社会推進センター	講師	1月11・27日、2月4日
菰野町教育委員会	杉谷地内の文化財保護についての指導	1月17日
勢和村教育委員会	勢和村文化財分布調査事業打合せ会に出席	1月22日
鈴鹿市教育委員会	長者屋敷遺跡等の指導委員会へ出席	2月2日
玉城町教育委員会	岩出弁ヶ谷地区試掘調査の現地指導	3月1日
嬉野町教育委員会	文化財保護委員会へ出席	3月11日
朝日町教育委員会	縄生廃寺跡調査指導委員会へ出席	3月24日

〔発掘技術者研修（教員対象）実施要項〕

平成5年度 埋蔵文化財発掘技術者研修実施要項

1. 目的

埋蔵文化財の発掘調査および保存についての専門的知識と技術の習得に務めようとする者を、三重県埋蔵文化財センターにおいて研修を実施し、埋蔵文化財の保護体制の強化に資することを目的とする。

2. 主催

三重県埋蔵文化財センター

3. 期間

平成5年4月1日～翌年3月31日までの12か月間

4. 場所

- ・多気郡明和町大字竹川 三重県埋蔵文化財センター
- ・各発掘現場

5. 人員

3名（小・中・高校教員）

6. 参加資格

- (1) 県内の小・中・高校の教員のうちで、原則として大学において考古学・歴史学を専攻、もしくは発掘調査の経験を有する者。
- (2) 健康で現場作業に従事することのできる者で、原則として昭和32年4月以降生まれである者。

7. 研究内容

(1) 論議

総論 ・文化財の保護

各論 ・文化財保護法

・史跡および埋蔵文化財保護の現状

・発掘調査方法

調査計画、墳墓・集落・生産所・窯・宮殿・官衙・寺院跡の調査

・遺物調査方法

実測原理、土器・土製品・石器・木製品・瓦の観察と整理、人骨・動植物遺体の調査

・関係学概説

建築構造、測量、保存科学、文献史学

・報告書作成方法 等

(2) 実習 ・発掘調査実習、測量実習、遺構実測実習、写真撮影実習、遺物保存処理実習等

8. 講師

三重県埋蔵文化財センター職員ほか

9. その他

- (1) 研修者の旅費は、県の旅費規定にしたがって支給する。
- (2) 研修期間中は、当該学校に対し教員の補充がなされる予定である。
- (3) 研修を修了した者には、修了証書を交付する。

埋蔵文化財発掘調査技術者研修年間計画表

内容	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
室内講義 I II III	文化財保護行政 埋文調査の基礎知識	— —											
基礎実習	遺物実測・拓本実習 測量調査実習	— —											
発掘調査	調査計画立案法 (実習) 調査準備法 (実習) 遺構検出法 (実習) 遺構写真法 (実習) 遺構実測法 (実習)		— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
分布調査	分布調査実習										—		
試掘調査	試掘調査実習											—	
室内講義 IV V	遺物各論												—
報告書作成	遺物整理法 (実習) 遺構整理法 (実習) 記述原理 報告書編集法 (実習)										— —	— —	— —
研修場所	埋文センターほか	埋文センターほか	埋文センターほか	斎宮歴史博物館	埋蔵文化財センターほか	埋蔵文化財センターほか						埋蔵文化財センターほか	

〔町村職員研修実施要項〕

平成5年度 埋蔵文化財発掘技術町村職員研修実施要項

1. 目 的

近年、各種開発事業に伴う埋蔵文化財の緊急発掘調査件数は増大し、各町村においても調査体制の確立が急務となっている。そのため、遺跡の現地分布調査、出土品整理、報告書作成等に関する専門的な調査技術の研修を実施して埋蔵文化財行政の強化に資する。

2. 主 催 三重県教育委員会

3. 対 象 町村教育委員会担当職員

4. 場 所

- (1) 多気郡明和町大字竹川 三重県埋蔵文化財センター
- (2) 県内各地 埋蔵文化財発掘調査現場

5. 期間及び実施時期

- (1) 各講座（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）は2か月とする。
- (2) 研修年度は、単年度が望ましいが、数年度にまたがってもよい。
- (3) 研修実施期間は、研修者派遣機関の希望を考慮する。

〔受講例〕

期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A	_____ 講座Ⅰ											
B	_____ 講座Ⅱ				_____ 講座Ⅲ							
C	_____ 講座Ⅰ			_____ 講座Ⅱ				_____ 講座Ⅲ				

6. 研修内容

講座	名 称	実 習 内 容	期 間
Ⅰ	発掘コースA	現地分布調査実習 試掘調査実習	2か月
Ⅱ	発掘コースB	発掘調査実習	2か月
Ⅲ	発掘コースC	遺物整理実習 報告書作成実習	2か月

- (1) 文化財保護法の概要
- (2) 埋蔵文化財の判定
- (3) 埋蔵文化財の立案と実習
- (4) 試掘調査の立案と実習
- (5) 発掘調査の立案と実習
- (6) 遺構の実測技術と写真撮影技術
- (7) 遺物の整理実習
- (8) 製図・レイアウト等報告書作成実習

7. 修了証書の交付

全研修講座修了者には、修了証書を交付する。

8. 研修の経費

- (1) 研修実施場所への旅費は、研修者派遣機関において負担するものとする。
- (2) 研修に必要な資料等の経費は、研修者派遣機関の実費負担を求める場合がある。

IV. 資料の整理・保管・公開

1. 資料の整理・保管

本年度の各事業別遺物出土量の概数は下表のとおりであり、その整理は埋蔵文化財センター及び受託事業現場整理所で行っている。出土遺物の保管については、原則として再検討・貸出等利用頻度の高いものを埋蔵文化財センター収蔵庫に、その他のものは各収納倉庫に保管している。

一方、実測図面・写真フィルム類についても出土遺物と同様に整理保管し、必要に応じて貸し出し等に対応している。一方、受贈図書は約1,500冊有り、図書室に分類保管して職員等の利用に供している。

〔平成5年度出土品量（概数）〕

事業		平成5年度出土量
公共事業		1,100
受託事業	国一バイパス	—
	中勢道路	150
	松多バイパス	350
斎宮跡		400
合計		2,000

〔出土遺物保管状況〕

施設		遺物保管量
埋文センター 収蔵庫 2	センター	9,416
	斎宮	9,733
収納倉庫	桜橋	19,470
	藤方	7,019
	上野	3,200
受託事業現場 整理所（一時 保管）	国一バイパス	0
	中勢道路	3,144
	松多バイパス	960
合計		52,942

※数量はコンテナ（55cm×35cm×15cm）による

2. 科学的保存処理

埋蔵文化財センターには、出土遺物の保存処理を実施するため保存科学室1（木製品保存処理）にPEG樹脂含浸装置2基、保存科学室2（金属製品保存処理）に減圧樹脂含浸装置1基ほかが設置されているまた、中勢道路整理所にPEG含浸装置1基が設置されている。現在のところ専任の担当職員は配置していないが、保存処理技術を研修した職員等が保存処理にあっている。

3. 資料の公開

・出版物の発行

発掘調査報告書・概報・埋蔵文化財展図録のほか『三重県埋蔵文化財センター研究紀要2』『三重県埋文センター通信みえ』No.10～12等を発行し、関係機関へ配布している。

・現地説明会

発掘調査の途中、あるいは終了時には地域の人々に対し文化財保護への理解を深めていただくため、現地説明会を開催しその調査結果について報告を行っている。当埋蔵文化財センターが調査主体となった発掘調査にかかる現地説明会は下表のとおりであり、毎回多数の人々の参加を得ている。

〔現地説明会一覧〕

遺 跡 名	所 在 地	担 当 課	開 催 日	参加人数
明気窯跡群（第2次）	多気郡多気町相可	調査第2課	H 5. 7.31	150名
鴻ノ木遺跡（第4次）	松阪市射和町	調査第2課	H 5. 7.31	150名
大垣内遺跡	津市大里窪田町	調査第1課	H 5. 8. 1	80名
大古曾遺跡（A・C地区）	津市一身田大古曾	調査第2課	H5. 8. 7	130名
伊賀国府跡	上野市坂之下	調査第1課	H 5. 8. 8	130名
鴻ノ木遺跡（第5次）	松阪市中万町	調査第2課	H 5.12. 4	140名
上ノ垣外遺跡・巢護遺跡	多気郡多気町荒蒔	調査第2課	H 5.12. 4	140名
石薬師東第26号墳	鈴鹿市石薬師	調査第1課	H 6. 1.10	45名
大里西沖遺跡	津市大里睦合町	調査第1課	H 6. 1.22	120名
北野遺跡	多気郡明和町明星・養村	調査第1課	H 6. 1.23	150名
合 計			10 件	1,235名

・ 斎宮歴史博物館速報コーナーでの展示

斎宮歴史博物館映像展示室の速報コーナーで、埋蔵文化財センターが実施している発掘調査の成果の一部を速報的に随時展示している。本年度は次の資料を展示した。

5月	六大B遺跡（土師器・須恵器）	橋垣内遺跡（土師器）
7月	大垣内遺跡（須恵器・瓦・土馬・円面硯）	
12月	伊賀国府跡（須恵器・墨書土器・八稜鏡）	小屋城古墳（須恵器・金環）
2月	北野遺跡（弥生土器・土師器）	

・ 三重県埋蔵文化財発掘調査速報展

前年度の三重県下の発掘調査の結果を展示し、広く県民に公開するために、今年度より三重県埋蔵文化財発掘調査速報展を行うことになった。第2回目である本年度は、関係各機関のご協力を得、斎宮歴史博物館特別展示室を会場として、平成5年7月21日（水）～8月15日（日）までの会期で実施した。会期中の入場者数は、約8,230人であった。

第2回 三重県埋蔵文化財発掘調査速報展実施要項

1. 目 的 県下各地で行われる開発事業に伴う発掘調査は、年々増加の一途をたどり、県下においても貴重な資料が数多く出土している。
これらの発掘調査の結果は、埋蔵文化財や現地説明会などを通じて公開しているが一般県民にはあまり知られていないのが現状である。
したがって当センターでは、前年度の発掘調査の成果を速やかに公開し、なおいっそうの県民文化の向上と埋蔵文化財保護思想の普及啓蒙に努めていくために、速報展を開催する。
2. 主 催 三重県埋蔵文化財センター
3. 期 間 平成5年7月21日（水）～8月15日（日）9：30～17：00（入館は16：30まで）
ただし、月曜日は博物館休館日のため休展

4. 場 所 齋宮歴史博物館 特別展示室（多気郡明和町竹川503番地）
5. 展示テーマ 「'92発掘 三重」
6. 入場料 速報展は無料
7. 主な展示物 天白遺跡出土遺物 長者屋敷遺跡出土遺物
 北野遺跡出土遺物 四ツ野B遺跡出土遺物
 薬師谷古墳群出土遺物 明気窯跡出土遺物
 まんじゅう山古墳群出土遺物 東浦遺跡出土遺物
 安養寺跡出土遺物 ほか多数

・三重県埋蔵文化財展

三重県埋蔵文化財展は、昭和56年度から三重県教育委員会が主催して、各市町村を会場に毎年実施してきた。平成元年度からは埋蔵文化財センターが主催し、三重県が実施した発掘調査の成果および市町村主体の発掘調査の成果を展示して広く県民に公開し、生涯教育の一環として埋蔵文化財保護思想の普及啓蒙に努めている。本年度は第13回目を迎え、伊勢市立図書館を会場に平成5年11月24日（水）～12月5日（日）までの会期で実施した。今回は「伊勢志摩をめぐる考古学」というテーマで、伊勢志摩地域の歴史を紹介した。会期中の入場者数は、約2,200人であった。

第13回 三重県埋蔵文化財展実施要項

1. 目 的

県下各地で行われる各種開発事業に伴う発掘調査は年々増加し、県下においても貴重な文化財が数多く出土している。

そこで、本県ではこれら県下各地の発掘調査により出土した遺物や関連資料を広く県民に公開展示して、県民文化の向上と埋蔵文化財の保護思想普及啓蒙に努めているところである。

本年度は、平成6年に開催される世界祝祭博のプレイベントとしての意味も兼ねて伊勢・志摩地域にスポットをあて、考古資料から見た当地域の歴史を紹介する。

2. 主 催 三重県埋蔵文化財センター

3. 後 援 伊勢市教育委員会・伊勢市立図書館

協 力 南勢志摩教育事務所管内各教育委員会

協 賛 国民文化祭

4. 期 間 平成5年11月24日（水）～12月5日（日）9：30～17：00
 （入館は16：30まで）

ただし、11月29・30日は図書館休館日のため休展

5. 場 所 伊勢市立図書館 2階視聴覚室・展示ホール（伊勢市八日市場町13番35号）

6. 展示テーマ 「伊勢志摩をめぐる考古学」

7. 記念講演会 ・日 時 平成5年11月27日（土）14：00～16：00

・場 所 伊勢市福祉健康センター 3階 大会議室

・演 題 「伊勢志摩をめぐる古代・中世のまつりの器」

・講 師 名古屋大学名誉教授・名古屋学院大学教授 檜崎彰一先生

8. 入場料 埋蔵文化財展・記念講演会は無料

9. 主な展示資料

資 料 名	所 蔵 者	
ヒロサキ遺跡	ナイフ形石器・尖頭器	個人
次郎六郎遺跡	削器・尖頭器・石棒	大王町教育委員会
柳谷遺跡	縄文土器	磯部町教育委員会
大床谷D遺跡	縄文土器・異形局部磨製石斧	伊勢市教育委員会
長尾遺跡	石鏃・ケツ状耳飾	個人
白浜遺跡	骨角器	海の博物館
大藪遺跡	弥生土器甕・広口壺・高杯	三重県埋蔵文化財センター
三津遺跡	弥生土器細頸壺	個人
隠岡遺跡	弥生土器広口壺・脚付細頸壺	伊勢市教育委員会
おばたけ遺跡	土偶・土師器	鳥羽市教育委員会
おじよか古墳	埴製枕・玉類	阿児町教育委員会・個人
宮山古墳	環頭太刀・須恵器	南勢町教育委員会
昼河古墳	須恵器・直刀	伊勢市教育委員会
塚原古墳	画文帯環状神獸鏡・玉類	個人
地蔵貝塚	鹿角装刀	御座小学校
鷺遺跡	縄文土器・石帯	鳥羽市教育委員会
志摩国分寺跡	軒丸瓦・軒平瓦	志摩国分寺
朝熊山経塚群	陶製経筒・和鏡・青白磁	金剛證寺
仙宮神社所蔵	銅製六角宝幢形経筒	仙宮神社
小町塚経塚	瓦経・楞塔	浦口町連合会・等観寺
神島八代神社所蔵	画文帯乳神獸鏡（レプリカ）	斎宮歴史博物館
西殿遺跡	人骨	三重県埋蔵文化財センター
侍岡中世墓	土師器鍋・小刀	磯部町教育委員会
答志中学校所蔵	常滑産甕	答志中学校
安養寺跡	木製品下駄・箸等	二見町教育委員会
古市・中之地蔵町遺跡	磁器・陶器	三重県埋蔵文化財センター

ほか多数

4. 保管遺物等の貸出・写真等の掲載及び閲覧許可

資 料 名	申 請 者	目 的	期 間	許可日
天白遺跡出土遺物の閲覧	兵庫県教育委員会	調査研究	4/19	4/15
安濃町大塚1号墳出土須恵器実測図	田中秀和	『Mie history』第5号への掲載		4/26
納所遺跡・東庄内遺跡出土弥生土器の閲覧	弥生時を語る会	調査研究	5/22,23	5/12
東庄内B遺跡出土資料等2点の複製	四日市市博物館	常設展示での使用	5/14~ 7/31	5/11
城之越遺跡遺構写真3点	環境緑化新聞社	『環境緑化新聞』への掲載		5/20
柴崎遺跡出土朱壺中の赤色顔料の採集	古代再現考古学研究所	調査研究	5/24	5/21
西出遺跡出土土器写真等1点	美里村教育委員会	『美里村史』への掲載		5/28
大鼻遺跡遺構写真1点	雄山閣	『季刊 考古学』第44号への掲載	5/28	
大鼻遺跡出土資料等の閲覧	足助資料館	調査研究		5/27
東庄内B遺跡出土資料の閲覧	豆谷和之	調査研究	6/1	6/1
勝地大坪古墳遺構写真等20枚	青山町教育委員会	学級講座「郷土歴史教室」でのスライド上映	6/17	6/11
上椎ノ木古墳出土四獣鏡写真2点	フジ・テクノシステム	『美術工芸品の保存と保管』への掲載		6/22
北野遺跡出土資料の閲覧	加藤伸也	調査研究	6/23	6/16
堀ノ内遺跡出土縄文土器等2点	松阪市歴史民俗資料館	特別展「古代からの使者」での展示	6/25~ 11/10	6/25
橋門遺跡遺構写真等10点	鈴鹿市教育委員会	「鈴鹿市文化財展」におけるパネル紹介及びパンフレットへの掲載	8/15~ 8/22	6/22
松ノ木遺跡土層断面図の閲覧	青木哲哉	調査研究	7/7	7/7
納所遺跡出土石器の閲覧	袋井市教育委員会 松井一明	調査研究	7/13	7/13
城之越遺跡遺構写真等3点	三重県広報課	『県政ガイドMIE'93』への掲載		7/7
大石遺跡出土縄文土器等のスライド撮影	多気郡教育研修会	社会科授業での使用	8/4	8/2
天白遺跡出土石器	木下 明	調査研究	8/6	8/6
上椎ノ木古墳出土鏡写真等7点のデュープ	四日市市博物館	常設展示における使用	8/3	
天白遺跡出土石器20点	栃木県立博物館	企画展「選ぶ・割る・磨くー旧石器時代から古墳時代までの人と石のかかわり」での展示	9/27~ 12/11	8/12

資 料 名	申 請 者	目 的	期 間	許可日
長法寺4号墳出土資料等	鈴鹿市教育委員会	「鈴鹿市文化財展」におけるパネル紹介及びパンフレットへの掲載	8/15～ 8/22	8/12
楠ノ木遺跡出土資料の閲覧	奥 義次	玉城町史執筆のため	8/16	8/16
桑名城跡の航空写真	桑名市教育委員会	「桑名城跡保存管理整備基本計画書」への掲載		8/27
伊賀国府跡のカラーサイドフィルム	市原市教育委員会	特別講演会「まぼろしの上総国府をもとめて」での使用	9/11	9/7
天白遺跡出土土偶等5点	斎宮歴史博物館	特別展「斎宮をめぐる文化—巫女の文化」での展示	10/10～ 11/23	9/8
北切遺跡出土土器実測図	石黒立人	「考古学フォーラム 4号」への掲載		9/8
城之越遺跡写真	辰巳和弘	「地域王権の古代学」への掲載		9/13
明気1号窯、窯体のサンプリング	(株)京都フィッシュン・トラック	調査研究		9/14
下郡遺跡出土土ノ葉型鋸等2点	安来市教育委員会	秋期企画展「匠の道具箱」での展示(和鋼博物館)	10/7～ 11/9	9/22
蚊山遺跡出土鍋等9点	葛飾区郷土と天文の博物館	特別展示「下町・中世再発見」での展示	10/18～ 12/18	9/24
中楽山遺跡出土資料閲覧	村木 誠	報告書作成のため	9/22	9/22
城之越遺跡遺構写真6点	讀賣新聞大阪本社	新聞解説面での使用		10/28
ヒタキ廃寺出土瓦等76点及び写真5点	名古屋市立博物館	特別展「発掘された東海の古代」での展示	3/5～ 4/10	10/28
西殿遺跡出土土壺等15点及び写真1点	皇學館大学考古学研究会	倉寮祭「古代の志摩国」での展示	10/31～ 11/3	10/25
北切遺跡出土弥生土器等の閲覧	深澤芳樹	調査研究	10/25	10/25
川原井瓦窯跡出土押印文字瓦拓本等2点の掲載	大川 清	「本邦古代文字瓦塼の研究」への掲載		11/8
井田川茶臼山古墳出土銅鏡等3点の撮影	亀山市教育委員会	亀山市歴史民俗資料館(仮称)常設展示室内映像展示での使用	11/15	11/8
六大B遺跡出土和銅開珎銀銭等2点	奈良国立文化財研究所	特別展「古代の金属生産と古代金工の世界」での展示	10/20～ 11/30	10/18
天白遺跡出土土器の閲覧	高柳圭一	調査研究	12/6	12/6
釜生田遺跡出土縄文土器等の閲覧	松本和男他2名	調査研究	12/9	12/9
納所遺跡出土琴形木製品等写真2点の掲載	安土城考古博物館	平成6年度春季特別点での使用		12/15
六大B遺跡遺構写真6点	(株)人間社	建設省広報誌「いきいき中部」への掲載		12/15
鴻ノ木遺跡遺構写真1点	(株)大巧社	「倭人・クマソ・天皇—森浩一の語る古代の日本1」への掲載		12/15

資 料 名	申 請 者	目 的	期 間	許可日
六大B遺跡遺構写真等3点	津市教育委員会	リーフレット「津の歴史散歩ガイド⑦」への掲載		12/24
城之越遺跡遺構写真5点	大阪府教育委員会	大阪府近つ飛鳥博物館静止映像資料での使用	12/24	
井田川茶臼山古墳出土鏡等2点	磯部町立図書館・郷土資料館	企画展「粧ひ」での展示	2/ 1～ 2/27	1/17
明気窯跡群遺構写真1点	三重県社会科教育研究会	中学校歴史資料集「三重県版ビジュアル歴史」への掲載		1/17
大鼻遺跡出土土偶のレプリカ作成	亀山市教育委員会	亀山市歴史民俗資料館（仮称）常設展示での使用	12/20	12/17
中ノ庄遺跡遺構・遺物写真4点	三雲町	松浦武四郎記念館における展示パネルへの使用		2/23
井田川茶臼山古墳出土馬具等の閲覧	梅沢重昭	調査研究	3/ 4	3/ 3
大鼻遺跡出土土器の閲覧	岐阜県埋蔵文化財センター	報告書作成	3/ 2～ 3/ 3	2/28
大鼻遺跡出土土器等15点及び写真6点	柏原市歴史資料館	平成6年度企画展「縄文時代のはじまるころ」での展示	6/18～ 8/14	3/10
城之越遺跡遺構写真3点	二上山博物館	特別展「再現・葛城氏の豪族居館－王権の盛衰と没落－」での展示	4/29～ 6/12	3/ 9
納所遺跡出土資料写真等40点	(株)郷土出版社	「津・久居の歴史」への掲載		3/18

5. 保管遺物の長期貸出

当センターでは、今年度より、期間を1年とした長期貸出を行っている。期間は4月1日～3月31日までとし、更新も可能である。

資 料 名	申 請 者	目 的	許可日
起A遺跡出土弥生土器及び炭化米	鈴鹿市教育委員会	稲生民俗資料館での常設展示に使用	8/ 2
多気遺跡群出土瓦等13点	美杉村教育委員会	美杉ふるさと資料館での常設展示に使用	10/ 1
落川原遺跡出土石帯1点	四日市市立博物館	常設展示での使用	10/ 5

6. 齋宮歴史博物館展示品協力遺物一覧

遺跡名	遺物名
大安中世墓	蔵骨器(3)、蔵骨器蓋(2)、五輪塔(1式)
丹生川上城跡	蔵骨器(1)
西ヶ広遺跡	異形硯(1)
東庄内A遺跡	縄文土器：深鉢(1)
東庄内B遺跡	縄文土器：台付鉢(1) 壺棺墓：壺(1) 甕(1) 台付鉢(1) 方形周溝墓出土：壺(1) 石器：石包丁(1)
上箕田遺跡	直柄鋤(2)
神大寺遺跡	石器：石斧(1)
川原井瓦窯	伊勢国分寺式軒丸瓦(1) 軒平瓦(1)
川原井遺跡	灰釉陶器：浄瓶(1)
柴崎遺跡	土製勾玉(1)、朱(1)、土師器：壺(1)
大鼻遺跡	土偶(1)、子持勾玉(1)
井田川茶臼山古墳	須恵器：器台(5) 台付壺(4) 壺(7) 甕(1) 裝飾台付壺(1) 甕(1) 有蓋高杯(2) 有蓋高杯蓋(2) 土師器：壺(1) 馬具：杏葉(4) 鏡板(2) 辻金具(2) 銅鈴(1)
上椎ノ木古墳	四神鏡(1)、石製壺(1)、石釧(1)、勾玉(5)、管玉(34)
木下古墳	獸帯鏡(1)
柳垣内遺跡	蔵骨器(1)
大塚古墳	水晶切子玉(1) 管玉(4)
浄土寺南遺跡	円面硯(1)
納所遺跡	弥生土器：彩文壺(1) 黒色壺(1) 手焙型土器(1) パイプ型土器(1) 壺(1) 片口鉢(1) 台付壺(1) 木製品：琴(1) 篋状木製品(1) 木鐸(1) 斧の柄(2) 鋤(4) 鋤(2) 直柄鋤(1) 櫛(1) 石器：石斧(6) 石包丁(4) 石小刀(3) 双脚壺(1) 銅鐸型土製品レプリカ(1)
亀井遺跡	銅鐸型土製品レプリカ(1)
太田遺跡	方形周溝墓：壺(1)
鳥居本遺跡	瓢壺(1)
午前坊遺跡	縄文土器：深鉢(1)
堀ノ内遺跡	塑像(1)、埴仏(20)、軒丸瓦(1)、軒平瓦(1)、へら描き軒平瓦(1)
天華寺廃寺	線刻磔(1)
東野遺跡	円面硯(1)
堀田遺跡	馬型埴輪(1)、朝顔形埴輪(1)、人物埴輪(1)
中ノ庄遺跡	石器：石包丁(1) 木製品：人形(2) 櫛(1) 斎串(1)
杉垣内遺跡	土馬(4)、ミニチュア土器：壺(7)
伊勢寺廃寺	軒丸瓦(1)、軒平瓦(1)
深長古墳	土師器：壺(1)
横尾墳墓群	経筒容器(2)、経筒容器蓋(1)、五輪塔(1)、石仏(1)
養徳寺遺跡	柿経(1式)
崎谷遺跡	五輪塔(1)、石仏(2)
牧瓦窯	軒丸瓦(1)、軒平瓦(1)
牧中世墓	石仏(1)
河田古墳群	土師器：高杯(3) 甕(1)、須恵器：杯蓋(2) 杯身(2) 高杯(2) 壺(3)
東裏遺跡	土師器：杯「中臣」(1) 椀(1) 青磁：椀(1)
カウジデン遺跡	土馬(1) 土師器：杯「中万」(2)、灰釉陶器杯「中万」(1) 黒色土器：椀(1)
神前山古墳	円筒埴輪(1)、須恵器：二重甕(1) 鳥形甕(1)
寺垣内遺跡	独鈷石(1)
西出遺跡	土板(1)
大藪遺跡	方形周溝墓：壺(1)
樋ノ谷遺跡	珠状耳飾(1)
東畑中世墓	蔵骨器(2)
東山古墳	土師器：高杯(1) 器台(1)、四獣鏡(1)、銅鏃(3)、鉄斧(2) 鉄剣(1)
北掘池遺跡	木製品：槌(1) 鋤(3) 剣型木製品(1) 舟型木製品(2)、円面硯(1)
北切遺跡	方形周溝墓：壺(1)
前山古墳	銀象嵌刀装(2)
小上野西谷遺跡	土製勾玉(1)
歌野遺跡	製塩土器(2)
辻垣内遺跡	縄文土器深鉢(1)

V. 行政資料

1. 文化庁通知「埋蔵文化財関係の事務処理の迅速適正化について」

庁保記第74号

平成5年11月19日

各都道府県教育委員会教育長 殿

文化庁長官 内田弘保

埋蔵文化財関係の事務処理の迅速適正化について (通知)

埋蔵文化財関係の事務処理の迅速適正化を図るため、文化財保護法（昭和25年法律第214号。以下「法」という。）第57条の規定による埋蔵文化財の発掘調査に関する届出等については、平成6年1月1日以降、下記Ⅰのとおり取り扱うこととしますので、貴教育委員会におかれては、下記Ⅱの事項に留意の上、事務処理に遺漏のないようよろしくお取り計らいください。

記

Ⅰ 事務処理の内容

- (1) 法第57条第1項の規定による発掘調査の届出があった場合、貴教育委員会において、次のとおり措置すること。
 - ① 届出に係る発掘調査の計画内容が適切である場合は、届出を行った者に対して、
 - ア) 発掘調査の結果については報告書を作成し提出することとし、報告書作成に長期間を要する場合は、発掘調査終了後6カ月内に調査結果の概要を記した書面を提出すること。
 - イ) 発掘調査の期間、調査体制、調査内容等に変更があった場合は直ちに報告すること。
 - ウ) 遺失物法等による出土品の取扱いを適切に行うべきこと。等を、別紙様式1を参考にして、指導すること。
 - ② 届出に係る発掘調査の計画内容が適切でない場合は、届出を行った者に対し適切でない事項については是正を求め、その上で上記①の措置を執ること。
届出を行った者が是正指導に応じない場合は、その旨を明記して届出書類を当庁へ進達すること。
- (2) 上記(1)の取扱いをした事案に係る届出書類は、3カ月ごとにまとめ、別紙様式2による総括表を付して、当庁あて送付すること（上記(1)、②において、届出書類を当庁あてに進達した場合を除く。）。

II 留意事項

1. 発掘調査の計画について

発掘調査の計画については、調査の目的、対象の埋蔵文化財の内容及び調査の規模、調査体制、調査期間等について適切な発掘調査であるかどうかを判断すること。

なお、埋蔵文化財保護の観点から、調査対象範囲や調査方法等が適切であるかどうかについても留意すること。

2. 調査主体者及び調査担当者について

(1) 届出書に調査主体者として記載されている個人又は組織については、計画されている発掘調査全体を適切に遂行し、完了させることができる能力を有し、責任を負うことができるものであるかどうかを判断すること。

(2) 届出書に発掘調査担当者として記載されている者については、専門的知識・技術・経験の上で、その発掘調査の対象となる遺跡を発掘調査するに十分な能力を有し、かつ、発掘調査の現場と作業を掌握して発掘調査の全行程を適切に進行させることができるものであるかどうかを判断すること。

(3) 複数の届出において、同一個人又は組織が期間の重複する複数の発掘調査において調査主体者又は調査担当者として記載されている場合は、それぞれの発掘調査計画を対比し、それら全ての発掘調査が適切に遂行されるかどうかについて判断すること。

3. 出土品の取扱いに関する指導について

出土品については、その散逸等を防ぐため、可能な限り地方公共団体その他の公共的機関が一括して保存できるよう指導すること。

4. その他

大学等が研究活動として行う発掘調査に係る届出に対する指導等は、発掘調査が学術研究活動として行われるものであることに留意すること。

2. 文化庁通知「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化について」

庁保記第75号

平成5年11月19日

各都道府県教育委員会教育長 殿

文化庁長官 林 田 英 樹

埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化について

(通知)

標記のことについては、昭和56年7月24日付け庁保記第17号及び昭和60年12月20日付け庁保記第102号で通知したところであり、貴教育委員会、貴管下各市町村教育委員会及び関係機関の御努力により逐次必要な措置が講じられているところでもあります。

しかし、近年、埋蔵文化財に係わる開発事業は増加の一途をたどっており、これに伴う発掘調査に

についてはさらに一層その円滑な実施が求められております。

については、上記の通知の趣旨の徹底を図るとともに、特に下記の各事項について適切な措置を講ずるようお願いします。

おって、貴管下各市町村教育委員会に対し、この趣旨を徹底するとともに適切に御指導くださるようお願いいたします。

記

1. 基本的事項

- (1) 埋蔵文化財の保護については、重要な遺跡の保存、行政の体制整備、調査方法の改善等必要な施策の積極的推進に努めること。
- (2) 開発事業の事業者その他の関係者に対しては、埋蔵文化財の保護の趣旨を十分説明し、その理解と協力を基本として開発事業との調整、発掘調査その他の措置を講ずること。
- (3) 埋蔵文化財の保護の施策については、広く国民の理解を求め、その協力によって進めることが肝要であることにかんがみ、広報活動等につき適切に措置すること。

2. 埋蔵文化財包蔵地の所在状況の把握とその周知の徹底

埋蔵文化財包蔵地の範囲、性格等を明示した遺跡台帳、遺跡地図については、都道府県教育委員会の指導の下に、原則として市町村教育委員会において、今後さらに試掘調査・科学的探査等を活用して精度を高めるよう措置すること。

3. 開発事業との調整

- (1) 開発関係部局等との間においては、定期的な連絡調整の機会を設けるなど連携を密にし、開発事業計画の早期把握に努めること。
- (2) 事業者との調整は、当該事業に関する他の行政上の指導や手続きと並行して迅速に行い、適宜、事業者に対し必要な事項を明確に説明してその十分な理解を得ること。
- (3) 開発事業計画との調整上必要な埋蔵文化財包蔵地の範囲・性格等の把握が不十分な場合の試掘調査は、事業実施段階で新たな遺跡発見等による再調整や調査計画等の大幅な変更等の事態を招かないように、それぞれの遺跡等の内容・現況等に即して適切な位置・範囲を対象として行うよう十分留意すること。

なお、周知の埋蔵文化財包蔵地とされていない地域について埋蔵文化財の存在を把握するために試掘調査等を行う場合については、事業者等の十分な理解を得ておくこと。

- (4) 開発事業に伴う発掘調査に要する経費や期間の算出については、各地方ブロックごとに標準的な積算基礎を定めてこれに準拠するよう努めることとし、事業者等に対しては具体的な算出根拠等について十分説明すること。
- (5) 事業者との調整の経過については逐次記録し、調整の結果は協定書等にまとめること。

4. 発掘調査の実施

- (1) 開発事業に伴い埋蔵文化財の記録保存のために行う発掘調査は、原則として次のような場合に、必要な範囲について行うものであるので、具体的な各事例に即して適切に対処すること。

- ① 工事による掘削が埋蔵文化財に及ぶ場合
- ② 恒久的な建築物、道路その他の工作物を設置する場合
- ③ 盛土、一時的な工作物の設置等で、それが埋蔵文化財に影響を及ぼす虞のある場合

なお、盛土等が上記③に該当し発掘調査を必要とする場合に当たるか否かについては、各地

方ブロックごとに、埋蔵文化財の種類・内容・現況等に対応した一定の標準を設定し、これに準拠して各具体的な遺跡等の状況を把握の上、判断することとする。

- (2) 効率的な調査のため、調査区の適切な設定、土木機械・測量機器の導入、遺跡の性格等に応じた適切な調査体制の編成等に配慮するとともに、事業者との連絡を密にし、調査の行程、進行に支障のない限り工事が並行して実施できるよう工夫すること。

5. 教育委員会の指導等

発掘調査期間・経費等に関する事業者との調整、調査の進行に関する指導、調査結果に基づく措置の判断等は、文化財保護行政として行いものであるから、発掘調査が地方公共団体以外の法人、調査会等によって行われる場合にあっても、各地方公共団体の教育委員会において状況等を的確に把握するとともに発掘調査主体者との連絡を密にし、適切に指導等を行うこと。

6. 調査体制等の充実

発掘調査その他の埋蔵文化財行政の充実を図るため、今後とも、担当職員の充実、その資質向上のための研修、公立埋蔵文化財センター・出土文化財管理センターの整備等の施策を進めるとともに、発掘調査の需要に対し機動的・弾力的に対応できるよう、地域の実情に応じ、地方公共団体等間の専門職員の派遣等の措置に努めること。

3. 県、市町村別の発掘調査件数および面積の実績

(昭和45～63年度分は『三重県埋蔵文化財センター年報4』参照)

		県 関 係				市 町 村 関 係								合 計
		は場整備・農道等	道路・河川等	その他	小 計	土地改良等	道路・河川等	ゴルフ場	団地・個人住宅	工場造成地	土取り等	その他	小 計	
平成	件数	33	21	1	55	3	12	1	13	4	3	15	51	106
元年度	面積	33,300	80,400	4,400	118,100	1,800	15,900	300	30,500	6,800	3,400	16,200	74,900	193,000
平成	件数	30	32	1	63	9	9	2	20	10	5	13	68	131
2年度	面積	33,300	53,700	4,300	91,200	16,900	19,700	3,500	27,900	15,400	8,000	17,300	108,700	199,900
平成	件数	28	15	1	44	9	14	2	40	13	0	14	92	136
3年度	面積	29,300	24,700	4,000	58,000	13,700	10,100	10,200	51,800	12,400	0	9,800	108,000	166,600
平成	件数	44	41	9	94	6	13	4	38	17	3	28	109	203
4年度	面積	29,800	24,000	4,000	57,800	13,700	14,000	15,600	15,400	45,200	500	8,000	112,400	170,200
平成	件数	63	51	15	129	15	12	0	29	7	3	35	101	230
5年度	面積	25,300	33,500	6,200	65,000	15,200	13,300	0	20,000	22,000	200	20,000	90,700	155,700

※ 同一遺跡を調査した場合も、調査期間・原因が異なる場合は別件とした。

4. 平成5年度 新発見遺跡一覧

県（埋蔵文化財センター）担当分

NO	遺跡名	種類	時期	所在地	発見の経緯
1	大垣内遺跡	集落跡	古墳～平安	津市大字窪田町字池ノ下	発掘調査(県道)
2	小牧南遺跡	遺物散布地	不明	四日市市小牧町	分布調査(第2名神)
3	菅生遺跡	集落跡	弥生	松阪市菅生町	試掘調査(県道)
4	菅生遺跡	糸里遺構	弥生～鎌倉?	松阪市菅生町	試掘調査(県道)
5	井戸地遺跡	遺物散布地	奈良～鎌倉	上野市土橋字井戸地	試掘調査(県道)
6	森の前川古墳	古墳	古墳	上野市比自岐	分布調査(広域農道)
7	地蔵川古墳群	古墳	古墳	上野市比自岐	分布調査(広域農道)
8	久保遺跡	遺物散布地	鎌倉～室町	上野市土橋字久保	試掘調査(県道)
9	北出遺跡	遺物散布地	奈良～鎌倉	上野市土山神字北出	試掘調査(県道)
10	馬別当橋南方古墳	古墳	古墳	上野市比自岐	分布調査(広域農道)
11	火山遺跡	遺物散布地	鎌倉～室町	上野市土山神字火山	試掘調査(県道)
12	西横尾遺跡	遺物散布地	鎌倉	上野市安場字西横尾	分布調査(国道)
13	馬別当橋北方遺跡	遺物散布地	鎌倉	上野市比自岐	分布調査(広域農道)
14	石薬師東26号墳	古墳	古墳	鈴鹿市石薬師町字寺東	試掘調査(県立消防学校)
15	小社遺跡	遺物散布地	中近世	鈴鹿市小社	分布調査(第2名神)
16	石佛東遺跡	集落跡	古墳～江戸	員弁郡大安町大字南金井字石佛東	試掘調査(県道)
17	玉垣内遺跡	集落跡	旧・縄・鎌～江戸	員弁郡藤原町大字山口字玉垣内	試掘調査(県道)
18	棕ノ木遺跡	遺物散布地	江戸?	三重郡菟野町大字池底字棕ノ木	分布調査(第2名神)
19	細野遺跡	遺物散布地	鎌倉～室町	安芸郡美里村北長野字細野	立合調査(県道)
20	風呂ノ谷遺跡	遺物散布地	鎌倉～室町	安芸郡美里村北長野字風呂ノ谷	立合調査(県道)
21	大洞遺跡	遺物散布地	鎌倉～室町	安芸郡美里村北長野字大洞	立合調査(県道)
22	小屋城古墳群	古墳	古墳	安芸郡安濃町南神山	試掘調査(県道)
23	東川遺跡	集落跡	縄・弥・古～鎌倉	一志郡美杉村大字八知字東川白幌	発掘調査(畜産環境整備事業)
24	四疋田条里遺構	糸里遺構		多気郡多気町四疋田	分布調査(畜産環境整備事業)
25	四疋田遺跡	遺物散布地	鎌倉～室町	多気郡多気町四疋田	分布調査(畜産環境整備事業)
26	松葉遺跡	遺物散布地	鎌倉～室町	多気郡勢和村波多瀬小字松葉	試掘調査(県道)
27	馬場遺跡	遺物散布地	不明	多気郡勢和村波多瀬小字馬場	試掘調査(県道)
28	大野北遺跡	遺物散布地	鎌倉～室町	度会郡度会町田口字大野北・森ノ前	分布調査(県道)
29	奇良田遺跡	遺物散布地	室町	度会郡度会町田口字奇良田	試掘調査(県道)
30	沖ノ下遺跡	遺物散布地	室町	度会郡度会町田口字沖ノ下	試掘調査(県道)
31	中村遺跡	遺物散布地	室町	度会郡度会町田口字中村	試掘調査(県道)
32	愛田城跡	城跡	室町	阿山郡伊賀町愛田	分布調査(広域農道)
33	高寺遺跡	遺物散布地	鎌倉～室町	名賀郡青山町伊勢路字高寺	試掘調査(県道)
34	六地藏c遺跡	遺物散布地	鎌倉～室町	名賀郡青山町伊勢路字六地藏	試掘調査(県道)
35	勝地中世墓群	塚	室町	名賀郡青山町勝地・妙楽寺字大坪～砂田	発掘調査(県道)
36	久保遺跡	集落跡	鎌倉	名賀郡青山町伊勢路字久保	立合調査(県道)
37	川南D遺跡	集落跡	古・鎌～室町	名賀郡青山町勝地字川南	発掘調査(県道)

市町村担当分

NO	遺跡名	種類	時期	所在地	発見の経緯
1	向山遺跡	集落跡	縄文～古墳	津市高茶屋小森町字向山1707	試掘調査
2	西野古墳群	古墳	古墳	四日市市南小松町	発掘調査
3	(仮)山口遺跡	遺物散布地	古墳?	松阪市井口中町山口	試掘調査、調査中
4	垣鼻5号墳	古墳	古墳	松阪市田原町本里	分布調査
5	若林遺跡	遺物散布地	中世	桑名市大字蓮花寺字若林	試掘調査
6	鳥居出2号墳	古墳	古墳7C前半	上野市西高倉2046	土木工事中
7	大北東城跡	城館跡	中世	上野市蓮池字大北	分布調査
8	中坂東館跡	城館跡	中世	上野市佐那具町字中坂2330-1	分布調査
9	平塚内2～3号墳	古墳	古墳	上野市長田字平塚内2587-12	試掘調査
10	徳居33.34号窯跡	窯跡	古墳	鈴鹿市郡山町字西高山	発掘調査
11	ドガイト遺跡	集落跡	縄文～中世	名張市葛尾字ドガイト	分布調査
12	下垣内遺跡	集落跡	中世	名張市下比奈知字下垣内	分布調査
13	庄田9号墳	古墳	古墳	久居市庄田町字大澤1405	工事中
14	溜城跡	城館跡	中世	桑名郡多度町下野代字溜	分布調査
15	山添遺跡	遺物散布地	縄・弥・中世	安芸郡安濃町大字清水	発掘調査
16	西相野遺跡	遺物散布地	縄・古・江戸	安芸郡安濃町大字草生	発掘調査
17	権木谷城館(仮)	城館跡	中世	安芸郡美里村北長野字権木谷他	分布調査
18	中野遺跡	集落跡	縄文	多気郡大台町下管	分布調査
19	浜井場遺跡	集落跡	縄文	多気郡勢和村古江字浜井場	分布調査
20	柏尾大道下遺跡	集落跡	縄文	多気郡宮川村園	分布調査
21	東明寺跡	寺院跡	中世	阿山郡阿山町東湯船字城ノ谷	分布調査
22	宮田氏城跡	城館跡	中世	阿山郡阿山町丸柱字宮田山1	分布調査
23	龍山古墳	古墳	古墳	阿山郡阿山町馬田字漆谷	分布調査
24	木津氏館	城館跡	中世	阿山郡阿山町玉滝字鈴鹿7786	分布調査
25	北出城跡	城館跡	中世	阿山郡阿山町音羽字北出	分布調査
26	伊東氏館	城館跡	中世	阿山郡阿山町東湯船字城ノ谷1611-1	分布調査
27	普賢院裏山遺跡	古墳?	古墳?中世	阿山郡阿山町玉滝字鈴鹿	分布調査
28	沢代遺跡	集落跡	弥生～奈良	名賀郡青山町阿保字沢代279他	試掘調査
29	砂音寺山城館	城館跡	中世	志摩郡阿児町甲賀	分布調査

〔付1〕平成5年度 三重県文化財調査員名簿

地区	氏名	勤務地	住所
北勢	片山清川 桐鎌鈴荒安 岡崎水添生田木木川 雅恒弘 定雅克昌富 章哉之讓己生彦俊春	川桑東桑中菰桑笹 越北二高 越北二高 衛生看護分 北二高 西東 名高 校衛 生部 野 名高 校衛 生部 野 名高 校衛 生部 野	高高中 校中 中高 小
中勢	河高下井三津小 合森村藤浦村坂 良英純正儀善宜 成純也文直博広	戸三成川嬉南 木雲美口野 が丘	小中小 小中 中
松阪	榎増田稻筒三斎奥 本田中本居井藤 義安伸賢利博 義 讓生之治久之実次	明松多飯 伊松 阪高勢 和氣 阪 三西寺 館曾	中小中 中 小高
南志	中西高御中村山角小北河 西馬見村古上崎谷谷島瀬 正千宜精一喜富泰定充信 典鶴雄治芳雄郎弘男生幸	玉皇安度宿甲 北有玉小 城乘会 賀 浜絹城侯 学田 賀 濱絹城侯	中高小 中小 小 中
上野	市福仁松寺森岡内竹谷 田井保月岡前島保内戸 進健晋茂光 久隆英 一二作明三稔夫幸雄実	河名島赤比 合張目 原知 ヶ奈	小 中小 小 小
尾鷲	東山 本 成和 志彦 弘均薫	三長 船島	中高
熊野	田古花 中部尻 安	阿尾 和呂 田志	小小

平成5年度

三重県埋蔵文化財年報 5

1994.3

編集 三重県埋蔵文化財センター
発行
印刷 光出版印刷株式会社
